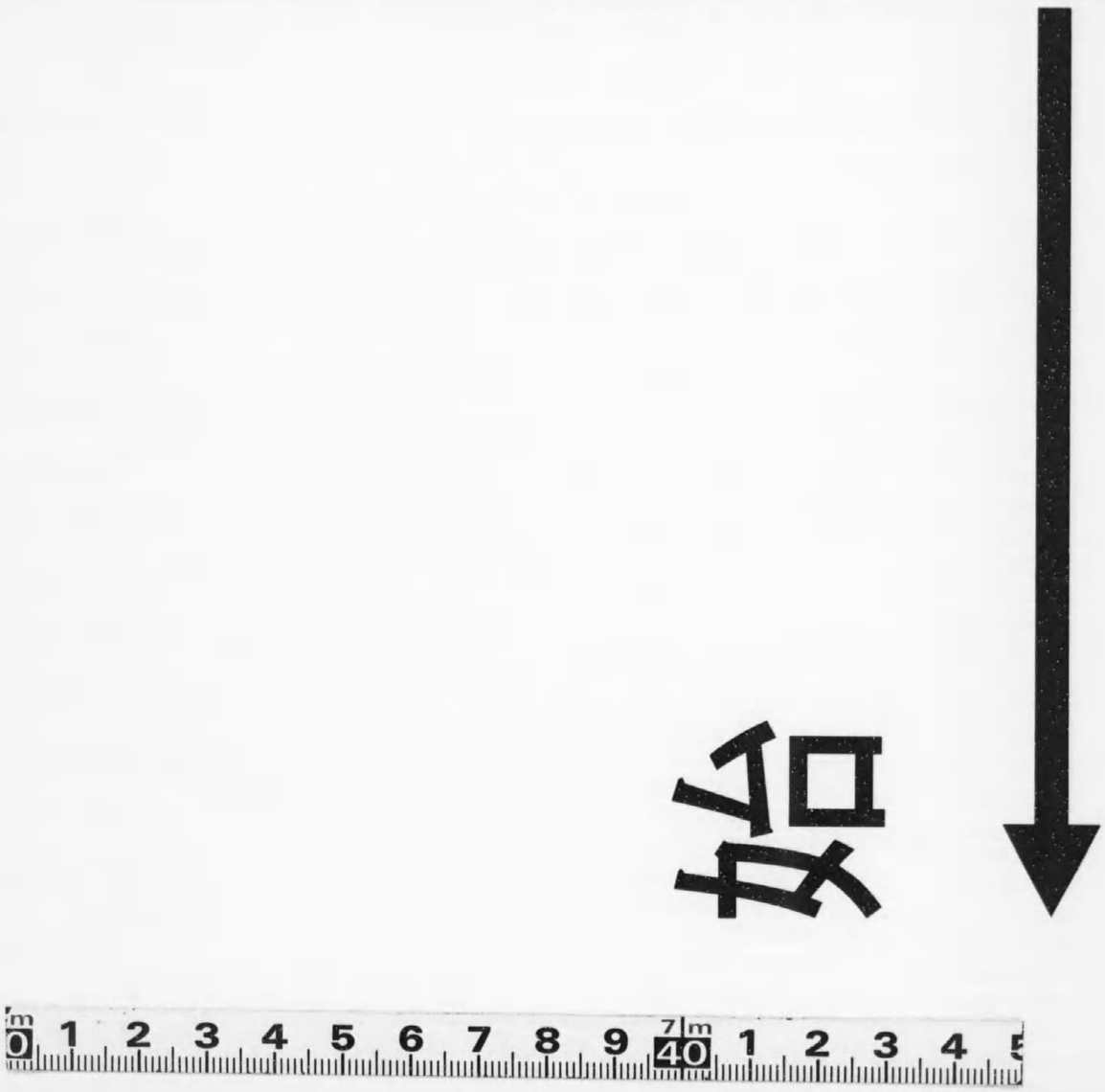


518
75=

518
75=

神戸港大觀

神戸港大觀

神戸市役所

大正
15. 9. 20
寄贈

發行所寄贈本

518-75

緒言

本書は主として大正十四年中に於ける神戸港の統計調査を叙述したるものにして、蕪辭其の意を盡さゞる所あるも、復以て關係者の參考たらむ乎。幸に一讀を乞ふ。

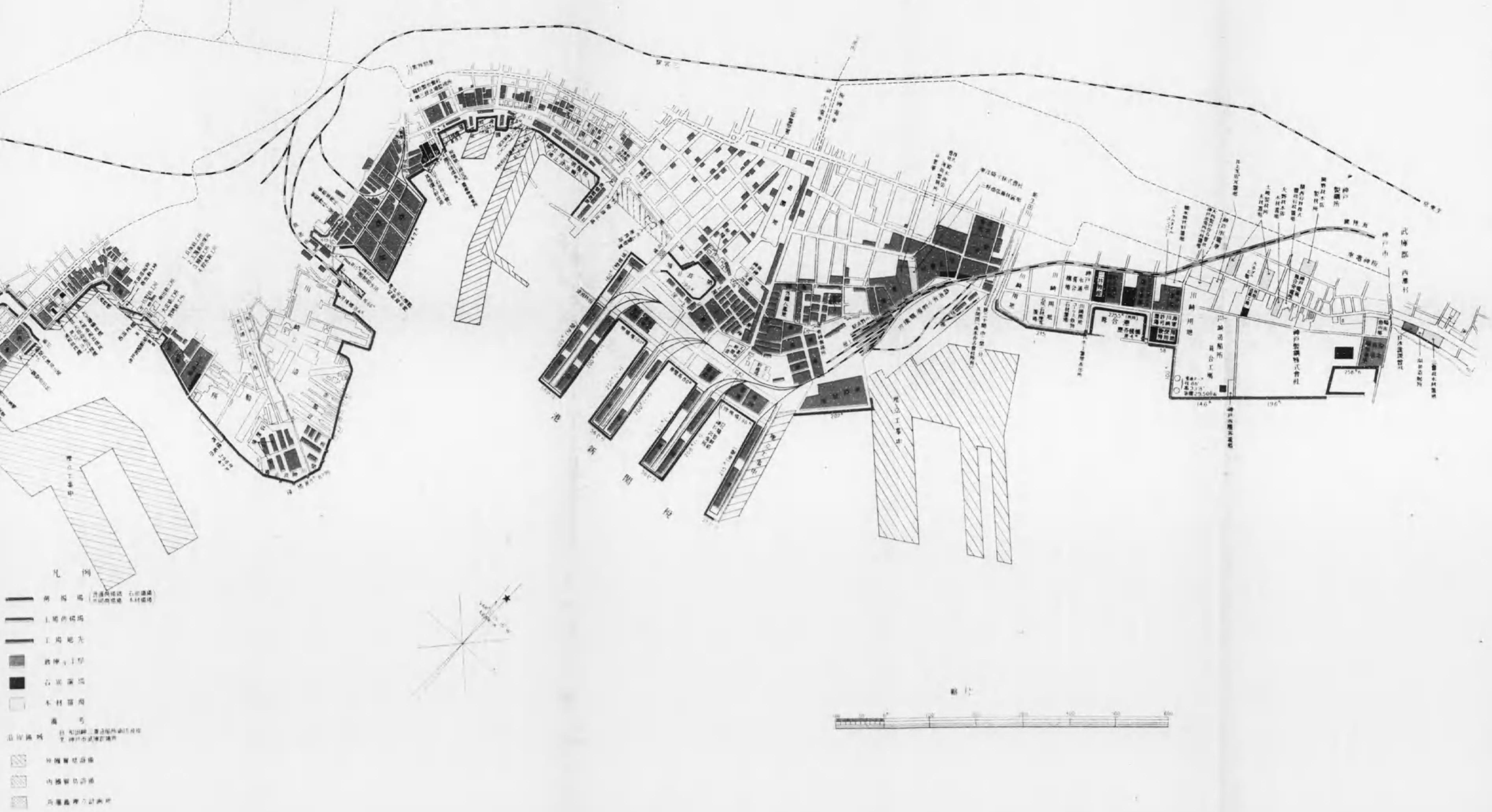
大正十五年九月

神戸市港灣部

露光量違いの為重複撮影

神戸港沿岸利用状況調査圖

大正十四年



露光量違いの為重複撮影

神戸港沿岸利用状況調査圖

大正十四年

露光量違いの為重複撮影

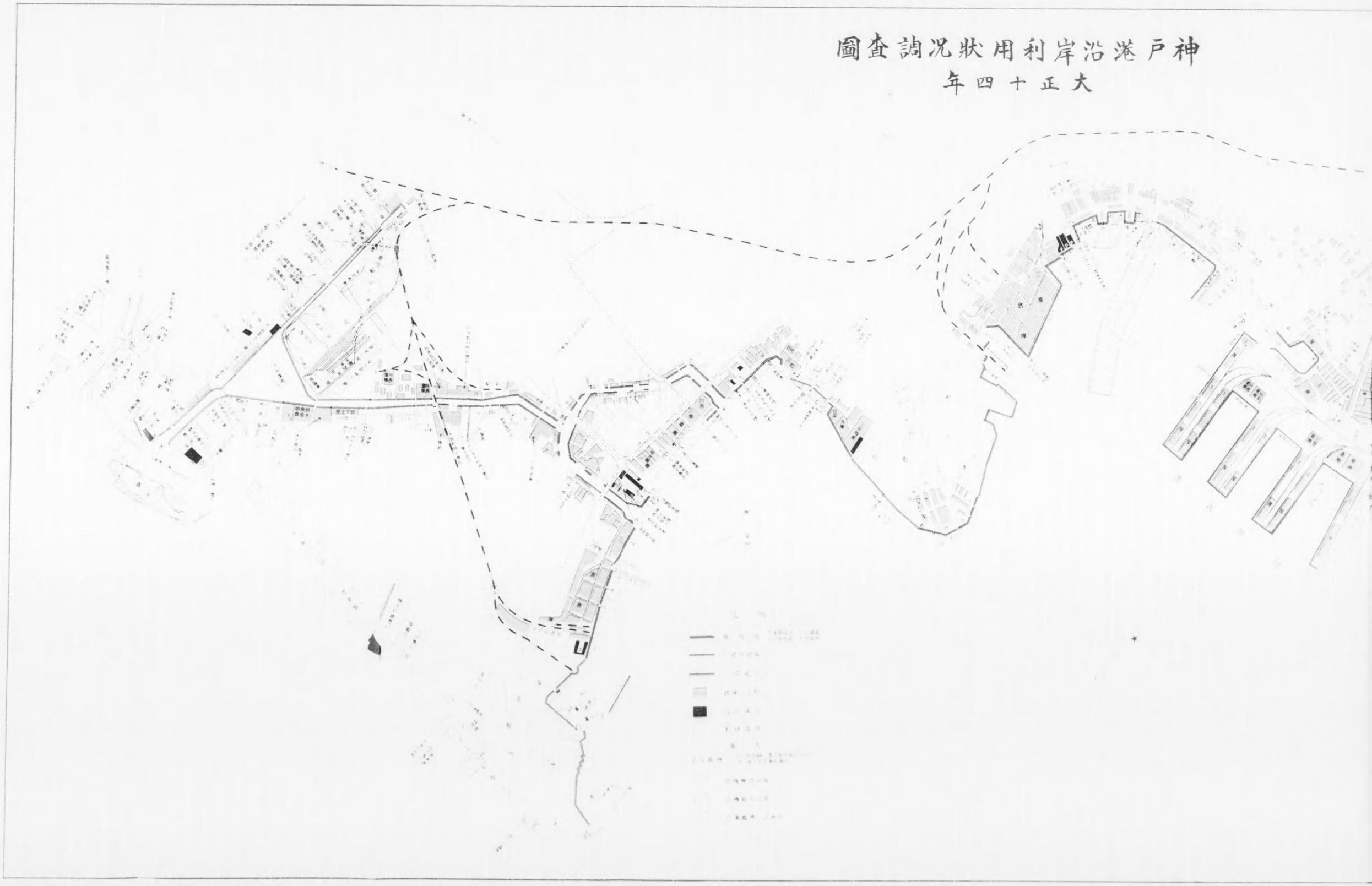
神戸港沿岸利用狀況調査圖

大正十四年

露光量違いの為重複撮影

神戸港沿岸利用状況調査圖

大正十四年



神戸港大觀

目次

第一章　沿岸利用狀況……一
第二章　港內諸設備……一三
　第一節　外國貿易設備……一三
　第二節　內國貿易設備……二三
　第三節　工費……二九
第三章　荷役狀況と船車聯絡……三三
　第一節　荷役狀況……三三
　第二節　船車聯絡……四〇
第四章　運河及國產波止場……四三

第一節　運河……四三
第一款　沿革……四三
第二款　設備と其利用……四四
第三款　市營後の概況……四四
第四款　舟筏入津の狀況……四八
第二節　國產波止場……五一
第一款　沿革の概要……五四
第二款　市營後の狀況……五五
第五章　船舶……六一
第一節　沿岸通航船の觀察……六一
第二節　外國貿易船の觀察……六五
第六章　貨物……七一
第一節　外國貿易……七一
第一款　外國貿易概觀……七一
第二款　輸出入品價額及數量……七七

第三款　輸出入品の變遷……八五
第四款　通商國の變遷……一〇〇
第五款　仲繼貨物……一〇六
第二節　內國貿易……一一一
第一款　內國貿易に於ける神戸港の地位……一一一
條二款　內國貿易概觀……一一四
第三款　內國貿易と地方別との關係……一一三
第四款　沿岸貿易……一二九
第三節　朝鮮貿易……一三七
第七章　倉庫……一四九
第一節　倉庫の概況……一四九
第二節　普通倉庫及出入貨物……一五〇
第三節　保稅倉庫及出入貨物……一五三
第四節　假置場及出入貨物……一五七
第五節　上屋及出入貨物……一六二

第八章 陸運の概況……一六七
第一節 汽車……一六七
第二節 電車……一八二
第九章 金融……一八五
第一節 金融の概況……一八五
第二節 銀行……一八八
第三節 神戸手形交換……一九三
第十章 物價の概況……一九五
第十一章 氣象及潮位……二〇七
第一節 氣象……二〇七
第二節 潮位……二一〇
「附」苅藻島……二一三
第一節 苅藻島の埋築……二一三
第二節 苅藻島運河開設概要……二一四

寫眞版

神戸港外國貿易設備利用狀況(其一)
同　(其二)

圖表

神戸港沿岸利用調査圖
神戸港集散貨物對照表
神戸港內國貿易集散府縣別表

神戸港大觀

第一章　沿岸利用狀況

勅令による本港々界は昨年四月擴張せられ、東は武庫郡新在家の東角より南十五度西に引きたる一線と、西は和田岬より北八十四度三十四分東に引きたる他の一線との二線を經界となしたる面積内にして、其の海岸線の延長蜿蜒として八哩二に達し、包容水面積も亦實に六百萬餘坪に及ぶも、其の沿岸を利用せるは主として舊港界線裡たる脇濱以西和田岬間にて尙西灘方面は港灣の設備を缺げるを遺憾とすべし。此の間にありては本港使命の貿易港たる關係上、完膚なき迄に利用し盡され海に接する處則ち荷揚場といふの觀あり。從つて沿岸に餘地なきは言を俟たずして倉庫上屋・材料置場等の所狹き迄に建設せられたるを見る。この外當市に兵庫新川及運河あり、新川は延長七〇七間其の沿岸線一、四三六間川幅約十五間水面積一萬七千七百餘坪なり。方今水淺く且所々に橋梁ありて荷役に不便なりと雖も、當沿岸には倉庫櫛比し材料置場も亦隨所に

散在し、運河は延長一、四三五間五(本線一、〇三五間五支線四〇〇間)其の沿岸線二、九三〇間一水幅八間乃至三十間水深四尺乃至八尺にして水面積四萬六千餘坪且本支線の交る所に水面積約二萬坪の船溜あり、船舶の和田岬迂廻の險を避くるの便ありと雖も小舟を除きては此の目的に利用せらるゝもの稀なり、沿岸には倉庫工場等の建物多く又荷揚場も多くして、新川と共に暴風雨に際して唯一の避難場たる外沿岸何れも當業者に利用せられ帆艀船相銜みて夜をついで荷役せるの狀態なり。

沿岸の利用は主として荷役場たれども、本港には我國造船界の權威たる川崎・三菱の兩造船所あり、其他にも工場處々に點在せるを以て工場地先及工場荷揚場等あるを忘るべからず。

(一)荷揚場　荷揚場は公共用たると專用たるとに拘はらず、棧橋・繫船柱等若干の荷役設備をなし繫船荷役をなし得るものを指稱す、當港の如きは完備せる稅關突堤の巨船横付となるものより、運河方面の不備なる護岸壁に至るまで、其の施設の整否に非常の軒輊あり。之等を通觀する時は港内荷役場の總延長四、九四二間四・兵庫新川及運河方面一、七〇〇間二合計六、六四二間六に上るべし。其の中共同荷揚場と稱し得るは島上町海岸一帶一七九間・國產波止場二五六間五・葺合港二二五間五・鈴木港灣二五八間六・兵庫新川及運河方面三二三間五を主なるものとし、其の合計一、三三一間六たり。其の中島上町海岸一帶は内國貿易の荷捌所として國產波止場と共に双び立ち、大阪商船株式會社・大王運輸合資會社の兩棧橋ありて貨客の往來日々盛に沿岸通航船一ヶ年に約四千隻出入する以外に附近に艀船の往來繁く、朝鮮方面よりの發動機船も夥しく、又國產波止場は四個の棧橋及二個の突堤ありて水面積約一萬二千七百餘坪を包容し荷役に申分なければ常に艀船の密集を見、且大阪商船株式會社内航部・尼崎汽船部・上組等の定期航路船の發着點たり。其の取扱貨物噸量約六十九萬五千餘と算せらる葺合港及鈴木港灣は共に滿保にして帆船のみ出入するに過ぎざれども、工場地帶を控ふるを以て石炭・煉瓦・瓦・砂利・石材・木材・油脂及鐵材等主として工場用材料を移入す。尙ヴアキユームオイルコンパニーの保稅倉庫の外二三の普通倉庫あり。運河方面は主として材木・製粉及雜穀類の揚卸に使用せらる。其他の五、三一一間は專用にして、其大なるものを擧ぐれば稅關を以て第一とし、其中第一乃至第四突堤二、〇一一間より第一波止場二九九間・第二波止場二七七間・第三波

止場六七間六・川崎波止場一八六間二に至るまで併せて二、八四〇間八あり、電氣・蒸汽・手動式起重機三十四台を設備し荷役に便せり。其他は三菱倉庫前六三〇間・東神倉庫前二〇七間・住友倉庫前一〇二間及鐵道省の小野濱驛一二〇間・神戸驛一〇〇間・和田岬驛三八間・新川驛三〇間、之に附隨せる起重機四台等にして、この外兵庫新川及運河方面に一、三七六間六あるも大體短小の地域にしてたゞ日清製粉株式會社前九二間・瀧川商事株式會社木材置場前六一間・日本木材株式會社前五七間・鈴鹿商店倉庫部前四四間・神戸果實青物市場前六〇間・鞘本運送店前八〇間・宮下木材株式會社前五九間等を以て比較的大なるものとし各其の所要材料の荷役に供せらる。

(二)工場・荷揚場　こは荷揚場が工場内に在る關係上特に斯く名づけたるものにして本來一般荷揚場と何等異なるに非ず。而も本港には海に接する工場多きを以て、比較的に其の數量多く三菱造船株式會社神戸造船所に於て一一一間・川崎造船所本工場一六七間七・川崎造船所葺合工場三七三間・更に運河方面の川崎造船所兵庫工場一七九間二・宮下木材株式會社八〇間五・鈴木商店兵庫魚油倉庫五六間・井上豆粕工場六八間・木全製肥工場五二間・前田製油所五二間・明治製糖株式會社七六間・台灣製糖株式會社二四七間・增田製粉株式會社七六間・大日本鹽業株式會社六〇間等ありて工場所要材料及工場製品の大部分を積卸し、其の總數一、九三七間九にして、中運河方面の分一、一八六間二を含めり。

(三)工場地先　工場地先は工場地内に於て荷揚場として使用する以外の沿岸地域にして、前段工場荷揚場に於て述べしと同じく、三菱造船株式會社神戸造船所に於て三九八間・川崎造船所本工場四二六間・川崎造船所葺合工場一四六間・神戸製鋼所一九六間を主として其の計一、二九六間あり。運河方面は全部にて五八五間八に止り、其の大部分は川崎造船所兵庫工場にして三九二間五に及び、其他は漸く北海林業株式會社の八〇間位に過ぎず。

以上の外神戸市の東部境界線たる脇濱町東端以東新在家迄の地域一帶は、海濱にして荷揚場其他の設備なければ、一般の荷役は風凪の日を待ちて艀船を渚に近づけ漸く積卸なし得るに過ぎず。

次で當港の沿岸に建設されし工場倉庫等に就て見るに、概ね左の如く各沿岸の便益を享けつゝあるを否み得ざるべし。即ち先づ神戸稅關は四箇の突堤の外第一乃至第三波止場及川崎波止場を合して總延長二、八四〇間八に亘り、其建

物坪數四萬坪に及び本港外國貿易の偉大なる關門をなせり。之に續いて工場に於ては川崎造船所の一、七〇五間七(本社五八六間七葺合工場五一九間・兵庫工場六〇〇間)三菱造船株式會社神戸造船所五四七間六・神戸製鋼所一九六間等あり。運河方面に至りては、鐘淵紡績株式會社の少數の倉庫の外小工場の群集せる狀態にして、之を並記すれば日本精米精粉株式會社・日本製粉株式會社・日清製粉株式會社・東洋製粉株式會社・宮下木材株式會社・台灣製糖株式會社・增田製粉株式會社・鈴木製袋所・井上油脂工場・日本工業相談所鑄物工場・木全製肥工場・明治製糖株式會社・日本木材株式會社・前田製油所・大日本鹽業株式會社・中村製軸部等を擧ぐべく、倉庫としては三菱倉庫株式會社神戸支店最大にして沿岸線の長さ七一九間とし、之に次ぐを東神倉庫株式會社神戸支店の二〇七間とす。其他川西兵庫・住友各倉庫より三井倉庫・鈴木倉庫・ニッケルエンドライオンス倉庫・長谷川倉庫・ヴアキユームオイルコンパニー倉庫等各所に散在し、葺合方面には森本倉庫あり、運河には鈴鹿倉庫の外三菱・川西兩倉庫の之に面するを見る。尙稅關突堤根元には本港の阜頭を飾る新港倉庫建竝び其の建設順序は、先づ三菱倉庫竣成し續いて川西倉庫建築され共に鐵筋コンクリート五階建にて美觀を添へ、更に住友倉庫は十五年三月に工を了り、最も工事の遲れしは東神倉庫なるも大體十五年中に營業を開始するの運びに到るべく、各倉庫としての完璧を期し理想的のものなるも各社夫れ〳〵長短あり設計も亦銘々異れり。この他に市に於て生糸檢査所の建築中なるがこは十六年九月了る筈の外目下竣工を急ぎ居れる稅關本館あり、之が落成の曉には錦上更に花を添ふの趣あらん。かく尨大なる倉庫の建設によりて從來の倉庫に倍加するの收容力となるも、この不況時に際し如何に貨物を集收するかは問題にして、各倉庫業者は地の利と設備の完全によるチヤージの低下によらんとするも、大阪港の倉庫竣成はたしかに一大强敵たらずんばあらず。一般貨物の集散については大體航路に依つて決定さるる爲め各會社とも船舶會社と提携あり、則ち三菱は日本郵船・東神は大阪商船・川西は國際汽船・住友は山下汽船と云へるが如き外、外國航路竝に荷主によりても區分さる。而して倉庫の總坪數は十二萬二千餘にして、本年の取扱額拾壹億五千餘圓に達す。其の重要なる庫入品は棉花を筆頭とし、穀物・糸類・機械類・油脂及蠟類・鑛及金屬・藥品・肥料類等にして、取扱額は三菱倉庫を第一とし、總額の半數以上を占め、東神・川西・住友・森本・兵庫倉庫の順序たり。而も各倉庫の取扱品それ〳〵

特色あり、三菱倉庫は棉花を以て最大となし、其他外國米並に絹糸之に次ぎ、東神は外國米一位にて之に亞ぐを棉花・絹糸・毛糸・染料及塗料等とし、川西に至りては先づ羊毛に指を屈すべく、機械類・朝鮮米等僅少乍ら之に續き、住友は油脂及蠟染料及塗料・絹糸・朝鮮米・豆類・海產物・羊毛・金物製品等何れも收容せられ、森本倉庫は棉花殊に多く兵庫倉庫は主として食料品を格納す。材料置場の中石炭は各消費者が其の構内に貯炭場を設くるを通例とし、三菱・川崎兩造船所・川崎葺合工場・同兵庫工場・神戸製鋼所・明治製糖株式會社・神戸市電氣局運河發電所・台灣製糖株式會社等皆然り。其貯藏し得る最大量も炭種によりて相違あるも、川崎葺合工場の約六千八百噸を最大とし、同兵庫工場の三千五百噸、同本工場の二千六百噸・三菱造船所の二千五百噸より台灣製糖の二千四百噸等何れも其の重なるものにして、其他に葺合南本町に約二千坪、神戸辨天濱に約一千一百坪、兵庫西出町以西運河迄に約一千七百坪あり。葺合は三井物產・小幡組・三輪組等主として使用し、辨天濱は一廓をなせ共二十餘の商店の集合置場にして、兵庫方面は散在して三井物產・寺岡商店・岡本商店・安川松本商店・出口商店・方俵商店・高田商店・江見商店を初めとして三十を超す小貯炭場あり。尙神戸稅關・神戸水上警察署・市營給水所・鐵道省の各要地に貯炭場を設けたり。今試に主要工場に於ける本年の消費量を見るに、川崎葺合工場の七萬六千三百噸を最とし、次いでは川崎本工場四萬五千噸・同兵庫工場四萬三百噸・神戸製鋼所三萬五千七百噸・台灣製糖二萬九千三百噸・鐘淵紡績株式會社兵庫支店二萬七千五百噸・三菱造船所一萬八千噸等なり其他に鐵道局は五十一萬一千七百噸・市營電氣局十三萬四千噸・神戸瓦斯會社五萬九千二百噸あるも主として港外たる和田岬以西にて使用す。木材の置場が葺合及運河方面に夥しく設けられたるは、全く水利の便宜しきにありて筏の放戈に適したる爲めにして、葺合に於ては土岐製材所・大野材木店・岡野材木店・新宮木材等を主なるものとし、運河方面に於ては宮下木材株式會社を主とし、三木合資會社・和田製材所・日本木材株式會社・筆五商店・野村商店・中村製軸部・北海林業株式會社・瀧川商事株式會社・小泉木屑置場・川崎造船所製材工場・日本燐寸株式會社・神戸木材株式會社・杉原商店等の各木材置場所狹き迄に設けられて、材木の一大山を築けり。其中中村製軸部・大正製軸株式會社・北海林業株式會社等は燐寸軸木の製造を主とし、宮下木材株式會社・瀧川商事株式會社・神戸木材株式會社・山長合名會社等は何れも製材を併せ兼ねたり。

次に港灣の設備につき概記すれば、繫船壁は官私合せて三ヶ所にして、其内官設に係るものは突堤四個岸壁の全長一、五九二間餘にして水深三〇尺乃至三六尺、同時に大小船舶十九隻を維繫し得べく神戸税關の分之れなり。私設に屬するものは其數二個即ち高濱岸壁東神岸壁にして、全長五八二間水深二六尺乃至三〇尺、同時に七千噸級乃至一萬噸級の船舶四隻を維繫し得らる。荷置場は神戸税關最大にして三四、六三四坪を算し其内譯を示せば突堤二〇、七二三坪第一波止場二、四一三坪、川崎波止場八、〇一八坪、第二波止場三、二八〇坪、兵庫波止場二〇〇坪たるもこの中には巨大重量品生活力ある動植物及變敗し易き貨物等を藏置すべき空地一一、七七四坪を含む。其他鐵道省に於ては、神戸驛構内蟹川四〇九坪、小野濱驛構内七〇〇坪、新川驛構内一、三四一坪、和田岬驛構内八四五坪計三、二九五坪たり。神戸市は國產波止場に一、二二七坪を有するに過ぎず。又上屋については之亦神戸税關最大なるも此分は前記荷置場中に合算されあるにより摘記すれば、築港に於て一六、〇四〇坪、川崎波止場四、七九〇坪(内假置場一、二二〇坪)兵庫波止場一〇〇坪、第一波止場一、七〇一坪(内收容倉庫四六五坪)第二波止場一、九五〇坪(内保税倉庫三六坪)小野濱一、三六三坪(收容倉庫のみ)にして、鐵道省は總坪數三、〇〇七坪を有し、神戸驛一、四七九坪、小野濱驛一、一七八坪、新川驛一八〇坪、和田岬驛一七〇坪にして各驛に散在し、神戸市は六〇六坪にして國產波止場に設けらる。繫船浮標は神戸税關所屬のもの二三個にして料金は繫船總噸數によりて差あるも一晝夜拾圓乃至參拾圓とす、其他に私設として三菱、川崎兩造船所に各四個、水上警察署に一個あるも一般に使用せしめず。棧橋は鐵道省に於て神戸驛構内に長四五〇尺幅四〇尺のもの一本ある外、神戸市にて國產波止場に延長四七四尺の繫船棧橋一個、小棧橋二個あり、其他に大阪商船、大王運輸にもありて貨客の用に供せり、尙各臨港工場又は倉庫業者が荷役のため其の地先に設けたるもの多し。給水は市營にして給水栓六十八口を以て直給水用となし、運搬給水は給水栓二口にして、揚水用ポンプ船九隻を配し一時間の總揚水能力三三二噸にして、水船は普通水船一一隻、ガソリンポンプ付水船一一隻を以てし、曳船用小蒸汽船は三隻にして登簿噸數一〇噸乃至一六噸曳航力各五隻速力約七浬たり、自用船舶給水場所は市内を通じて七ヶ所たり。

尙脇濱以東には小泉製麻株式會社及新在家鐵工所ある外本邦銘酒の釀造地たる灘地方とて清酒の積出並に之が原料の搬入ありて、酒倉の數も夥しく、菅公、

牡丹・忠勇・澤の鶴・富久娘・月桂冠及菊正宗等の名と共に酒の香もいと高し。

第二章　港内諸設備

港内水面積(防波堤内)　約二、七九〇、〇〇〇坪

防波堤(大藏省所管神戸税關防波堤築造費及内務省所管神戸港修築費支辨)

防波堤	延長	竣功延長	竣功歩合	摘要(大正十四年度末)
南防波堤	八六〇・四間	六七〇・七間	〇・七八	堤頭三ケ所四五間ヲ含ム竣功ハ函据付完了ノ延長
東防波堤ノ二	八三一・九	二三・〇	〇・〇三	堤頭二ケ所三〇間ヲ含ム竣功ハ函据付完了ノ延長
東防波堤	六三二・〇	六三二・〇	一・〇〇	堤頭二ケ所ヲ含ム但シ上部胸壁ヲ除ク
東防波堤ノ一	七三二・五	—	—	堤頭一ケ所一五間ヲ含ム
假防波堤	六〇〇・〇	—	—	堤頭二ケ所ヲ含ム
外國貿易舊設備	一〇〇・〇	六七・三	〇・六七	艀舟溜用
船溜防波堤	三、七五六・八	一、三九三・〇	〇・三七	
計				

繫船浮標　二三個、内第一區(神戸、小野濱沖)一七個、第二區(兵庫沖)六個

第一節　外國貿易設備

【現設備】

税關

新港(大藏省所管神戸税關海陸運輸聯絡設備費支辨、大正十一年五月竣功)

突堤四ヶ所　岸壁總延長一、五九二・五四間、有效延長一、三六二間

上屋　一八棟延坪一六、〇四〇・七五坪、内、岸壁沿鐵造上屋一六棟延坪一四、九八四・七五坪

上屋の配置及船席との關係左の如し。

繫船岸壁	有效延長（間）	船席	上屋 棟	上屋 床面積（坪）	位置
水深三六尺岸壁	二六〇	大型船　二	二	二、四三六・〇〇	第一突堤西側頭部寄、第二突堤東側頭部寄
水深三三尺岸壁	一四二	大型船　二	二	二、二六八・〇〇	第一突堤西側根元寄、第二突堤東側根元寄
水深三〇尺岸壁	九六〇	中型船　一〇	一	一四、九八四・七五	其他ノ突堤岸壁
計	一、三六二	小型船　一五	一六	一九、六八八・七五	
		一四隻乃至一九隻			

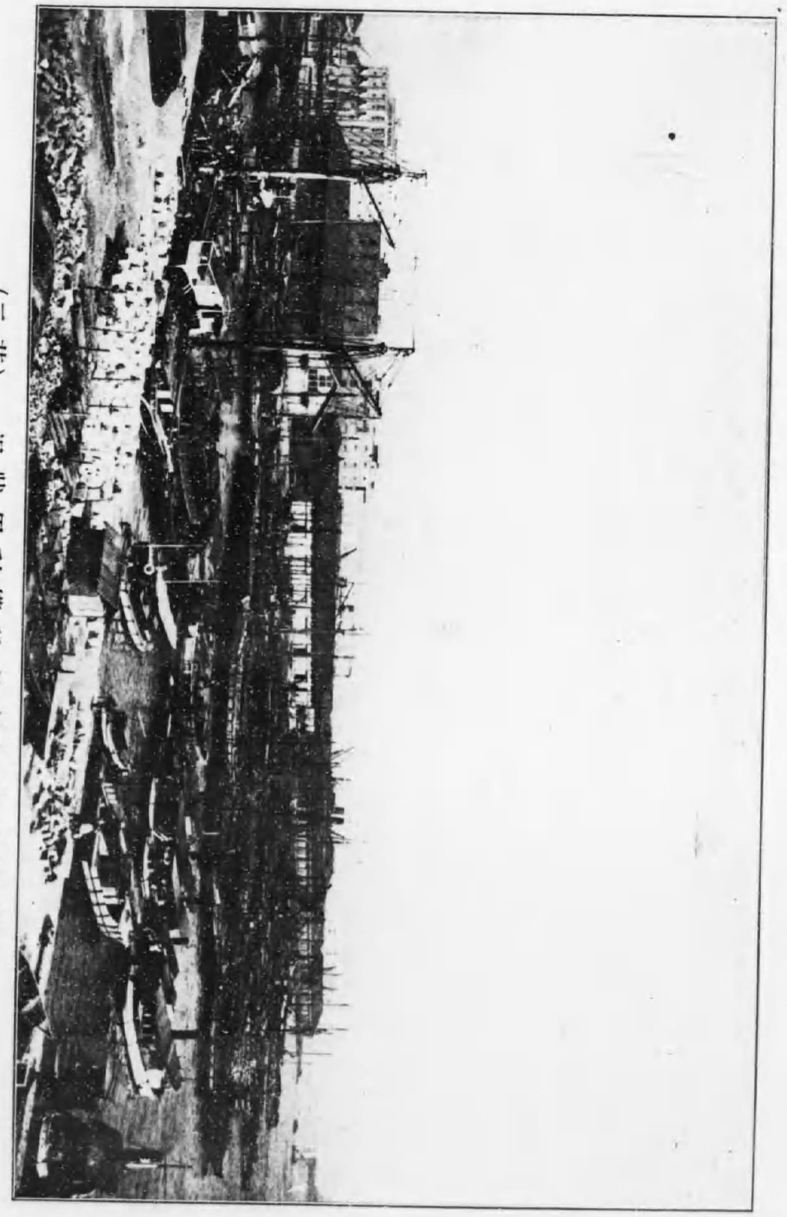
物揚場　延長二九九・六間、物揚場沿上屋二棟一、〇五六坪、艀舟用岸壁九八間

埋立地　總面積　約八二、九一三坪餘

倉庫敷地　一六、六九四・六坪

敷地使用倉庫	位置	現在建物敷地（坪）	借受豫約濟坪敷	契約濟總坪敷
川西倉庫	第三第四突堤間西部	一、〇八三坪餘	四五〇坪餘	一、五三三坪餘
住友倉庫	第三第四突堤間東部	二、〇四二坪餘	八七〇坪餘	二、九一二坪餘
三菱倉庫	第二、第三突堤間	二、二三五坪餘	一、四三二坪餘	四、七四四坪餘
東神倉庫	第一、第二突堤間	二、七五三坪餘	四、一二九坪餘	七、五〇二坪餘
計		八、一一三坪餘	六、八八一坪餘	一六、六九一坪餘

（一其）　況狀用利備設易貿國外港戸神



(二其) 況狀用利備設易貿國外港戸神

棟數	一	二
階數	五階建	一部五階建
倉庫建坪	一、〇三八坪餘	二、三八一坪餘
倉庫延坪	五、二六九坪餘	九、五八九坪餘
構造	鐵筋混凝土	鐵筋混凝土
五階建	一、〇一二・六坪餘	五、三九九坪餘
鐵筋混凝土	五、一三五坪餘	二四、六六七坪餘
五階建	九六七坪餘	
鐵筋混凝土	四、六七四坪餘	

荷役機械　埠頭用移動式電氣起重機(扛力五噸)七台、同(扛力一噸半)一四台、定置式手動起重機(扛力三〇噸)一台、同(扛力五噸)四台、移動式蒸汽起重機(扛力一噸半)一台等にして、これが配置左表の如し。

埠頭用移動式電氣起重機(扛力五噸補助捲七噸)

突堤各繫船岸壁上一台宛計七台

埠頭用移動式電氣起重機(扛力一噸半補助捲二噸五)

突堤各繫船岸壁上二台宛計一四台

定置式手動起重機(扛力三〇噸)

第一岸壁(第四突堤根元假防波堤内)一台

定置式手動起重機(扛力五噸)

第一物揚場(第一岸壁より京橋に至る物揚場)四台

移動式蒸汽起重機(扛力一噸半)

第二岸壁(第二及第三突堤間)一台

其他第二物揚場に面する住友倉庫及第三物揚場に面する東神倉庫に於て艀舟荷役用起重機設置の計畫あり。

構内鐵道・

繫船岸壁沿に一線、上屋脊面道路沿に二線乃至三線又物揚場沿上屋脊面二線延長一一哩小野濱貨物驛に連絡す、猶構内中央幹線道路に面して神戸港驛あり。

船舶給水　給水栓第一突堤西側に一〇ヶ所其他の突堤にては各側岸壁に九ヶ所宛計六四ヶ所、神戸市水道船舶給水所出張所は第二突堤根元にあり。

消火裝置、照明、排水設備　等完備せり。

第一波止場　荷揚場延長二八八・五間、上屋七棟延坪一、七二一坪

第二波止場　荷役場延長約二八六・五間、上屋七棟延坪一、七二〇坪

第三波止場　荷揚場延長六〇・八間

川崎波止場　荷揚口七間、棧橋五、長八・七五間乃至九・四間、幅三・五間

上屋九棟延坪三、八二四坪鐵道延長約二・五哩

高濱岸壁(三菱倉庫)

埠頭　延長三四七間、水深二七尺、船席三

上屋　一一棟、建坪八、〇一九坪

倉庫　平家建三五棟、延坪九、七四一坪

荷役機械　定置式電氣起重機(扛力三九噸)一台、定置式蒸汽起重機(扛力一噸半)四台

移動式電氣起重機(扛力六噸半)四台、(扛力四噸半)四台、以上計一三台

電氣ホイスト(扛力一噸)二台、(扛力〇・五噸)二台、計四台

浮裝蒸汽起重機(扛力二噸、一・五噸、一・〇噸)各一隻、計三隻

鐵道　五哩餘

給水、照明設備　あり

和田棧橋(三菱倉庫)

埠頭　延長約二五〇間、水深二七尺

棧橋　延長一〇〇間、幅員一〇・五間、水深二七尺、船席二

上屋　一三棟、建坪五、七三六坪餘

倉庫　一八棟、延坪一二、一七六坪餘

平家建一六棟延坪六、二〇九坪餘、二階建一棟延坪二、九五七坪餘

四階建一棟延坪三、〇一〇坪餘

鐵道　三哩餘

荷役機械　定置式電氣起重機（扛力一噸半）一六台、電氣ホイスト（扛力〇・五噸）六台

給水、照明設備　あり

東神岸壁（東神倉庫）

埠頭　延長一七〇間、水深三〇尺、船席二、其他物揚場延長六一間

上屋　六棟、建坪四、八〇〇坪餘

荷役機械　定置式蒸汽起重機（扛力三噸）一台、移動式電氣起重機（扛力五噸）一台、同（扛力四噸）一台、電氣ホイスト（扛力〇・五噸）四台、浮裝蒸汽起重機（扛力三噸）二隻

鐵道六九鎖

其他照明設備　あり

【工事中の擴張設備】

稅關

濱邊通地先內務省所管（神戸港修築費支辨、大正八年度―二二年度大藏省所管

神戸稅關陸上設備費支辨、大正十年度―二十五年度）

突堤　第一突堤の增幅、第五及第六突堤の築造

突堤	突堤延長	幅員	突堤間隔	摘要
第一突堤	二四五	增幅 三四・三	一七〇間以上	
第五突堤	二四五	全幅 六四・三 八〇・〇		
第六突堤	二四五	九〇・〇	一〇〇間	突堤中央幅員三〇間延長二二五間ノ解渠アリ

繫船岸壁　總延長一、四三〇・七間　內　水深四〇尺岸壁二三〇間、水深三三尺岸壁一、二〇〇・七間

上屋　九棟延坪一五、五五五坪　內　岸壁沿鐵造乃至鐵筋混凝土造上屋八棟延坪一四、七八七坪これが配置及船席との關係左の如し。

繫船岸壁		延長(間)	船席	上屋 棟	上屋 延坪
四〇尺岸壁	第一突堤 東側頭部寄	一二四	大、中型船 一・五一	一	二階建 四、四四〇
	第五突堤 西側頭部寄	一一〇	大、中型船 一・五一	一	一、三五〇
	第一突堤 東側根元寄	一二一	大型船 一・五一	一	一、九八〇
	第五突堤 西側根元寄	一三五	小型船 一・五一	一	一、三五〇
三三尺岸壁	第五突堤 東側	二四五	大、中型船 三二	二	二、一一五
	第六突堤 西側	二四五	大、中型船 三二	二	内一棟二階建 三、五五三
	第六突堤 東側	二四五	大、中型船 三二		—
計		一、二二五	大型船 小型船 一五〇	八	一四、七八七

物揚場　延長八四九間　内　水深九尺物揚場約二〇間、水深一二尺物揚場七三九間、物揚場沿木造上屋一棟七六八坪

埋立地總面積　約七九、六〇〇餘坪

倉庫敷地(第五突堤中央)　四、九二〇坪

一般貸地　一三、五六二坪

荷役機械　埠頭用移動式電氣起重機(扛力五噸)四台、同(扛力一・五噸)八台

定置式蒸汽起重機(扛力一二噸)一台

構内鐵道　繫船岸壁沿に一線、上屋脊面道路沿に一線乃至二線、物揚場沿上屋脊面に二線、延長六哩餘、小野濱貨物驛に連絡す

船舶給水、消火、照明、排水設備　を整備す。

海岸通地先　内務省所管、神戸港修築費支辨　大正八年度——一二年度
大藏省所管、神戸税關陸上設備費支辨　大正一〇年度—二五年度

埋立地　總面積一〇、二八二坪　内　海岸通地先突堤上及第二波止場前面五、八八七坪、西遊園地先三、六五八坪、米利堅波止場頭部約七三七坪

上屋(木造)　七棟三、八四〇坪　内　米利堅波止場上二棟五三二坪、第二波止場沿三棟一、三〇八坪、海岸通地先突堤上物揚場沿二棟二、〇〇〇坪

物揚場及護岸　全長六四七間七　内　西遊園地前一五七間二、米利堅波止場頭部一一六間五、第二波止場地先及突堤上三七四間

右擴張設備の大正十四年度末に於ける其工程表を左に掲ぐ

内務省所管神戸港修築工事工程表

大藏省所管神戸稅關陸上設備工程表

計畫 種別	計畫 位置	計畫 干潮面以下ノ深水	計畫 面積又ハ延長	竣功 面積又ハ延長	竣功 歩合	摘要
埋立	海岸通地先	—	一三、九四〇坪	三、〇〇〇坪	〇・一四	面積竣功ハ地均シ成功ニヨル
埋立	濱邊通地先	—	七九、六〇〇	二三、〇四八	〇・一五	西遊園地及第二波止場前面土量 四九、一二〇立坪 竣功土量 六、三四一立坪 濱邊通前面土量 六七一、〇〇〇立坪 竣功土量 二五九、二〇一立坪
埋立 計		—	九三、五四〇	一四、〇四八	〇・一五	
繫船岸壁 外國貿易設備	濱邊通地先	四〇〇	三〇〇〇間	一二六・三	〇・五二	大小船舶十五隻繫繫
繫船岸壁 外國貿易設備	同	三	一、三〇〇・七	三三五・八	〇・九	竣功ハ兩據付完了ノ延長ニヨル
繫船岸壁 計		—	一、四〇〇・七	三四二・〇	〇・二四	
物揚場 外國貿易設備	海岸通地先	三	三七〇〇坪	二八・八	〇・五三	米利堅波止場增築延長ヲ含ム
物揚場 外國貿易設備	同	九	四一六・五			
物揚場 外國貿易設備	濱邊通地先	三	七九〇・〇	二一〇・八	〇・一三	
物揚場 外國貿易設備	同	九	二一〇・〇			
物揚場 計		—	一、四九二・五	三九・六	〇・三三	
假護岸 外國貿易設備	濱邊通地先	—	一二〇・〇間	一四〇・〇坪	〇・八八	
假護岸 計		—				

計畫 工種	計畫 數量	竣功 數量	竣功 歩合	摘要
道路	二〇、〇七一坪	一、三八三坪	〇・七	鐵筋混凝土造
上屋	十六棟 一九、三九五坪	二棟（木造） 五二五坪	〇・三	上屋八棟 一四、七八七坪 四、六〇八坪
鐵道	五〇〇鎖	—	—	
起重機	一三臺	—	—	

第二節　內國貿易設備

【現設備】

國產波止場

小突堤　二箇所（幅員約二〇間延長約三〇間及幅員約二〇間延長約二五間）

荷役岸　水深一〇尺、延長二五四間（小突堤周長を含む）

上屋　五棟　小突堤上に各一棟、海岸に並行して三棟全建坪六〇六坪

棧橋三箇所

第一內航用棧橋　延長七九間（有効延長五八間）幅員五間—長一〇間、幅五間

のポンツウン五個連結―中、小型船用船席兩側各二計四、水深一七尺
第二内航用棧橋　延長一六、五間幅員二間―長六間幅二間のポンツウン二個連結―小蒸汽、艀用
外航用棧橋　延長九、五間幅員二間―長六間幅二間のポンツウン一個
構内面積　一、八七四、四坪

葺合港

護岸延長　四四三、五間　荷揚場延長　二二五、五間
水面積　七、〇七九坪　水深一二尺
島上棧橋　棧橋延長五〇間―ポンツウン三個長約一〇間、幅約三、五間三個連結―中、小型船用船席二　水深一八尺

【工事中の擴張設備】

兵庫及國産波止場―市營埠頭(内務省所管、神戸港修築費支辨大正八年度―二十二年度)
突堤　三ヶ所　兵庫地先、延長二四〇間、幅員七〇間二ヶ所、海岸通地先延長約三八五間、幅員五〇間一ヶ所
埋立地　兵庫地先八一、六〇〇坪、海岸通地先一八、二五三坪
繫船岸壁　兵庫地先全長一、二二〇間
水深三〇尺岸壁三三〇間、二八尺岸壁一七〇間、二四尺岸壁七二〇間
海岸通地先全長五二二、五間
水深二八尺岸壁三一九間、一八尺岸壁二〇三、五間
物揚場　兵庫地先全長九三五間
水深一二尺物揚場二八五間、九尺物揚場六五〇間
海岸通地先全長四一五、五間(水深九尺)

右擴張設備の大正十四年度末に於ける工程表を左に掲ぐ

内務省所管神戸港修築工事工程表

種別	位置	計畫		竣功		摘要
		干潮面以下ノ水深	面積又ハ延長	面積又ハ延長	歩合	
埋立 内國貿易設備	兵庫地先	―	八一、六〇〇坪	七、〇七九坪	〇・〇九	
	海岸通地先	―	一八、二五三	―	―	

繫船壁	内國貿易設備	兵庫地先	三〇尺	三三〇・〇間	一六九・五間	〇・五一	大小船舶十六隻繫
同	同	同	二八尺	一七〇・〇	一三〇・〇	一・〇〇	竣功ハ國拂付完了延長ニヨル
同	同	海岸通地先	二六尺	七二〇・〇	二四二・〇	〇・三四	
繫船岸壁	同	同	二六尺	三一九・〇	—	—	大小船舶七隻繫
			二八尺	二〇三・五	—	—	
繫物揚場	内國貿易設備	兵庫地先	二三尺	二八五・〇間	二七七・〇間	〇・三〇	
	同	海岸通地先	九九	六五〇・〇			
假護岸	内國貿易設備	兵庫地先	一	四一五・五	—	—	國産波止場改築延長ヲ含ム
			一	一三五・〇間	一三五・〇間	一・〇	

【計畫中の擴張設備】

兵庫及國産波止場—市營埠頭

上記内務省所管神戸港修築工事によりて竣功せる埋立地上の陸上設備は目下神戸市港灣部にて計畫中にして大正十六年度以降二十四年度に至る繼續事業として施行の豫定なり、諸計畫の中第一案につき其の要項を掲げん。

上屋　鐵造乃至鐵筋混凝土造上屋二二棟總建坪一一、五五六坪内繫船壁沿上屋一七棟建坪九、二一六坪右上屋の配置及船席との關係左の如し。

				有効延長(間)	船席	上屋 棟	上屋 延坪
繫船壁	三〇尺岸壁	兵庫地先	第二突堤南側頭部寄	一〇〇	一	一	八二八
		同	同北側頭部寄	一〇〇	一	一	八二八
			第一突堤南側頭部寄	一〇〇	一	一	七五六
	計			三〇〇	三	三	二、四一二
	二八尺岸壁	兵庫地先	第二突堤南側中央	八五	一		
		同	同北側中央	八五	一		
		小計		一七〇	二		
	國産波止場	海岸通突堤西側頭部		一五〇	二	一	八四〇
		小計	東側頭部	一一九	一	一	九六〇
				二六九	三	二	一、八〇〇
	計			四三九	五	二	一、八〇〇
兵庫	第二突堤南側根元			五五	一	一	六一二
	同北側根元			五五	一	一	六一二
	同頭部			五〇	一		

二四尺岸壁	第一突堤	南側根元	一四〇	三	一	五〇四
	同	頭部	六〇			
	同	西側	二四〇	四	二	一、一一六
	中央埋立地	北側	一〇〇	三	三	七二〇
計			七〇〇	一四	八	三、五六四
一八尺岸壁	國産波止場	西側根元	二〇三	四	四	一、四四〇
計	海岸通突堤		二〇三	四	四	一、四四〇
合計			一、六四一	二六	一七	九、二一六

物揚場沿上屋　五棟建坪二、三四〇坪内兵庫埋立地三棟建坪一、一四〇坪
國産波止場二棟、建坪一、二〇〇坪
倉庫敷地　其他

倉庫敷地	荷置場	一般貸地	計		
兵庫埋立地	六、五一六	一〇、七四七	三〇、一九九		
國産波止場	四、〇八一	—	四、〇八一		
計	一〇、五九七	一〇、七四七	三四、二八〇		

荷役機械　埠頭用移動式電氣起重機　一〇數台

構内鐵道　繫船壁沿上屋背面に二線全長約四哩
船舶給水、消火、照明、排水等　の諸設備を完備せしむ
鐵道棧橋　鐵道棧橋增幅、面積一、一二五坪

第三節　築港工費

神戸港第一期修築工事は明治三十九年四月起工し、政府財政の都合上再三繰延べられ、工費總額壹千五百九萬貳千參拾七圓を以て、大正十一年五月漸く竣工を見るに至れり。然るに本港内國及外國貿易は海運の發盛と相俟ち、逐年增勢を辿り、到底第一期築港設備のみにては狹隘其用を辨ずること困難なるを以て第一期工事中なる大正八年度より第二期擴張工事に着手し、目下施行中なり。

第二期修築工事は政府財政の都合上並に關東大震災の爲め當初の計畫より再度繰延べられ、修築工事は五ヶ年、陸上設備は四ヶ年の延長となり、前者は大正二十二年に、後者は大正二十五年に完成の豫定なり。而して該工費は更改增補を加へられし結果、總費額四千五百九拾萬五百六拾五圓となり、此の中修築費に參千五百六拾貳萬八千貳百八拾貳圓、陸上設備費に壹千貳拾七萬貳千貳百八拾

參圓を投ずることゝなり、既に大正十四年度迄支出累計額中、修築費は千九百拾六萬九千九百五拾六圓、陸上設備費は百九拾萬參千六百八拾壹圓、計貳千壹百七萬參千六百參拾七圓に達せり。

修築費參千五百六拾貳萬八千貳百八拾貳圓の中、國庫負擔額は貳千貳百四拾四萬四千參百拾貳圓、神戸市負擔額は壹千參百貳拾貳萬參千九百七拾圓にして之れを用途別にすれば、外國貿易設備費に壹千貳百拾六萬參千參百參圓、內國貿易設備費に壹千七拾壹萬參千四百七拾八圓、防波堤築造費に壹千貳百七拾五萬壹千五百壹圓を支出することゝなる。

陸上設備費壹千貳拾七萬貳千貳百八拾參圓は外國貿易設備に要するものにして、此の中國庫負擔額五百五拾貳萬貳千貳百八拾參圓、神戸市負擔額四百七拾五萬圓なり、尙內國貿易陸上設備に就きては、本市其の經營に當らむとするものにして、其れに要する費用は約七百參拾參萬圓の豫定なり。

神戸港第二期築港工事費年度割表　（大正十四年度）

年度 ＼ 內譯	總費額 修築費共	總費額 陸上設備費	總費額 計	政府分擔額 修築費共	政府分擔額 陸上設備費	政府分擔額 計	神戸市分擔額 修築費共	神戸市分擔額 陸上設備費	神戸市分擔額 計
以後支出額	三萬六千八百二十二円	一萬四千五百六十三円	四萬六千三百八十五円	二萬一千九百四十九円	一萬四千四百三十三円	三萬五千三百八十二円	一萬二千四百九十六円	一萬四千四百三十三円	二萬六千九百二十九円
大正十五年度	一萬四千八百六十二	八百六十八円	一萬五千八百九十八	一萬四千九百三十三	四千六百六十一	一萬九千五百九十四	三千五百四十一円	六百四十四	四千一百八十五
大正十四年度支出額	一萬六千九百五十六円	一萬三千六百二十七	二萬九千五百八十三	一萬四千四百三十三	一萬六千三百六十二	三萬五千三百八十二	一萬二千四百九十六	一萬四千四百三十三	二萬六千九百二十九
內譯 一五	二萬000円	三百八十六円	二萬三百八十六円	九百四十九円	六百三十七円	一萬六百八十六円	一萬四百10円	三百四十六円	一萬三百五十六円
一六	二萬000	四00	二萬四00	一萬三百0	一萬四百三十六	二萬四百三十六	六百0	三百八十六	九百四十六
一七	二萬000	五00	二萬五00	一萬三百六十0	二百三十六	一萬五百六十六	六百一十0	二百六十四	九百二十六
一八	二萬四00	七00	三萬100	二萬0七0	三00	二萬三百七0	三百10	四00	七百三十0
一九	二萬六00	八00	三萬四00	二萬三00	四00	二萬七00	三百00	四00	七百00
二〇	二萬三00	九00	三萬100	一萬九百四十六	四百二十六	二萬四百七十二	四百0	四百十四	八百八十四
二一	二萬000	一萬000	三萬000	二萬000	六百三十四	二萬六百三十四		三百二十六	三百二十六
二二	一萬三百六十六	一萬000	二萬三百六十六	一萬三百六十六	六百七十二	一萬九百三十八		三百一十九	三百一十九
二三		一萬000	一萬000		四百八十九	四百八十九		五百四十二	五百四十二
二四		一萬000	一萬000		四百八十九	四百八十九		五百四十二	五百四十二
二五		八百九十六	八百九十六		六百0八	六百0八		八百九十四	八百九十四

政府分擔陸上設備費中ニハ稅關總合建築費トシテ七七二一八三圓ヲ含ム

因に第二期修築費に於ては神戸市は內國貿易設備費に總額の三分の二を外國貿易並に陸上設備費に其の二分の一を負擔し、防波堤費は全部國庫負擔とす。

第三章　荷役狀況と船車聯絡

第一節　荷役狀況

本港に於ける船舶荷役を大別すれば沖荷役及岸壁荷役の二種とす。

(イ)沖荷役　港內に於ける碇泊中の船舶艀船によりて、貨物を積卸する作業を總稱するものにして、之に必要なるものを艀船及勞務者とす。而して我が國の如く未だ港灣施設の完全ならざる國に於ける荷役は、沖荷役に依る事最も多きを以て、艀船の數及其の運用は荷役能力に密接なる關係を有す、尙沖荷役に附隨し等閑に附し得ざるものを勞務者即ち沖仲仕とし、其の荷役に對する熟練程度如何により自然荷役能力に遲速を招來し、延いては港灣の繁榮にも關係を及ぼすものなるを以て、前後者何れも沖荷役の機關として輕視すべからず。本港に船籍を有する艀船は十四年末の調査に依れば二千六百五十一隻にして、之れを類別すれば次の如し。

一類船　二百六十八隻　主として一般の客及貨物を輸送して一定の賃金を徵收するものにして、其の繫留せる場所は兵庫六十二隻、川崎十六隻、第三波止

塲百二十六隻、米利堅波止塲に六十四隻なり。

二類船　二千三百五十三隻　主として沖に於て荷役に從事し有料にて貨物積卸をなす艀船なり。

附屬船　三十隻　各會社の專屬艀船にして、其の會社の客又は貨物を無賃にて輸送するものなり。

(ロ)岸壁荷役　とは本船岸壁繫留中陸上設備を利用して、貨物を積卸する作業を總稱す。既成第一期の海陸聯絡設備の現況に依れば突堤總延長一千五百九十二間にして、一間當一ヶ年一千三百噸の能力を有するを以て、一ヶ年約二百十萬噸の荷役能力を發揮し得べく、之に私設岸壁及棧橋其他陸上設備に依る約九十萬噸の荷役能力を加算すれば、三百萬噸以上となるべく、更に沖荷役を合算すれば莫大の荷役能力ありと謂ふべし。

以上の岸壁は皆其の倉庫及上屋を廻りて鐵道を敷設し、小野濱驛よりは神戸港驛を經て稅關突堤に、兵庫驛よりは和田岬驛を經て和田倉庫(三菱倉庫)に、更に分岐して新川驛に通じ、神戸驛よりは高濱岸壁なる高濱倉庫(三菱倉庫)に、小野濱驛よりは東神岸壁なる東神倉庫に各連絡するを以て貨物輸送上頗る便利とす。

荷役狀況に關連したる繫船狀況を計數上より見れば次の如し。

一　繫船浮標　港內船舶碇繫用として、神戸沖合に十一個、兵庫沖合に六個、小野濱沖合に六個、計二十三個を浮設す。而して其等を總括して神戸、小野濱沖を第一區、兵庫沖を第二區と稱せらる。總て神戸稅關の經營に係り、其他私設には兵庫沖に三菱神戸造船所々有四個、神戸沖に川崎造船所々有四個あるも、此等の浮標は兩會社の專用に屬し、造船及修繕の目的を以て使用せられ一般の使用に供せず。

大正十四年中に於ける繫船船舶總數は一千八百九隻、總噸數八百六十九萬九千八百九十八噸にして、其の使用料金額五萬參千九百七拾貳圓を計上し、繫船延日數四千百七十二日たり。本港繫船浮標使用料金は時間割にして、使用時間二十四時に付總噸數五千噸未滿拾圓、全一萬噸未滿拾五圓、全一萬五千噸未滿貳拾參圓、全一萬五千噸以上參拾圓とす。其他專用の分たる三菱に於て二十六隻十三萬百十三噸、川崎に於て十八隻七萬五千二百五十四噸あり。之れを本港總碇泊船數二千七隻、其の總噸數四百二萬一千四百十五噸に對比すれば、其の隻數に於て一千百九十八隻を超へながら噸數に於て四百六十七萬八千四百八十三噸を減せるは、主として大型船舶は繫船浮標・岸壁又は棧橋に繫留され、沖合殊に小

野濱及野田沖の繫留船舶中には概して中型船舶の大多數を占るに依るが爲めなり。

二　棧橋　内地沿岸就航船の繫留場として、海岸通四丁目に中棧橋、蟹川尻に鐵道棧橋及兵庫島上町に島上棧橋の三個、其他沿岸航路船の繫留場にはあらざれども、和田棧橋、給水棧橋、郵便局棧橋等あり。現今主として旅客及貨物の揚卸に使用さるものは、中棧橋及島上棧橋とし、鐵道棧橋は從來鐵道省用品の揚卸に專用しつゝありしが、貨物の船車聯絡を圖る爲め、九月一日より右棧橋を鐵道省所有の發動機船由良丸を曳船用として、沿岸貿易の一般荷役を許可されしを以て、神戸驛發着貨物の輸送上甚だ便利となれり。島上棧橋はコンクリート製にして大阪商船會社の經營に係り、其の延長三百九十三尺、幅員十八尺、名古屋、小松島(鐵道聯絡)徳島、甲の浦、由良湊線等の就航船繫留場に充てられ、大正十四年中の繫船數は七千七百十二隻、其の總噸數三百五十三萬六千七百七噸にして、之れを前年に比するに五百九十二隻、六十二萬五千九百七噸を增加せり。從來小松島線は一千噸以上の中型船二隻なりしを、昨年之れに一隻を加へ就航せしめたるに因る。

中棧橋は木造とコンクリート製とにして、從來兵庫縣の經營に係りしが、大正十四年四月神戸市に於て之を讓受しにより市の直營に移れり。其延長百間幅員三十尺にして十四年の繫船數五千七百四十八隻、總噸數四百二萬四千九十八噸なり、之れを島上棧橋に比すれば、隻數に於て一千九百六十四隻を減じ、噸數に於て四十八萬七千三百九十一噸を超へたり。是れ即ち鹿兒島、別府、門司、細島、四國、山陽、高知、中國線等の定期船多く、一千噸以上の中型船舶の多數就航するが爲めなり。次に和田棧橋は外國航路(孟買、亞米利加)の繫留場にして、一般旅客の乘降に使用せず。延長百間、幅員六十二尺、水深二十六尺、構造鐵脚にして、三菱倉庫會社の所有に係り、一部棉花積卸に使用せられ、十四年中の繫船數二十六隻、總噸數十五萬四千七百六十四噸なり。

左に島上棧橋、中棧橋、和田棧橋に於ける繫船表を示せば。

繫船場所別	島上棧橋		中棧橋		和田棧橋		合計	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
五〇〇噸未滿	六、一三	一、六六一、七六一	一、六七六	四六〇、七三六	—	—	七、七八八	二、一三二、四八七

五〇〇噸以上	一四二	八〇、六〇二	一、三四三	一、四八四	八八六、〇三二
七〇〇噸以上	四一六	三三〇、三〇三	一、四七三	一、八八八	一、四三五、二二〇
一、〇〇〇噸以上	一、〇四二	一、四六二、〇四〇	一、二二八	二、三〇〇	三、〇八九、〇七二
二、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—
三、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—
四、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—
五、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—
七、〇〇〇噸以上	—	—	—	—	—
一〇、〇〇〇噸以上	—	—	三	三	一三、〇四九
二〇、〇〇〇噸以上	—	—	二〇	二〇	二〇、六四八
計	七、七二三	三、五三六、七七七	五、七四八	四、〇二四、〇九八	二六	二五四、七六四	一三、四六六	七、七二五、五六〇

三　繫船岸壁（突堤岸壁）

外國航路就航船の繫留場の專用なりしが、十四年七月より內國航路たる定期臺灣航路船の繫留を許可されし以來、同就航船の繫留を見るに至れり。總延長一千五百九十二間五四、有効延長一千三百六十二間にして同時に大小の船舶十九隻を繫留し得べし。各突堤間の間隔は第一、第二、九十間乃至百二十間、第三、第四突堤間各八十間とす。大正十四年中の繫留船は一千五百八十三隻、其の登簿噸數六百六十萬八千四噸にして、其の使用料金額拾五萬五千四百八拾七圓を計上せり。其の繫船岸壁使用料も亦浮標と同じく時間制にして、繫留二十四時間以內登簿噸數一噸に付貳錢、繫留二十四時間を超ゆるときは參錢、繫留時九十六時間を超ゆるときは、前金額に超過時間二十四時毎に壹錢を加ふ。次に岸壁積卸貨物の狀況を見るに、直接岸壁に船卸せる貨物の總噸量三十二萬八千五百七十四噸にして、船積せるもの五萬六千四百六噸なり。而して解船により積卸せる總噸量百四十八萬二千九百五十一噸を加算すれば百八十六萬七千九百三十一噸に達し、前年に比し三十八萬八千二噸を減せり。

四　東神岸壁

東神倉庫會社に屬し、延長百六十九間、幅員三十尺、東西二部に分れ、主として東神倉庫搬出入貨物積卸に使用せられ、十四年中の繫船數五十隻二十六萬七千三百二十噸なり。

五　高濱岸壁

三菱倉庫會社の經營に屬し、延長百七十八間、水深二十七尺、A B Cの三部に分れ、東神と同樣に所屬會社の貨物積卸に使用さる。十四年中の繫船數百十三隻六十一萬八千五十二噸なり。左に突堤岸壁、東神岸壁、高濱岸壁に繫留したる船舶の總噸級別表を掲載して一般を知るに資せんとす。但し突堤岸壁に於ては轉錨の隻數及噸數を含まず。

繫船場所別	突堤 隻數	突堤 總噸數	東神岸壁 隻數	東神岸壁 總噸數	高濱岸壁 隻數	高濱岸壁 總噸數	合計 隻數	合計 總噸數
五〇〇噸未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
五〇〇噸以上	—	—	—	—	—	—	—	—
七〇〇噸以上	—	—	—	—	—	—	—	—
一、〇〇〇噸以上	一九	三四、四〇三	—	—	—	—	一九	三四、四〇三
二、〇〇〇噸以上	九八	二五一、九九四	七	二三、一七七	二〇	二、三四七	一〇三	二六四、三四一
三、〇〇〇噸以上	一四三	五〇三、六三二	七	三三、九九七	一九	八五、一七六五	一七〇	五九七、〇五一
四、〇〇〇噸以上	八三	三六四、一二五	四	一八〇、三八八	四七	二六五、七七二	一〇九	四八二、八四七
五、〇〇〇噸以上	四四九	二、六〇六、三三八	三〇	二〇、七九八	一七	一三三、九〇七	五二八	三、〇三二、四八八
七、〇〇〇噸以上	二七九	二、三六〇、三八七	四	三三	五	二八、三五四	三〇〇	二、五三五、〇九一
一〇、〇〇〇噸以上	二六三	三、四七七、三一七	一	一〇七	一	二七二	二七二	三、五〇五、六七二
二〇、〇〇〇噸以上	二三	四九五、一〇七	—	二六七、三一〇	—	五九六、三八八	二三	一〇、九九七、〇〇一
合計	一、三六〇	一〇、〇九三、二九三	五〇	二六七、三一〇	二二	五九六、三八八	一、五二三	一〇、九九七、〇〇一

第二節　船車聯絡

神戸港第一期築港工事の完成するに先ち、突堤の一部利用に伴ひて、大正六年一月第一突堤税關事務室の一隅に東海道支線神戸港荷扱所の開始を見るに至りしが、其後大正八年・九年各突堤の落成するに從ひて、第二・第三突堤の中間に驛舍を造り、輸出入貨物の運送を開始するや爾來之を利用するもの年と共に增加せり。今既往五ヶ年間に於ける同所發着貨物噸量竝に十四年中の發着貨物月別表を示せば次の如し。

年次	發送貨物	到着貨物	合計
大正十年	九六、一八七	四、〇九〇	一〇〇、二七七
大正十一年	一〇四、〇一九	七、八四七	一一一、八六六
大正十二年	九九、六三七	一五、四五一	一一五、〇八八
大正十三年	八七、五九四	一六、八九〇	一〇四、四八四
大正十四年	七一、八〇一	二〇、五〇一	九二、三〇二

月次	發送貨物	到着貨物
1	5,387	1,978
2	5,585	644
3	7,334	1,347
4	6,251	1,360
5	5,094	963
6	5,344	811
7	5,410	942
8	5,477	1,248
9	6,025	1,503
10	7,242	1,772
11	6,126	3,261
12	6,526	4,672
計	71,801	20,501

神戸港驛　神戸港の設備完成し海陸聯絡の遺憾なく完備せるにつれ、當驛も

旅客列車を運轉するの必要に迫られ、大正十三年七月二十二日鐵道省告示第一三八號を以て從來の荷扱所を神戸港驛と改稱し、同年八月三日より京都間の旅客竝に附隨小荷物に限り運輸營業を開始し貨客の輸送上多大の便利となり當港の發展上尠からざる效果を齎しつゝあり。其の營業範圍は輸出入に係る貨切扱・一車積特種貨物竝に當驛と京都驛間(途中停車驛大阪・住吉)に運轉する汽船聯絡列車に依る旅客・手荷物及旅客附隨小荷物に限定せられ、同手荷物及旅客附隨小荷物も到着のものに限らる。尤も右船車聯絡列車は日本郵船會社の定期歐洲航路汽船の神戸出帆當日たる隔週木曜日に運轉す。

今十四年中の船車聯絡列車の乘降概數を示せば次の如し。

乘車			降車	
月	觀光團	日郵客	觀光團	日郵客
1	1,176	103	1,176	184
2	—	322	—	480
3	504	565	504	823
4	1,680	1,055	1,680	1,727
5	1,061	200	1,061	481
6	—	366	—	540
7	—	118	—	226
8	—	173	—	316
9	—	44	—	212
10	—	100	—	101
11	—	116	—	293
12	—	344	—	508
計	4,421	3,506	4,421	5,893

第四章　國產波止場及運河

第一節　運河革

第一款　沿革

運河開鑿事業は其の端を明治初年新川開鑿に發し、爾來二十有餘年懸案の儘進歩を見ざりしが、明治二十七年二月兵庫運河株式會社の設立を見、同二十九年一月即ち許可後約二ヶ年間を經て漸く工を起し、三十二年十二月竣成せり。其の間設計の變更、或は日清戰後に於ける財界の變動等に遭ひ、會社資金も數度の增額を爲して、竣功當時に於ては七拾萬圓となり、工事費の如きも六拾萬參千餘圓を要せしと云ふ。

右經營會社の收入は運河沿岸所有地の貸地料竝舟筏の通航料を以て之に宛てたるが、其の後沿岸地を賣却したる爲め、缺損打ち續きて收支相償はず從つて其の浚渫も等閑に附せられ、一般利用者の不便甚しく、之が爲大正四年以來沿岸商工業者等によりて施設改善の聲を聞くに至り、苟も斯の如き公益事業は、一私營會社の經營に委すべきものに非ず、宜く國家若くは公共團體の經營に移し以

て其の効用を増大せしむべきものとし、當時早くも公營論を唱ふるもの漸く多きに至れり。其の後本市に於ても之が市營に關し調査を重ね、大正六年九月愈々兵庫運河買收案を作製して、爾來殆んど二ヶ年會社と折衝し、遂に同八年十二月金六拾萬圓を以て其の權利一切を買收し、翌年四月內務大臣の認可を得たり

於茲本市は大正九年度より運河事業を直營し、同年十一月曩に申請中の運河管理條例竝同使用料條例の認可を得以て今日に至れり。而して當初本事業の經營は專ら土木課をして之に當らしめしも、同十二年四月一日港灣部の新設と同時に其の所管を變更し同部に屬せしめたり。

第二款　設備と其利用

運河の位置は大正九年四月五日附內務大臣の命令書第一條に明記せらる。即ち左の如し。

「第一條　運河の位置は兵庫縣神戸市東尻池村海岸より同市兵庫南逆瀨川町字新川に至る間、竝神戸市東尻池町六丁目より分岐し、同市梅ヶ香町官設鐵道兵庫停車場附近に至る間とす」

右命令書に依りて明かなるが如く、本線は其の延長一千三十五間五分にして河幅二十一間乃至三十間を保ち、支線は延長四百間にして、河幅八間乃至十六間を有す。水深は干潮面下本線中央部航路平均六尺支線平均五尺とす。而して此の總水面積實に四萬二千四百三十八坪七合九勺なり。

同運河には廻旋橋四、浮橋一あり、各橋とも晝夜橋番人を置き、水陸交通上一般の利便を計り居れり。尙右の外鐵道廻旋橋一、固定橋四あり。

惟ふに運河開鑿以來之を利用する商工業者は年と共に著しく增加し、沿岸一帶の土地は當市に於ける商工業地區として嚴然其の域を劃するに至れり。今沿岸發展の狀況を擧げんに、製造工場としては川崎造船所兵庫工場、鐘ヶ淵紡績兵庫工場、長田商店竹材工場を始めとし、製糖業には臺灣製糖、明治製糖の兩工場あり。製粉事業には日本製粉、增田製粉、日淸製粉の各工場、製肥業には井上豆粕工場、木全製肥所あり。其の他前田魚油、奥田魚油、吉金魚油等の工場あり。倉庫業には川西倉庫、鈴鹿倉庫を始め大日本鹽業倉庫、鈴木商店魚油倉庫等あり。而して木材の置場としては、市內唯一の場所たるを以て、其の兩岸の空地は木材充滿して立錐の餘地なき盛況を呈し、宮下木材、北海林業、神戸木材興業、白崎合名社を始め大小の製材工場櫛比し、今や關西地方に於ける木材の一大集散地の觀あ

り。尙青物市場の設置あるを以て、當市に供給せらるゝ野菜、果實類の大半は、一旦此關門を通過するの狀況にして、又陸送には新川驛ありて物貨の輸送隆盛を極め沿岸一帶は常に船舶の輻輳せるを見る。かくしてく一ヶ年沿岸大小各製造工場に呑吐する貨物は、百四萬四千七百五十七噸にして之等は何れも船舶を使用せるを以て、河中は常に此等の船舶竝入河木材を以て充塞し、頗る狹隘を感するの狀況にして、以て如何に運河開拓事業が當地の發展に貢献せるかを察知するに足るべし。今大正十四年中に於ける運河入出貨物の種別、東西兩入口別等を表示せば左の如し。

（大正十五年一月調査）

港内	他港	合計		
計		入貨	出貨	計
噸	噸	噸	噸	噸
—	216	190	26	216
59,129	2,463	54,604	6,988	61,592
193,764	49,864	108,639	134,989	243,628
27,649	135	27,702	82	27,784
17,020	5,401	12,477	9,944	22,421
7,357	1,021	6,547	1,831	8,378
1,413	8,647	6,177	3,883	10,060
3	32	12	23	35
3,246	1,317	1,000	3,563	4,563
34,740	123,363	121,205	36,898	158,103
38,441	18,019	26,108	30,352	56,460
919	22,888	20,820	2,987	23,807
1,815	296	1,529	582	2,111
45,037	6,341	31,925	19,453	51,378
89,370	228,625	204,600	113,395	317,995
14,723	41,503	26,847	29,359	56,226
534,626	510,131	650,402	394,355	1,044,757

ノチ掲ゲタリ

大正十四年運河出入貨物調査表

種別	東口 入貨 港内	東口 入貨 他港	東口 出貨 港内	東口 出貨 他港	西口 入貨 港内	西口 入貨 他港	西口 出貨 港内	西口 出貨 他港
	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
動物及植物	—	—	—	—	—	190	—	26
穀物及種子	51,095	865	5,160	899	2,123	521	751	178
飲食物	6,913	4,458	57,409	10,918	88,563	8,705	40,879	25,783
皮毛骨角牛皮羊毛及同製品	1,257	75	52	—	26,340	30	—	30
油脂及臘類	1,863	117	3,003	1,011	8,980	1,517	3,174	2,756
藥品及染料塗料	5,398	140	1,273	150	575	434	111	297
絲繰索及同材料	48	32	1,260	2,316	10	6,087	95	212
紙類及同製品	3	—	—	—	—	9	—	23
麻製品及布帛製品	226	—	2,255	1,304	765	9	—	4
礦物及製品	4,971	471	1,164	919	24,738	91,025	3,847	30,948
鐵及同製品	1,024	199	1,052	1,999	21,861	3,024	14,494	12,797
陶器瓷器土管瓦煉瓦　硝子及同製品	1	23	241	1,085	503	20,293	174	1,487
機械類及車輛竝電用品	788	90	—	20	465	186	562	—
肥料及飼料	19,975	256	6,473	1,043	11,132	562	7,457	4,480
木材竹材及同製品	26,585	25,390	34,727	22,930	16,776	135,849	11,282	44,456
雜品	1,101	1,247	9,839	8,393	1,750	22,769	2,033	9,094
計	121,248	33,363	123,918	52,987	204,581	291,210	84,879	132,571

備考　本表港内トハ神戸港内ヨリ出入セシモノ、他港トハ内國沿岸各港ヨリ出入セルモ

第三款　市營後の概況

一、設備費及其の財源　大正八年十二月本市が會社の權利一切を買收せる六拾萬圓の中參拾萬圓を現金にて、殘り參拾萬圓を六分利付運河事業公債にて交付せり。而して事業公債の償還は神戸市運河公債條例に依り、大正八、九、十の三ヶ年は之を据置き、十一年より二十七年に至る十七ヶ年間に元資償還を行はんとするにあり。又運河公債は本市一般會計に屬するも、元資竝利子の償還財源は主として運河收入を以て之に充當し居れり。

二、事業の收支　大正八年十二月運河買收より翌年三月に至る四ヶ月間は一ヶ月貳千四百圓也にて個人に、料金徴收方を請負はしめしが、九年四月より市の直營とせり。當時歐洲大戰亂後に於ける財界の變動及使用料條例の認可延引とに依り、收入に多大の減收を來したるも、尙七萬壹千參百拾餘圓を得たり。翌十年度に於ては使用料條例の改正、竝所謂中間景氣の爲收入著しく增加して、拾萬壹千四百餘圓に達したるも、十一年度に於ては著しく不況に陷り收入減を來し漸く八萬四千六百六拾餘圓を得、更に十二年度には八萬六千四百貳拾餘圓、十三年度には八萬六千四百貳拾圓餘、十四年度には八萬六千四百貳拾餘圓の收入たり。支出に關しては大正九、十年度迄は、元資の償却を爲さゞりし爲め、支出は單に公債の利子竝事務費に限られ、一ヶ年凡そ六萬圓內外を要せしも、十一年には元資の償還を行ひたるを以て、八萬貳千七百參拾餘圓、十二年には浚渫費、護岸修繕費等前年に比し多額の支出を要せし爲、九萬壹千七百餘圓に上り、十三年には八萬壹千八百五拾圓餘、十四年には八萬六千七百九拾餘圓を要せり。今之が收支計算表を示せば左の如し。

種別	大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
收入 護岸使用料	—	三、六六八・〇〇〇円	一二、〇四五・〇〇〇円	七、七〇四・〇〇〇円	七、八二〇・〇〇〇円	八、三五〇・〇〇〇円	六、〇一二・〇〇〇円
船舶入津料	—	四〇、〇六三・五五〇	五一、四四九・七五〇	四三、三三六・七一〇	四三、一三三・五九〇	四六、六一五・一七〇	五二、五八八・九五〇
筏入津料	—	七、二二九・五〇〇	一七、〇〇一・八〇〇	一三、四六四・八〇〇	一二、四九五・一〇〇	一二、三二七・一〇〇	一〇、一四五・一〇〇
筏延滯料	—	一六、七七七・九〇〇	一七、五五二・二〇〇	一六、八一四・三〇〇	一九、二二三・七〇〇	一六、七七三・九〇〇	一六、三八一・三〇〇
苅藻島使用料	—	三、三六〇・〇〇〇	三、三六〇・〇〇〇	三、三六〇・〇〇〇	三、三六〇・〇〇〇	二、三五四・〇〇〇	一、二九六・〇〇〇
雜收入	一四、三六五・〇〇〇円	三、五〇〇・〇〇〇	—	—	—	—	—
計	一四、三六四・〇〇〇	七一、三一四・九六〇	一〇一、四〇八・四九〇	八四、六六九・八一〇	八六、〇四二・三九〇	八六、四二〇・一七〇	八六、四三三・三六〇
支出 運河事業公債元資償還金	—	—	—	—	—	—	二五、一〇〇・〇〇〇
同利子	—	三〇、三三四・七四〇	三四、五六七・二〇〇	三三、三八九・八〇〇	三三、四〇〇・〇〇〇	二七、七三六・七三〇	三〇、一四一・〇〇〇
事務費	—	三〇、四四一・四八五	三〇、一七二・一二〇	二九、二四九・三一〇	二六、八一〇・〇〇〇	二九、一六三・八四〇	二九、九八九・七三〇

出計	一	六〇、八六六・三三五	六四、七五九・三三〇	八二、七五九・〇三〇	九一、七〇九・三八〇	八一、八八〇・〇四〇	八六、〇四〇・七三〇
差引計	一四、三五五・〇〇〇	一〇、六四八・七三五	三六、六六九・一七〇	一、九三〇・七八〇	五、六六六・九九〇	四、五七〇・一三〇	三八二・六三〇

三、事業の効果竝維持費

イ、本事業が私營會社の經營より、本市の直營に移動したると同時に、從來放任せられたる運河内の秩序の維持に努め、一面施設の改善に留意し、橋梁の修繕河底の浚渫等を行ひたる爲、其の効用著しく増大し、一般利用者の利便する頗る大にして、會社經營時代に比し面目一新の觀なしとせず。

ロ、運河の經營維持費は運河公債の元利償還期、即ち大正二十七年度迄の間は、一ケ年凡そ八萬五六千圓を要すべく、而して之が收入は運河犬走使用料と、舟筏入津料とを以て充足し居るに偶々大正十三年市電高松線の延長を見るに至り、恰も運河東入口の玄關に當れる、新川廻旋橋が軌道固定橋に改築せられたる爲め、有檣船の入津全く不能となり、從つて一時收入激減の憂ひなきにあらざりしも、幸に同橋梁の構造に深く留意する所ありて滿潮面と桁下空間限界を九尺五寸一分、幅員五十尺二道の航通路を保有せしめたる爲めか些少の收入減に止まりたるは寧ろ以外とする所なり、やがて元資償還の曉に於ては相當の財源たるは想像に難からざるなり。

第四款　舟筏入津の狀況

本市が運河直營以後に於ける入津舟筏の模樣を見るに。

一船舶　本事業市營後即ち過去六箇年間に於ける入津船舶の隻數は、左表に示せるが如く、大正九年度の六萬八千九十九隻を最多とし、逐年減少の頽勢を示しつゝあり。蓋し九年以降打續ける財界の不況に祟られ、運河沿岸商工業界の萎靡衰頽に因る一時的現象と認むべく、將來景氣挽回するに於ては、再び其の増加を見るに至るべし。

種別＼年度別	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
間船	四一、三二八隻	四四、二七〇隻	三七、二六三隻	三五、八八五隻	三七、七七六隻	三七、八二七隻
石船	一五、九九三	一三、九八四	九、〇四四	七、二四	六、五一四	五、四九四
噸船	一〇、五七八	六、二〇五	五、六九〇	六、〇八二	七、一九三	八、五二八
計	六八、〇九九	六二、四四九	五一、九九七	四九、一七五	五一、四八三	五一、八四九

以上を二間船二十石、三間船三十石、四間船百五十石、五間船二百石、六間船三百

石七間船五百石、八間船八百石、九間船千石、十間船千二百石及十石一噸の換算率によりて其の積量を示せば。

大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
五六九、三九三噸	六二〇、一八八噸	五一六、九六四噸	五一四、五一二噸	五〇八、三九三噸	四九九、三七〇

となり減少の傾向あるを免れず。是は從來運河内に繫留せし釣舟の大半が湊川尻に移りたるに因るものにして、一般財界の盛衰と入津船舶の增減とは常に正比例の現象を呈せるを以て見れば、大正十四年度の財界依然として沈衰せるを知るべき乎。

入津船舶の種類は日本形間船、石船及西洋形噸船の三種にして、間船は一間以上十三間未滿、石船は五十石以上二百石未滿、噸船は五噸以上二百噸未滿迄を主とし、其の仕出地・仕向地は、近畿・中國・四國遠くは九州沿岸に渉れりと雖も、大半は港内船舶の入河に屬し、大阪及播州沿岸諸港のものも亦比較的多きが如し。而して運河東入口の新川廻旋橋の固定橋となりたる結果、有檣船の入津不能となり、一時入津船減少の懸念なきにあらざりしも、幸に其の事なく一面兵庫築港の完成後は、内國貿易の中心地となり、商工業益々發展すべく、從つて現在に於ける有檣船は無檣船と變りて、依然入津旺盛なるべきを以て、固定橋架設の一事を以て入津船の激減を夢想したるは皮想の見に過ぎざるなり。殊に西入口第一橋にして將來現狀を失はざる限り、有檣船入津の自由は保障せらるべきを以てなり。

二筏　運河沿岸は關西に於ける木材の一大集散地にして、内材の仕出地は北海道・樺太・紀州・四國・中國、外材の仕出地は米國・加奈陀・沿岸州・南洋方面を主とす。而して其の組立は木材の種類に依りて異なれども、本市は使用條例に依りて之に制限を加へ、最大を長さ四十八尺幅十二尺迄とす。今左に市營後に於ける入津及延滯筏の連數を揭げん。

種別	區別	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
筏 長四十八尺 幅十二尺	筏入津料	一、九〇一連	四、六〇七連	三、五二三連	三、一五一連	三、〇〇七連	二、二〇二連
	筏延滯料	五、九三〇	五、五〇六	五、七三五	七、二六九	六、一一一	五、八三三
筏 長三十尺 幅十二尺	筏入津料	二、九八五	四、五七〇	三、九〇四	三、八四八	四、〇〇八	三、七三三
	筏延滯料	二、四五四	三、一五六	二、〇六四	八七六	一、二四七	一、四九九
計		一三、二七〇	一七、八三九	一五、二二五	一五、一四四	一四、三七三	一三、三二六

第二節　國產波止場

第一款　沿革概要

國產波止場は、神戸開港後明治初年に於て築造せられたる第三波止場構内東部、長さ百間の防波堤内に限られたる五十間波止にして、神戸に於ける唯一の沿岸貿易貨物の集散地たりしが、外國貿易の長足の進歩に伴ひ、內國貿易に影響して、狹隘なる國產波止場のみを以ては逐年增進する沿岸貿易貨物を呑吐することと困難となり、從つて百貨輻輳の場合集散の敏活を缺き、船舶の繫留長きに亘るとき貨物の澁滯を來たし、產業の發達、貿易の促進を阻害する大なるものありしを以て、兵庫縣に於ては經費貳拾貳萬五千七百餘圓を投資し、之が擴張工事を計畫せり。而して明治三十九年七月起工、同四十年二月竣工、之を神戸港船渠と稱へたり。其工事大要左の如し。

一、埋立面積一、八五〇坪

一、浚渫面積一六、七三四坪　水深干潮面下十尺

一、荷揚場延長五〇八間

一、鐵骨亞鉛葺上屋五棟　此坪數六〇六坪

一、棧橋四臺　左記の通り

區別	長サ	幅	用途	構造
A	七九間〇	五間	內航用	木造浮棧橋
B	一六間五	二間	同上	同上
C	九間五	二間	外航用	同上
D	九間五	二間	郵便用	木造固定橋

兵庫縣は神戸港船渠の完成するや、明治四十年四月神戸海陸運輸株式會社をして、使用料徵收を請負はしめ、以て元資の償却に充てたり。爾來大正十四年三月迄神戸海陸運輸會社の經營に委したるも、既に元資の償却を了へしと、港灣行政統一を期する爲とにより、之を神戸市の管理經營に移すを便宜なりとし、大正十四年三月の臨時縣會に於て其讓渡を決定せり。而して本市は本年四月一日現在を以て、金貳拾五萬壹千圓にて之が讓渡を受く。

第二款　市營後の狀況

本市は兵庫縣より神戸港船渠を讓り受け、市會の議決を經て、其筋の認可を得

四月一日を以て國產波止場管理竝に使用料條令を公布し、鋭意其の管理經營に努めたり。而も累年の財界の不況は依然變化なくして、集散貨物の激減に加ふるに、使用料も亦從前より低減したる爲め、豫期の成績を收むることを得るや頗る憂慮するありしも、幸ひに相當の成績を收めたるは欣快とする所なり。今市營後に於ける國產波止場の概況を述ぶれば左の如し。

(一) 國產波止場利用狀況

(イ) 貨物の出入及び上屋土地使用の狀況

大正十四年四月一日より大正十五年三月三十一日に至る一ヶ年間(以下大正十四年度と稱す)國產波止場の出入貨物の狀況は、棧橋經由貨物と荷役場出入貨物とに大別すれば、棧橋經由貨物に於て、移出二萬六千三百十三噸、移入四萬二千〇二十三噸、合計六萬八千三百三十六噸にして、又荷役場出入貨物に於て、移出十五萬六千〇六十一噸、移入三十五萬四千三百十三噸、合計五十一萬〇三百七十四噸に上り、國產波止場出入貨物總計は實に五十七萬八千七百十噸に達す。而して出入貨物中飲食物(芭蕉實、玉葱、馬鈴薯、密柑等)を主とし、木竹材及同製品、礫、砂利及布帛類等之に亞ぐ、即ち左表の如し。

國

月別 / 出入別 / 品名	四月 出	四月 入	五月 出	五月 入	六月 出	六月 入	七 出	
動物及植物	—	2	—	4	—	5	—	
	11	—	—	15	4	—	—	
穀物及種子	—	—	—	—	—	—	—	
	25	—	13	7	95	2	124	
飲食物	—	212	—	351	1	1,761	—	
	916	2,445	1,749	9,006	1,831	11,108	9,160	1
煙草	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	95	—	40	
皮毛骨角類及其製品	—	—	—	—	—	—	—	
	9	—	21	2	—	14	—	
油脂及蠟	—	—	25	—	—	19	73	
	104	12	27	1	5	19	232	
藥品及染塗料	10	1	34	8	21	—	—	
	149	48	260	391	194	304	232	
糸繊維索及同製品	1	97	18	76	27	63	147	
	133	81	162	354	240	242	328	
布帛及同製品	14	232	4	309	27	259	90	
	24	284	144	344	129	94	155	
製紙原料同製品	2	50	6	215	14	110	10	
	22	188	100	235	88	245	70	
礫物及同製品	—	—	—	—	—	—	—	
	54	110	59	710	—	520	—	
鑛石	—	—	—	—	—	—	—	
	46	933	160	3,371	194	1,125	193	
金屬及同製品	1	—	84	—	99	7	73	
	356	149	319	250	303	210	403	
陶磁器及硝子同製品	—	—	—	—	—	—	—	
	13	168	95	442	101	360	70	
車輛時計機械	2	—	—	—	12	—	14	
	80	—	158	—	74	—	105	
肥料及飼料	—	—	—	—	—	—	—	
	—	6	3	—	32	40	103	
木竹材及同製品	1	1	—	25	—	13	—	
	400	920	1,184	1,752	4,372	1,138	165	
雜品	894	833	1,864	2,630	1,575	2,331	1,622	
	4,225	7,748	6,337	16,342	6,820	14,621	6,369	1
計	924	1,428	2,035	3,618	1,776	4,568	2,029	
	6,567	13,092	10,791	33,282	14,077	30,042	17,749	3
通計	7,491	14,520	12,826	36,900	15,853	34,610	19,778	3

備考　各行上段ハ棧橋經由貨物下段ハ荷役岸出入貨物

國産波止場出入貨物噸量表（自大正十四年四月 至大正十五年三月）（單位噸）

品名＼月別 出入別	四月 出	四月 入	五月 出	五月 入	六月 出	六月 入	七月 出	七月 入	八月 出	八月 入	九月 出	九月 入	十月 出	十月 入	十一月 出	十一月 入	十二月 出	十二月 入	一月 出	一月 入	二月 出	二月 入	三月 出	三月 入	合計 出	合計 入	合計 計
動物及植物	—	2	—	4	—	5	—	12	—	21	—	25	—	25	—	29	—	42	—	58	—	34	17	97	17	354	371
	11	—	—	15	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	22	15	37
穀物及種子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	—	13	7	95	2	124	31	37	50	56	43	143	49	69	331	19	19	22	89	8	52	28	9	639	682	1.321
飲食物	—	212	—	351	1	1,761	—	860	9	687	—	217	14	567	13	1.159	27	1,535	48	1,274	14	808	20	782	146	10,213	10.359
	916	2.445	1,749	9,006	1,831	11,108	9,160	16,261	7.774	14,873	4,959	9,183	4.547	13,235	4,873	8,960	4,010	7,079	3,194	5,875	1,541	3,555	3,053	7,681	47,107	109.258	156.365
煙草	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	95	—	40	—	—	—	30	—	—	—	27	—	—	—	30	—	99	—	—	—	321	—	321
皮毛骨角類及其製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	—	21	2	—	14	—	15	14	52	—	13	9	—	13	—	—	—	—	23	25	—	24	—	115	119	234
油脂及蠟	—	—	25	—	—	19	73	—	90	—	72	—	58	—	67	9	64	—	48	7	58	2	60	—	615	37	652
	104	12	27	1	5	19	232	20	280	59	166	92	223	64	96	99	68	10	109	41	161	59	158	61	1,629	537	2.166
藥品及染塗料	10	1	34	8	21	—	—	—	—	—	—	—	29	—	20	—	—	—	15	30	33	4	17	4	179	47	226
	149	48	260	391	194	304	232	230	360	422	394	590	149	550	109	403	218	376	245	476	136	208	235	313	2,681	4,311	6.992
糸綫縄索及同製品	1	97	18	76	27	63	147	504	79	333	95	542	153	635	165	294	207	319	353	228	183	111	96	135	1,523	3,335	4.858
	133	81	162	354	240	242	328	394	343	241	275	129	441	207	350	485	439	520	244	121	195	318	284	266	3,434	3,359	6.793
布帛及同製品	14	232	4	309	27	259	90	333	60	454	85	378	123	561	117	592	216	15	16	4	33	40	181	106	966	3,283	4.249
	24	284	144	344	129	94	155	538	133	485	95	493	18	316	—	—	—	—	434	600	271	622	332	764	1,735	4.540	6.275
製紙原料同製品	2	50	6	215	14	110	10	62	10	—	8	—	7	—	8	25	26	528	27	71	9	116	12	104	139	1,281	1,420
	22	188	100	255	88	245	70	197	123	310	27	158	46	353	10	175	2.000	219	38	228	51	229	56	198	2,631	2,755	5.386
礦物及同製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	5	—	5
	54	110	59	710	—	520	—	—	—	1,456	96	831	—	—	—	—	300	1,220	437	1,178	372	1,493	429	1,963	1,747	9,481	11.228
鑛石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	46	933	160	3,371	194	1,125	193	2,325	198	473	—	363	239	1,474	198	1,892	—	435	—	—	—	—	—	—	1,228	12,391	13.619
金屬及同製品	1	—	84	—	99	7	73	—	58	7	92	3	134	—	86	—	45	—	25	—	34	1	20	—	751	18	769
	356	149	319	290	303	210	403	259	291	245	199	217	324	287	304	336	184	518	335	548	493	338	534	277	4,045	3,674	7.719
陶磁器及硝子同製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13	168	95	442	101	360	70	383	189	250	120	211	73	519	86	336	36	90	75	252	41	100	54	366	953	3,477	4.430
車輛時計機械	2	—	—	—	12	—	14	—	23	—	12	—	17	—	28	—	38	—	32	—	32	10	27	—	237	10	247
	80	—	158	—	74	—	105	9	9	5	—	—	76	1	76	—	15	60	125	—	81	—	133	—	932	75	1.007
肥料及飼料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	6	3	—	32	40	103	12	12	15	1	—	25	20	—	20	—	—	19	21	—	12	3	3	198	149	347
木竹材及同製品	1	1	—	25	—	13	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	7	18	—	3	12	29	58	87
	400	920	1,184	1,752	4,372	1,138	165	1,269	1,128	1,026	1,843	1,785	358	1,522	524	2.172	112	1,591	1,925	659	411	2,568	374	2,630	12,796	19,032	31.828
雜品	894	833	1,864	2,630	1,575	2,331	1,622	1,876	1,776	1,689	1,646	1,330	2,130	1,981	2,224	1,873	2,079	2,926	1,843	2,453	1,714	1,485	2,339	1,986	21,706	23,387	45.093
	4,225	7,748	6,337	16,342	6,820	14,621	6,369	13,024	5,285	16,199	4,328	14,223	7,227	17,582	6,414	18,396	8,302	18,229	6,334	12,150	5,430	14,465	6,777	17,477	73,848	180,458	254 306
計	924	1.428	2.035	3 618	1,776	4 568	2.029	3 647	2.108	3.191	2 010	2 495	2 665	3.769	2.728	3 981	2.702	5.365	2.441	4,132	2.133	2 611	2.792	3.218	26.313	42.023	63.336
	6.567	13 092	10.791	33 282	14.077	30.042	17.749	34.967	16.176	36 161	12.589	28.331	13 898	36.179	13.149	33 608	15.703	30 363	13.566	22.261	9.315	24 019	12 481	32 008	156 061	354.313	510.374
通計	7.491	14.520	12 826	36 900	15 853	34 610	19.778	38 614	18 284	39.352	14.599	30.821	16.563	39.948	15.877	37.589	18.405	35.728	15 977	26 393	11.448	26 630	15.273	35.226	182.374	396 336	578.710

備考　各行上段ハ棧橋經由貨物下段ハ荷役岸出入貨物

次に上屋使用の狀況を見れば、二日迄使用のもの四萬五千四百六十七坪、三日以上使用のもの一萬五千二百五十坪合計六萬〇七百十七坪にして、一日平均百八十六坪となりて一般使用坪數四百二十五坪に比し約四割强の割合なりとす。

又土地使用にありては七十六ヶ所、此坪數六百十四坪二合三勺三才なり。

(ロ) 旅客其他及旅客手荷物出入狀況

大正十四年度國產波止場棧橋通行者は、大人四十一萬二千四百四十八人、小人四千九百十四人、合計四十一萬七千三百六十二人にして、內汽船昇降旅客は、二十六萬三千一百五十六人、總數の六割三分に相當す。其他は送迎人又は途中上陸者なり。而て旅客手荷物は十一萬九千五百十九個に及ぶ。

(ハ) 棧橋出入船舶狀況

大正十四年度中內航棧橋に入港繫留汽船は、五千八百二十六隻、總噸數四百五十五萬二千八百六十噸、登簿噸數二百五十一萬五千一百九十三噸にして出港亦之と同じく、一日平均十六隻の割合なり。今之を航路別使用船名及び噸數に分ち表示せば左の如し。

(二)　市・營・後・の・收・入・狀・況・

航路別	船名	總噸數	登簿噸數	船會社名
神戸港大觀	同	二、一七五	三、三四〇	同
同

市營後に於ける國產波止場各使用料率は、縣營當時に比較して荷役場使用料一噸六錢を五錢に、上屋使用料二日以上六日迄六拾錢を二日迄一日毎に拾錢三日以上六日迄六拾錢に、又棧橋通行料大人一人に付き六錢を五錢に低減せり。其の結果を國產波止報の實績に徵すれば荷役場使用料に於て五千壹百〇參圓、上屋使用料に於て壹千四百六拾六圓、棧橋通行料に於て參千八百四拾參圓、合計壹萬〇四百拾貳圓減を計上することを得べく貨主旅客の享くる便益蓋し尠少ならざるべし。試に大正十四年度中國產波止場收入を左に掲ぐ

種別	金額
旅客棧橋通行料	二一、一二九・六四円
貨物棧橋經由料	一四、二〇七・〇四
旅客手荷物棧橋通行料	一、二八八・九三
荷役場使用料	二七、二五〇・九九
上屋使用料	一四、一七〇・六〇
土地使用料	二一、八〇三・四六
合計	九九、八五〇・六六

第五章　船舶

第一節　沿岸通航船の觀察

沿岸航路就航船の主なる航路は瀨戸內海を中心とし、四國、九州、中國遠くは朝鮮、臺灣、北海道、樺太竝に裏日本の諸沿岸に至るものにして、日本海沿岸諸港を除く外は當港と甚だ密接なる關係を有するが故に沿岸就航船の多數は本港に出入す。大正十四年度中本港に出入せし內航船は二萬九千三百七十七隻にして其の登簿噸數一千五百九萬四千九百六十一噸なり。內入港に係るもの一萬四千六百七十八隻、其の登簿噸數七百五十萬七千百七十七噸、出港に屬するもの一萬四千六百九十九隻、其の登簿噸數七百五十八萬七千七百八十四噸にして、之れを十三年と比較するに、出入隻數に二百二十二隻を減じ、登簿噸數に於て七千二百七十八噸の增加を示せるは、全く遠洋不況の結果、近海に大型船の配船を見たるものなるが如し。今既往十四ヶ年の本港出入船舶の一般を示せば次の如し

年次＼隻數及噸數	入港 隻數	入港 登簿噸數	出港 隻數	出港 登簿噸數	合計 隻數	合計 登簿噸數
大正元年	一一、六二三	四、八六二、一二七	一一、七七九	五、〇五三、三〇一	二二、三七二	九、九一六、四二八
大正二年	一一、六九八	四、九一一、三八二	一一、八三九	五、一三六、一二四	二三、五三七	一〇、一二七、五〇七
大正三年	一二、〇二四	五、一九〇、一二九	一二、三三一	五、六四〇、一七四七	二四、二五五	一〇、九二一、〇四六
大正四年	一一、六二一	五、〇九二、一一七	一一、七四一	五、三九二、八二九	二三、三五二	一〇、四八六、〇〇六
大正五年	一三、三〇四	四、九五六、五五一	一三、三七九	五、一八五、六一六	二六、六八三	一〇、一四二、一六七
大正六年	一三、〇一六	四、一二七、一四八九	一三、一四四	四、五三七、六一七	二六、一七〇	八、八〇一、一〇六
大正七年	一三、〇四二	四、一九七、一九五	一二、九八六	四、一九八、四六二	二六、〇二九	八、三九五、六五六
大正八年	一四、五五一	五、五七五、三三三	一四、五三三	五、四〇二、七六六	二九、〇七二	一〇、九七八、〇九八
大正九年	一一、四二六	四、二六七、五二八	一一、三七九	四、二四三、一四一	二二、八〇五	八、五一〇、六六九
大正十年	一三、八四〇	四、八七七、〇二三	一二、八一九	四、八一九、六〇九	二五、六五九	九、六九五、六三一
大正十一年	一三、一〇六	五、七二一、三三七	一三、〇七七	五、六六〇、一三〇	二六、一八三	一一、三九一、四六七
大正十二年	二四、二六九	六、六八七、二三九	一四、二四一	六、六四四、四七一	二八、五一〇	一二、三三一、七〇〇
大正十三年	一四、八一九	七、五七九、八八四	一四、七八〇	七、五〇七、七九九	二九、五九九	一五、〇八七、六八四
大正十四年	一四、六七八	七、五〇七、一七七	一四、六九九	七、五八七、七八四	二九、三七七	一五、〇九四、九六一

前表所掲は登簿噸數二十噸以上の船舶のみに就ての數字なれども、二十噸に滿たざる船舶にして沿岸貿易に從事せるもの亦決して尠からず。故に實際に於ける本港出入の沿岸通航船は、前表よりも非常に多かるべし。大正十四年中本港に出入したる沿岸通航船の如何に頻繁なるかを窺ふに資せんが爲に、本邦主要港に於ける沿岸通航船の出入隻數及其の總噸數を示せば左の如し。

港別	入港 隻數	入港 總噸數	出港 隻數	出港 總噸數
横濱	一、七二五	三、八八一、二七一	一、七二五	三、八四九、八七一
神戸	一四、六七八	一三、〇三六、四二九	一四、六九九	一三、一三八、九一〇
長崎	二、六〇二	六五六、五一三	二、五八八	六六三、二七六
門司	三、五四七	六、八六〇、〇四九	三、五四七	六、八六一、〇一四
大阪	一〇、三六一	九、四〇八、三五三	一〇、三三七	九、七九二、三〇六

右の外大正十四年中本港に入港したる帆船は隻數四萬五百五隻、其の登簿噸數二百二十三萬四百五十六噸にして、其の内洋型帆船は一萬四千九百六十三隻其の登簿噸數百五十五萬六千百五十二噸、和型帆船二萬五千五百四十二隻、其の登簿噸數六十七萬四千三百四噸なり。之れを前年に比すれば、洋型帆船に於て三千六百四十八隻三十七萬九千三百九十二噸を增加し、和型帆船に於ては七千六百七十三隻二十萬二千五百七十二噸を減ぜり。是は大正四年以降歐洲大戰亂により汽船船腹の不足を洋型帆船に需めたる關係上逐年漸增の觀あるに反

し、和型帆船は洋型帆船の爲めに其地位を侵されて遞減しつゝある爲めなり。

今大正元年以來本港に於ける出入船舶增減の關係を見るに、年により多少の例外ありと雖も、累進の跡あるは蔽ふべからざる所にして其の率を表示すれば次の如し。

年次	出入隻數の割合	出入噸數の割合
大正元年	一・〇〇	一・〇〇
大正二年	一・〇一	一・〇二
大正三年	一・三〇	一・〇二
大正四年	〇・九九	一・〇五
大正五年	一・一四	一・〇一
大正六年	一・一一	〇・八八
大正七年	一・一一	〇・八四
大正八年	一・二四	一・一〇
大正九年	〇・九八	〇・八五
大正十年	一・一〇	〇・九八
大正十一年	一・一一	一・一五
大正十二年	一・二一	一・三四
大正十三年	一・二七	一・五二
大正十四年	一・二六	一・五四

第二節　外國貿易船の觀察

外國航路の主なるものは大連・上海を主とし、英領印度・濠洲・南洋・亞米利加・歐洲等にして、其他多數の不定期航路あり。本年の如く海運界の不振に於ても多數の就航船本港に出入し、常に殷盛を極む。大正十三年中に於ける外國貿易船の總出入六千九百五十隻、其の總噸數二千四百十八萬六千九百四十六噸にして、內入港三千五百八隻、一千二百二十四萬三百三十八噸、出港三千四百二十六隻、一千百九十四萬六千六百八噸にして、之を前年と比較するに、總出入に於て五十隻を減じ、十三萬一千九百二十二噸を增加せり。左に大正五年以降十ヶ年間の出入隻數並に噸數表を示せば次の如し。

年次	隻數及噸數	入港 隻數	入港 總噸數	出港 隻數	出港 總噸數
大正五年		二、六一一	五、八二七、八三二	二、六七八	五、八四〇、四五五
大正六年		二、五六三	五、四二五、四五七	二、四八五	五、二七九、六五五
大正七年		二、七七六	五、一〇四、一四〇	二、七九七	五、三二一、一〇四
大正八年		三、四一九	六、六五八、三一三	三、三二四	六、六二三、二六三

大正九年	三、三七二	八、二四三、四〇一	三、二九九	八、三五三、三六四
大正十年	二、八八五	八、一三二、五一九	二、七六五	七、八六九、一二二
大正十一年	三、一九四	一〇、一一六、七〇二	三、〇六九	九、七〇九、五三二
大正十二年	三、三〇八	一一、〇三二、三〇八	三、二八六	一〇、七四八、六八一
大正十三年	三、五〇八	一二、〇〇六、四四〇	三、四九二	一二、〇四八、五八四
大正十四年	三、五二四	一二、二四〇、三三八	三、四二六	一一、九四六、六〇八

右表の如く隻數に於て五十隻減じ噸數に於て十三萬一千九百二十二噸を增加せるは、近時世界海運界の趨勢として小型船より大型船に變りつゝある事と一面アドミラルラインコンパニー、ダラーラインコンパニー、加奈陀太平洋汽船會社等の所屬大型船舶の入港によるものなるが如し。更に內外國籍別に依りて觀察するに、入港船舶は內國船二千五百十一隻七百三萬八千五百八十噸、外國船一千十三隻五百二十萬一千七百五十八噸にして、出港船舶は內國船二千四百二十一隻六百七十七萬七千六百八十五噸、外國船一千五隻五百十六萬八千九百二十三噸なり。如斯本港に出入する船舶は逐年膨脹を來し、我が海運界の隆盛を表明すと雖も、尙其の三割を外國船に占めらる有樣なり。殊に歐洲戰後我が海運界に於ては夥しき輸入船に依る船腹膨脹に惱まされ、容易に不況を脫出する能わざる狀態にて、近海は勿論遠洋方面に於ても依然萎微不振を續け、加ふるに各國競て過剩船腹調節の目的を以て老朽船の淘汰處分に努力しつゝ有るに依り優秀船の廻航するもの多く外國貿易船數は漸次壓迫の度を增しつゝある の狀態なり。左に大正十一年以降四ヶ年に亘る內外國船出入の變動を表示し其の一般を窺ふに資せんとす。

種別＼年次	隻數 大正十四年	隻數 大正十三年	隻數 大正十二年	隻數 大正十一年	噸數 大正十四年	噸數 大正十三年	噸數 大正十二年	噸數 大正十一年
入港 內國船	二、五二一	二、三九九	二、二六八	二、二四五	六、〇三八、五八〇	六、五九九、一五〇	六、〇〇五、三一九	五、七二七、四四二
入港 外國船	一、〇一三	一、二六九	一、〇四〇	九四九	五、二〇一、七五八	五、四〇七、二九〇	五、〇二六、九八九	四、三九九、二六〇
出港 內國船	二、四二一	二、三四八	二、二八七	二、一五三	六、七七七、六八五	六、六〇八、九九七	四、八六一、〇一一	五、五二六、九六一
出港 外國船	一、〇〇五	一、一四四	九九九	九一六	五、一六八、九二三	五、四三九、五八七	四、八八七、六七〇	四、一八二、五七一
內國船計	四、九三三	四、六八七	四、五五五	四、三九八	一二、八一六、一六五	一二、二〇八、一四七	一一、八六六、三三〇	一一、二五四、四〇三
外國船計	二、〇一八	二、三一三	二、〇二九	一、八六五	一〇、三七〇、六八一	一〇、八四六、八七七	九、九一四、六五九	八、五七一、八三一
總計	六、九五〇	七、〇〇〇	六、五九四	六、二六三	二四、一八六、九四六	二四、〇五五、〇二四	二一、七八〇、九八九	一九、八六六、三三四

次に船籍によりて各國船舶の本港出入狀況を窺ふに、先づ入港に於て本國船の二千五百十一隻七百三萬八千五百八十噸を最高とし、英國船の五百二十九隻

二百六十四萬二千四噸之に次ぎ、北米合衆國の二百三十九隻百四十八萬七千七百二十一噸第三位にして、獨逸・佛蘭西・和蘭之に隨ふ。出港に於ても亦同樣の順次たり。而して逐年出入船舶の船腹漸大は、一に外國貿易の進展しつゝある事を表明するものにして、又以て如何に各國が大船主義に努力しつゝあるかを左表によりて知るべし。

【入港】

船籍	大正十四年 隻數	大正十四年 登簿噸數	大正十三年 隻數	大正十三年 登簿噸數	大正十二年 隻數	大正十二年 登簿噸數	大正十一年 隻數	大正十一年 登簿噸數
日本	二、五二一	七、〇三八、五八〇	二、三三九	六、五九九、一五〇	二、二六八	六、〇〇五、四一九	二、二四五	五、七七七、四四一
英吉利	五二九	二、六四二、〇〇四	五六六	二、六四二、〇八六	四七九	二、三三三、〇〇一	四九一	二、二五二、二八四
佛蘭西	六〇	三五〇、二七一	四五	二、三六、一〇四	五六	二、八二、一四一	六三	二、四七、三七
北米合衆國	二三九	一、四八七、七二一	二五八	一、五二、九二、九五	三〇五	一、七三三、六九五	二三四	一、三四六、七四〇
露西亞	一	四、一六〇	三	四、九四九、七	六	八、二〇五	一	一三、一八
和蘭	四五	一七六、二四二	五三	一九二、一四六、六	五七	一九七、七五九	五五	一〇〇、五九四
瑞典	一〇	四一、七三五	二三	七八、五一六	一五	五六、〇二五	一四	五二、四七五
諸威	一四	四四、一五七	四七	一三六、一八四	二四	七三、二二九	三二	一〇五、〇一三
丁抹	一四	六七、一三二	三三	二二三、九〇五	一六	六七、四九八	一六	六九、〇六二
獨逸	七二	三〇二、〇一〇	七二	二七六、九六八	四四	一八〇、五九九	二五	九一、四三六
他ノ諸外國	三〇	八六、三三五	七〇	一八七、八五五	一六	九四、五六四	八	一〇、〇七〇
合計	三、五二四	二二、二四〇、三三八	三、五〇八	二二、〇〇六、四四〇	三、三〇八	一一、〇三二、三〇八	三、一九四	一二、六七〇、二

【出港】

船籍	大正十四年 隻數	大正十四年 登簿噸數	大正十三年 隻數	大正十三年 登簿噸數	大正十二年 隻數	大正十二年 登簿噸數	大正十一年 隻數	大正十一年 登簿噸數
日本	二、四二一	六、七七七、六八五	二、三四八	六、六〇八、九九七	二、二八七	五、八六一、〇一一	二、五三	五、五二六、九六一
英吉利	五二四	二、六二五、九二〇	五五三	二、六八四、二四六	四五五	二、二六〇、五二四	四六三	二、〇六七、二五〇
佛蘭西	六〇	三五五、二九八	四六	二三五、六一〇	五七	二九〇、一八九	六一	三三八、三一六
北米合衆國	二三八	一、四七四、一六六	二五五	一、五四一、〇九七	二九三	一、六七六、七二五	二三四	一、三四一、一八二
露西亞	一	四、一六〇	二	三、〇〇四	六	八、二〇五	二	一三、五〇八
和蘭	四五	一七六、二四二	五二	一八七、九一〇	五四	一八九、三八四	五三	一九四、四九二
瑞典	一三	六二、八八六	三三	一三二、四三五	一六	六七、四九八	一七	七二、三三
諸威	一二	四三、一一四	二三	七七、五六三	一四	五三、五四四	一四	一〇六、二五四
丁抹	一三	四〇、六六六	四四	一三三、六四〇	三	六六、六三三	三一	八六、七二
獨逸	七二	三〇一、五三五	六九	二七一、九〇六	四四	一七九、六九二	二三	九五、三〇七
他ノ諸外國	二九	八四、九四六	六八	一八二、〇八六	三八	九五、三〇七	八	一〇、七四八
合計	三、四二六	一二、九四六、六〇八	三、四九二	一二、〇四八、五八四	三、二八六	一〇、七四八、六八一	三、〇六九	九、二〇九、五三二

第六章　貨　物

第一節　外國貿易

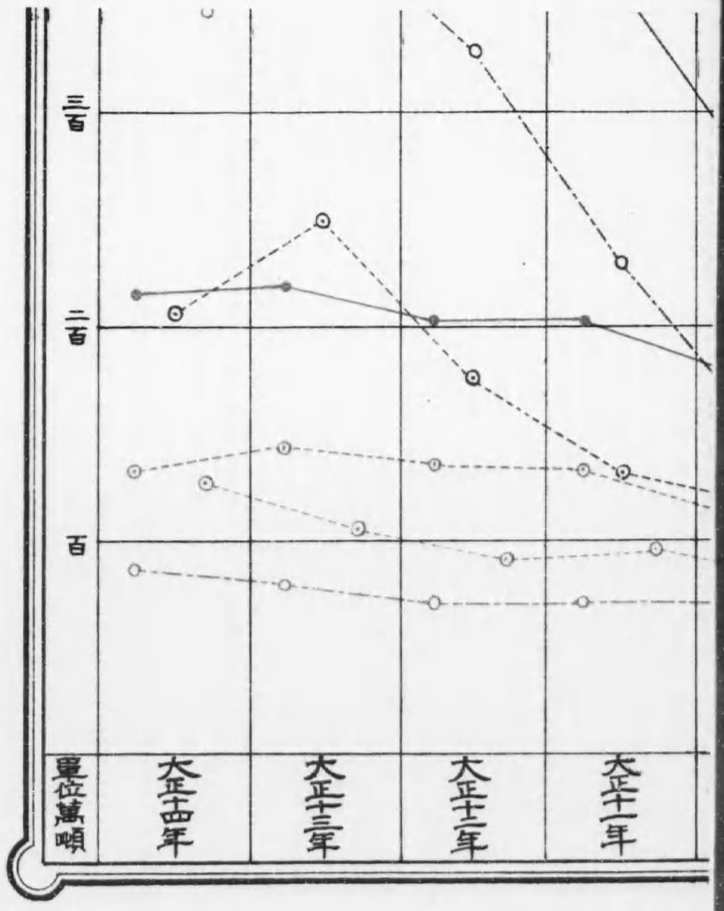
第一欵　外國貿易概觀

十四年本港に於ける外國貿易は空前の盛況を呈したり。即ち輸出、七億壹千五百九拾參萬圓、輸入拾貳億貳千四拾萬圓、輸出入合計拾九億參千六百參拾參萬圓にして、差引五億四百四拾七萬圓の入超なり。之を前年に對比するに、輸出壹億參千五百六拾四萬圓、輸入四千參百參拾六萬圓、輸出入合計壹億七千九百萬圓と云ふ未曾有の增進を示し、差引入超に於て九千貳百貳拾六萬圓の減少にて、本年本港輸出貿易旺盛の跡歷然たり。而して本港の貿易額と全國のそれとの割合を見るに、

		大正十四年	大正十三年	增減
全國	輸出	二、三〇五、五八七千円	一、八〇七、二三三千円	四九八、三五四千円
	輸入	二、五七二、六五三	二、四五三、三九〇	一一九、二六三
	計	四、八七八、二四〇	四、二六〇、六二三	六一七、六一七
神戸	輸出	七一五、九三四	五八〇、二九四	一三五、六四〇
	輸入	一、二二〇、四〇四	一、一七七、〇三九	四三、三六五
	計	一、九三六、三三八	一、七五七、三三三	一七九、〇〇五
全國ニ對スル神戸港ノ輸出入歩合	輸出	〇・三一一	〇・三二一	〇・〇一〇
	輸入	〇・四七四	〇・四八〇	〇・〇〇六
	計	〇・三九七	〇・四一二	〇・〇一五

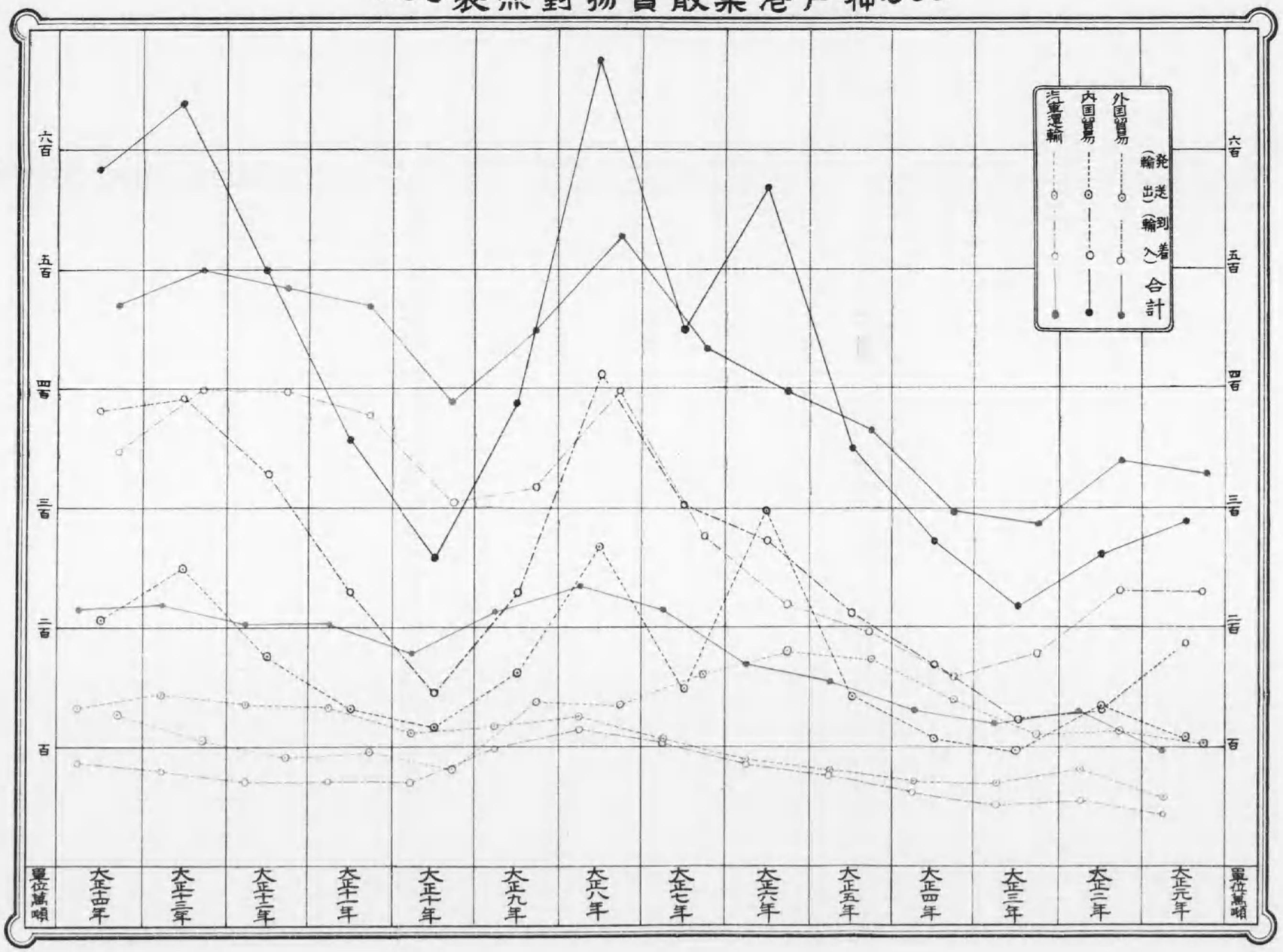
即ち輸出三割一分一厘、輸入四割七分四厘、輸出入合計三割九分七厘に當れり之を前年に比するに輸出一分、輸入六厘輸出入合計一分五厘の減退を示せるが是れ一昨年の震災により横濱港の貿易機能に障害を生じたる爲め、横濱貨物が本港に變更されたるにより、前年本港貿易の割合を增加せしめたるものなり。

顧るに世界の財界は、歐洲大戰直後の反動以來、等しく大打擊を蒙りたるが、歐米の財界は、漸次恢復の氣運に向ひ、殊に前年のドーズ案採擇は、財界を好轉せしめしこと多大にして、今や殆んど戰前の狀態に復せんとする有樣なり。然るに



神戸港集散貨物對照表

噸數上ヨリ見タル



	大正十四年	大正十三年	增減
全國ニ對スル神戸港ノ比合			
全國 輸入	二、三〇五、五八七 (二)	一、八〇七、二三三 (二)	四九八、三五四 (一)
全國 輸出	二、五七二、六五三 (一)	二、四五三、三九〇 (一)	一、九二、二六三 (一)
全國 輸入出計	四、八七八、二四〇 (一)	四、二六〇、六二三 (一)	六一七、六一七 (一)
神戸 輸入	七一五、九三四 (一)	五八〇、二九四 (一)	一三五、六四〇 (一)
神戸 輸出	一、二二〇、四〇四 (一)	一、一七七、〇三九 (一)	四三、三六五 (一)
神戸 輸入出計	一、九三六、三三八 (一)	一、七五七、三三三 (一)	一七九、〇〇五 (一)
神戸港ノ比合 輸入	〇・二一一 (一)	〇・三二一 (一)	〇・〇一〇 (一)
神戸港ノ比合 輸出	〇・四七四 (一)	〇・四八〇 (一)	〇・〇〇六 (一)
神戸港ノ比合 輸入出計	〇・三九七 (一)	〇・四一二 (一)	〇・〇一五 (一)

即ち輸出三割一分一厘輸入四割七分四厘輸出入合計三割九分七厘に當れり之を前年に比するに輸出一分輸入六厘輸出入合計一分五厘の減退を示せるが是れ一昨年の震災により横濱港の貿易機能に障害を生じたる爲め横濱貨物が本港に變更されたるにより前年本港貿易の割合を增加せしめたるものなり。

頼るに世界の財界は歐洲大戰直後の反動以來等しく大打擊を蒙りたるが歐米の財界は漸次恢復の氣運に向ひ殊に前年のドーズ案採擇は財界を好轉せしめしこと多大にして今や殆んど戰前の狀態に復せんとする有樣なり。然るに

我國財界は、十一年漸く恢復の氣運に向ひたるが如きも、十二年の關東震災の爲め復大打擊を蒙りたり。十三年は復興材料等の大輸入を見、爲めに貿易は空前の逆調を呈せり。而して對外爲替は未曾有の崩落を演じ、十三年十月遂に對米爲替は三十八弗二分の一に暴落するに至れり。

爲替の崩落は輸出を促進する所となり、加ふるに米國財界の好況と相俟ちて十四年初來、生絲を始め綿絲、綿織物の輸出を旺盛ならしめたり。輸入にありても棉花、羊毛等を主として、多大の輸入を見たり、殊に棉花の二月、九千參百萬圓、三月八千壹百萬圓の本港輸入は近來稀なるものなり。而も政府は對外信用支持の爲め、一月二十日以降兩度に亘り、壹千萬圓を爲替資金として拂下げ、一方民間事業に於ては、內地金利高により、資金を外國に仰ぎ、莫大なる外資の輸入を見たり。爲めに爲替相場は徐々に恢復し、四月には對米爲替四十一弗二分の一を告ぐるに至り、日英爲替も亦一志八片十六分の十三の昂騰を示せり。五月に入り輸出は益々旺盛を呈したるに反し、輸入は棉花、羊毛等の輸入減が因をなし、五月の本港輸入貿易は四月に比し、參千五百萬圓の減少を見たり。而して本港貿易は上半期參億九千餘萬圓の入超に終れり。前年の同期は復興材の思惑輸入、免

稅期間利用等により莫大なる輸入を見たるが、この入超四億四千四百萬圓に比するに五千四百萬圓の減少なり。由來本港貿易は上半期は輸入の盛況を見、下半期は輸出に轉ずるが常態なれども、本年の如き輸出の旺盛を上半期に見たるは、近來稀なる現象なり。是れ生絲・綿絲布の輸出旺盛なりしが主因をなすものなり。飜つて一時横濱神戸間の大問題たりし、對印輸出紋繻子の補助問題も、五月末圓滿に解決を告げ、本港絹織物輸出の前途は正に祝福されたり。

下半期に入り輸出は益々好調に進み、八月には本港の輸出六千六百萬圓に增進し、年初來のレコードを作れり。九月に入り對外爲替は又もや下向きとなり對米爲替は四十弗二分の一に低落せり。此の時に當り政府は政府保有の內地正貨を必要に應じ海外に現送することゝし、九月二十日東洋汽船春洋丸にて第一回分として四百萬圓を米國に現送せり。之により市場の人氣をも唆り、圓貨の思惑買を助長し、且つ米國財界好況等に基づき、爲替は徐々に恢復し、十月には四十一弗、十一月四十二弗二分の一、十二月四十三弗二分の一と漸次昂騰せり。

思ふに今日我國の爲替關係は對外貿易の如何に左右さるゝことよりも、人爲的在外正貨補充策に影響するものゝ如く、震災前並に直後に爲替變動少なかりしは、在外正貨の連續的拂下に負ふものにして、本年上半期の好轉は、在外正貨拂下の擴張、民間會社の外資輸入、輸出貿易の旺盛等に基因し、此度の好調は正貨現送により生じたる變動なるが如し。

十月に入り輸出は續いて盛況を呈し、輸入は幾分減少したる爲め貳拾萬圓の出超を見たり、由來本港は我國主要の輸入港にて連年入超を持續する所なるが縱令僅に貳拾萬圓とは云へ、出超を見たるは本港貿易史上特筆に値すべき現象なり。是れ則ち前月に比し輸入に於て五百萬圓、輸出に於て壹千萬圓を增加せし爲めにして、生絲・絹織物・綿絲布の輸出增進と、棉花・羊毛・毛織物等の輸入減が然らしめしものなり。飜つて、外にありては多年の懸案たりし歐洲の安全保障問題も、本年に入りて獨逸の提案ありし以來、關係國間に交渉を進めたる上、十月五日より同十七日まで瑞西ロカルノに保障條約會議開催され一段落を告ぐるに至れり。曩には賠償問題がドーズ案によりて一段落を告げ、今又安全保障問題がロカルノ條約により一段落を遂げたるによりて、歐洲財界の前途に益々光明を認むるに至れり。又隣邦支那にありては華府條約に基き釐金稅の廢止、暫定的附加稅の賦課等を議すべき支那關稅制度特別委員會が愈々十月二十六日を

以て北京に開催されることゝなれり、此問題の成行如何によりては、我對支貿易上重要なる地位にある本港の被むる打擊、蓋し輕からざるものあり。而も支那の內亂は最近益々甚しきを加へ、張郭の內爭の如きは一時滿洲を不安に陷れ、遂に我國をして滿洲に增兵をさへ必要とするに至らしめたり。尙上半期の頃、靑島・上海に於ける紡績工場の爭議は排外的暴動と化し、一時上海向貨物の船積を中止さるゝの己むなき狀態に至り、本港對支貿易の受けし波動も輕からざるものありき。露西亞にありては國內の經濟界も亦次第に戰前の狀態に復歸しつゝあるは、一般に認むる所なるが、而も四年に亘る日露交涉も、北京に於ける芳澤カラハン會議により漸く解決し、本年一月二十一日調印を見たるは、對露貿易の前途を慶賀するものなり。本年本港對露貿易は思はしき額には達せざりしも將に往年の活躍を演ずるの秋近きにあらん乎。

轉じて本港と通商國との貿易狀態に就て見るに、輸出にありては北米合衆國の貳億貳千七拾壹萬圓を首位として、支那・英領印度・佛領印度・濠太剌利・香港等の順位たり。輸入にありては之亦北米合衆國の參億五千四百萬圓を第一位とし英領印度之に次ぎ英吉利・獨逸・支那・濠太剌利の順位たり。由是觀之本港と最も重要なる關係にあるは、北米合衆國なるを知る。次に本港貿易品の內容を見れば、輸出に於ける生絲の壹億四千參百萬圓、綿織物の壹億五千六百萬圓、絹織物の七千參百萬圓、綿織絲の貳千貳百萬圓等、概して前年に比し多大の增加を示し、特に生絲及絹織物は關東震災以來本港輸出品の大宗となり、益々增進の勢にあるを知るべし。輸入にありては繰棉の五億九千四百萬圓を筆頭に羊毛の六千六百萬圓、毛絲の四千九百萬圓、米の四千五百萬圓等を主なるものとす。

之を要するに本年の外國貿易は空前の盛況を呈したるが、之れ國內生產力の增加に依ると見るより、米國財界の活況、歐洲財界の恢復、印度・南洋方面に於ける購買力の增進が輸出を促進し、內地物價高、外資輸入等が輸入を誘起したると、一面內地不況に際し、貿易業者が爲替或は海運賃關係を利用して、對外貿易に努力したる等によるものにして、今俄に貿易好轉と斷ずるは早計の譏を免れざる所なり。

第二款　輸出入品價額及數量

大正元年以降本年に至る本港の貿易額を示せば

年次＼區別	輸出 價額	輸出 輸入ト比例	輸入 價額	輸入 輸出ト比例	輸出入合計	輸入超過額
同大正元年	一五〇、七六千円	三六	三〇二、三〇〇千円	六六	四五三、六六千円	一五一、七三四千円
同二年	一七〇、四七〇	三三	三四六、六〇九	六六	五一七、〇七九	一七六、一六九
同三年	一六七、五三三	三四	三六一、九〇〇	六六	五二八、四六三	一九四、四六七
同四年	一九七、五八六	三四	三六九、三六六	五七	五六六、八四二	七一、六二八
同五年	三三一、一〇六	四〇	三七四、〇九九	五〇	七〇六、一一四	三一、九九四
同六年	四七九、七七一	四四	五三〇、九三九	五三	一、〇一〇、七〇〇	五一、二六六
同七年	五九九、六五〇	四九	七六四、三一〇	五一	一、三六四、六六〇	三四四、六六〇
同八年	四四三、二四九	三〇六	一、〇一二、二四三	六三	一、四六六、五一二	五七一、八九四
同九年	五二六、九七七	三一七	一、二七七、五七七	六八	一、八〇四、五五四	七〇六、五六〇
同十年	三二九、一四四	三三〇	七六六、一一〇	七七	九七七、二五四	四三一、九九〇
同十一年	三七七、八三三	三四六	五六六、三五七	七四	一、一三六、一七七	五七六、五五五
同十二年	三五七、二三三	三六三	一、〇〇七、九六六	七六	一、三六五、〇三六	六六四、八〇四
同十三年	五六〇、二九四	三三〇	一、一七七、〇六九	六七〇	一、七七七、三三三	五九六、九五五
同十四年	七二五、九三四	三七〇	一、三一〇、四四四	六四〇	一、九六六、三六八	五〇四、四七〇

即ち本港本年の貿易價額が既往何れの年をも遙かに凌駕せるは一目瞭然たる所にして、荷輸出と輸入との割合は本年輸出三割七分、輸入六割三分にして前年に比し輸出に於て四分の増加を呈せり。是生絲、綿絲、絹布等の輸出増進を主因とす。大正四年乃至七年に至る間の輸出の割合四割以上を示せるは歐洲大戰中の輸出貿易の盛況を語るものに外ならず。今本年の貿易額を各月別に示せば次の如し。

月次＼區別	輸出品價額 十四年	輸出品價額 十三年	輸出品價額 十二年	輸入品價額 十四年	輸入品價額 十三年	輸入品價額 十二年	輸出入超過額 十四年	輸出入超過額 十三年	輸出入超過額 十二年
上半期 一月	三〇、〇九千円	三九、二三九千円	三三、三六六千円	一〇六、六六六千円	一一一、三六八千円	七一、五〇九千円	三七、五七一千円	七二、一四八千円	四八、六四二千円
二月	三三、三三一	三六、三四三	三一、一二九	一六一、九〇一	一三三、九〇一	七七、九〇〇	一〇七、六六〇	一一六、五五〇	四六、三六一
三月	三六、九四四	四三、六六六	三八、一六六	一三六、〇一六	一四一、〇一三	九三、七一四	九九、〇六一	九八、四四六	五七、四四八
四月	三六、三四四	五二、〇八八	三四、六四九	一一九、三三一	一一六、六三一	八一、四四一	六三、〇七七	六四、一四四	三七、六六一
五月	三三、六六六	三五、七六一	三三、三六〇	八五、一九六	一一一、〇七九	八七、六六八	三一、四四一	三五、一八八	三一、〇八八
六月	三三、七四四	四七、三七一	三三、三六六	九三、八一四	八三、三三五	一〇一、六〇九	四〇、〇八一	三五、〇四四	七九、三三四
上半期計	三四四、三七三	三七一、八八七	一四六、四四六	七三六、九九六	七六六、六六九	五一六、八九五	三九一、七〇〇	四四四、四八一	三七〇、三三四
下半期 七月	三六、六六六	四六、七八〇	三三、四九九	七六、九九八	六六、八一七	七八、八一一	一一、四一四	一八、〇六六	三六、三一四
八月	六六、〇四四	三三、四八五	三三、七九六	一〇一、八四四	七三、八一一	七一、四六六	三四、八八〇	三一、三九六	四七、七〇一
九月	六一、九三三	三〇、七〇	二八、六〇四	七七、二六四	六六、四四六	五一、〇六五	一六、二三四	一四、九七四	三三、一四〇
十月	七一、〇八六	三一、二八一	三一、二九七	七一、八一八	七七、九四四	八七、一二六	△一二〇	二一、七一二	三一、九三二
十一月	六六、九六八	三一、七六三	四四、一六二	八八、一六七	八六、一四〇	一〇三、九一二	二四、二二九	四三、〇七七	五九、六六〇
十二月	六三、一四四	三三、三七七	四〇、三三〇	七八、四三〇	八三、一九六	一〇一、七七五	一六、六六六	一九、六六六	六一、八六四
下半期計	三八一、六六一	三〇八、四〇七	二一一、六四六	四九四、四三一	四六〇、六七〇	四九一、〇六七	一一一、七七〇	一四一、一六四	一八〇、四四一
累計	七一五、九四四	六八〇、二九四	三三七、一一一	一、二三〇、四四四	一、一二七、〇三九	一、〇〇七、九六六	二〇四、四七〇	二五六、七四四	六三〇、八一四

元來本港の外國貿易は上半期に原料品の輸入旺盛をきはめ、下半期に製造品輸出活況を呈するを例年のならひなれど、本年は前數述べたるが如き原因により年初來輸出入共異常の盛況をきはめたり。試に本港と他の重要貿易港たる大阪港・横濱港との貿易價額の比較を左に表示せん。

輸出

年次＼區別	全國 輸出品價額	神戸 輸出品價額	神戸 千分比例	大阪 輸出品價額	大阪 千分比例	横濱 輸出品價額	横濱 千分比例
大正元年	五六、九六三	一五〇、四六六	二六六	五四、三三六	一〇九	二五、八三一	四六
同二年	六三、四六〇	一七〇、四七〇	二七〇	七四、四五一	一一六	二二、八二一	四〇一
同三年	六九、一〇一	一六七、五二三	二六三	七四、二四二	一二六	二六、四三二	四六六
同四年	七〇、三〇七	一九七、六八	二九九	九二、三三	一三三	三〇、九五四	四三三
同五年	一、二二七、四六八	二二一、一〇五	二九四	一四一、八〇五	一一六	四七、九六三	四四一
同六年	一、六〇三、〇〇五	四九、七二一	二九九	二五、三一七	一九八	六七、〇六五	四一六
同七年	一、九六二、一〇一	五二、三六〇	二五五	四〇、八三五	一一〇	八六、九六〇	四一六
同八年	二、〇九八、八七三	四四二、二四九	二二一	四二、八三七	一一〇	一、〇一九、三一〇	四六六
同九年	一、九四八、三九五	五二、八九七	二六六	四七、〇〇七	一四一	七六六、一六四	五六三
同十年	一、三三二、八三八	二二九、一四	一八三	二九、〇〇六	一三三	八〇二、九九二	四一
同十一年	一、六四七、四五二	二二九、八二二	一七一	二九、七七七	一九七	八九、四六四	四五四
同十二年	一、四七七、七九	二三七、一一二	二四七	二五、七七〇	一〇五	六六、六一一	四二一

輸入

年次＼區別	全國 輸入品價額	神戸 輸入品價額	神戸 千分比例	大阪 輸入品價額	大阪 千分比例	横濱 輸入品價額	横濱 千分比例
大正元年	六一八、九六二千圓	三〇二、一〇〇千圓	四八八	二六、六六三千圓	四三	二二五、三七〇千圓	三四八
同二年	七二、九四二	三六六、六〇九	四七六	四一、六六六	五七	二二六、一〇二	三〇二
同三年	九九、七六六	二六一、九六〇	四七三	四一、四〇六	七〇	一七八、七六一	三〇〇
同四年	九三、四五〇	二六九、二二六	四〇六	四〇、六二一	九五	一四〇、三四一	三六四
同五年	七六、四一八	三四、〇九九	四九五	八一、九八一	一〇八	一一〇、七二八	三七七
同六年	一、〇三五、八二一	三一〇、九九	三一三	九三、六四三	九〇	一八七、一六八	三七七
同七年	一、六六八、一四三	七四、三一〇	四四〇	一三七、六五八	八二	三一八、六九九	三一一
同八年	二、一七三、四六〇	一、〇一六、一四二	四六七	一六七、六七一	七七	六八九、四二一	三一七
同九年	二、三三六、一七五	一、一二七、七七五	四八三	一八五、七七七	八〇	七一〇、〇四五	三〇五
同十年	一、八一四、一三五	七六八、一一〇	四七六	一一八、八九四	七四	五一〇、二〇一	三二一
同十一年	一、八九〇、三〇八	八五六、三五七	四五三	一二八、七九四	八六	六六六、一六四	三四五
同十二年	一、九七四、〇六六	一、〇〇七、九六六	五〇七	一七七、一七五	九九	五一五、一五九	三五九
同十三年	二、四五三、五九〇	一、一七七、〇九九	四八〇	二二二、一四四	一一一	六三五、八四九	三五九
同十四年	二、五七二、六三三	一、二一〇、四〇四	四七四	二〇六、三六八	一一九	六一〇、二九四	三四一
平均			四八三		一八六		三六四

即ち我國輸出貿易の約平均半數は横濱港の占むる所たり、而して本年の輸出貿易にありては全國輸出額に對し、横濱三割九分一厘、本港三割一分一厘、大阪港二割一分七厘にして前年に比し、本港一分、大阪港六厘の減退を見たるも、横濱港一分九厘の增進を呈せり。横濱港の增進の理由は方に我國輸出品の大宗生絲の輸出が八割以上含まれ、而も本年我國生絲輸出額が八億八千萬圓と云ふ巨額に上りたるが爲なり。轉じて輸入にありては從來本港が平均に於て全國輸入貿易の半を占めたるも、本年は全國輸入額に對し、本港四割七分四厘、横濱港二割四分一厘、大阪港一割一分九厘にして前年に比し、横濱港一分八厘、本港六厘の減退たるも大阪港八厘の增進たり。由來本港は仲繼港にして輸入貨物の八割以上は、大阪を首め他の工業都市に輸送さるゝ狀態なるに、大阪港は近年鋭意港灣設備の改善に努め、一方海運界の不況は船舶業者をして荷主の希望に從ひ直接消費都市の港灣に船舶を轉航せしむる狀態なれば、本市生產工業の發展を期すると共に港灣設備完成の急務なるは言を俟たざるなり。

次に輸出入貨物數量に就き述べんに、本年輸出百二十三萬五千十九噸、輸入三百四十四萬八千七百十九噸、輸出入合計四百六十八萬三千七百三十八噸にして前年に比し、輸出に於て二十一萬五千二百三十四噸を增したるも、輸入に於て五十一萬六千二百七十五噸を減じたるを以て輸出入合計三十萬一千四十一噸の減量なり。今大正元年以降の本港輸出入數量を左に揭げん

年次＼區別	輸出貨物	輸入貨物	計
大正元年	一、〇〇五、一七九噸	二、二八〇、八〇一噸	三、二八五、九八〇噸
同二年	一、一一〇、二八六	二、二八二、八三〇	三、三九三、一一六
同三年	一、〇九〇、九八八	一、七五九、四三八	二、八五〇、四二六
同四年	一、三八〇、八六六	一、五六八、七二二	二、九四九、五八八
同五年	一、七一〇、一三八	一、九四一、九九二	三、六五二、一三〇
同六年	一、七七七、三六五	二、一八四、五〇五	三、九六一、八七〇
同七年	一、五八七、四四二	二、七四一、一八四	四、三二八、六二六
同八年	一、三二二、四〇〇	三、九五三、五九〇	五、二七五、九九〇
同九年	一、三四三、〇三五	三、一四二、九七八	四、四八六、〇一三
同十年	七九九、八一二	三、〇六三、七七五	三、八六三、五八七
同十一年	九二六、七三六	三、七四七、八九七	四、六七四、六三三
同十二年	八七五、二三二	三、九四二、八四二	四、八一八、〇七四
同十三年	一、〇一九、七八五	三、九六四、九九四	四、九八四、七七九
同十四年	一、二三五、〇一九	三、四四八、七一九	四、六八三、七三八

價額に於ては既往何れの年をも遙かに凌駕し乍ら數量に於ては然らず、こは

物價の昂騰と高價品の輸出入を見るとによるものなり。今大正十年以降の本港輸出入品の一噸當り價額を示すに年々昂騰しつゝあるを知るべし。

區別 / 年次	輸出 數量	輸出 價額	輸出 一噸當り價格	輸入 數量	輸入 價額	輸入 一噸當り價格
	千噸	千圓	圓	千噸	千圓	圓
大正十年	八〇〇	二二九、一四四	三六一	三、〇六四	七八、一〇九	二五一
同十一年	九二七	二七九、八二三	三〇二	三、七四八	八五六、三五七	二三八
同十二年	八七五	三五七、一二三	四〇八	三、九四三	一、〇〇七、九二六	二五六
同十三年	一、〇二〇	五八〇、二九四	五六九	三、九六五	一、一二七、〇六九	二九七
同十四年	一、三三五	七一五、九三四	五八〇	三、四四九	一、二二〇、四〇四	三五三

尙本年各月別輸出入數量と前年のそれとを對記すれば左の如し。

區別 / 月次	輸出貨物 十四年	輸出貨物 十三年	輸出貨物 十二年	輸入貨物 十四年	輸入貨物 十三年	輸入貨物 十二年	輸出入貨物計 十四年	輸出入貨物計 十三年	輸出入貨物計 十二年
	噸	噸	噸	噸	噸	噸			
一月	七七、二九〇	六七、五八六	六二、八七七	二八〇、〇八五	四〇七、五六六	二二五九、九〇二	三五七、三七九	四三二、〇三六	二二五、〇二三
二月	八七、七二三	七二、五一四	六八、五一一	二〇一、四六四	四二七、〇四七	二六六、八三二	三七三、六八八	四七七、一二九四	二八九、一二六
三月	一〇三、三八三	七九、二九四	八二、三六一	二七二、九一六	五〇〇、九八六	三〇七、一五六	四七六、二二九	五八一、三四〇	三八一、二二四
四月	一〇〇、一一三	九五、二三〇	七三、三八七	三四二、五四八	四八八、七九三	三二七、一六七	四四二、六六〇	五七四、五七三	四六七、七三三
五月	九九、〇二四	九八、三九九	六九、三〇九	三二三、〇二三	三六九、三三四	三二七、八〇八	四三二、〇三六	四六七、七三三	四四五、一一七
六月	八九、三六〇	八三、三七八	六六、四一七	二八四、一二八	二八九、九三六	三〇〇、七〇六	三七三、六八八	三七三、一二三	四三三、一一三
上半期計	五五七、一四一	四九六、六二二	四二二、八六三	一、九二四、一五三	二、四八三、六五一	一、九四七、二九四	二、四七一、二九四	二、九八〇、二七三	二、三三〇、四五四
七月	九〇、二八七	七八、八四一	六三、二二四	二六七、八一五	二七二、二六九	二九一、二七六	三五八、一〇二	三五一、一一〇	三五四、四九〇
八月	九九、七七六	八〇、二六七	六五、五二八	二一二、四、六五五	一九六、七〇七	二八八、四九三	二一四、四三一	二七六、九七四	三五四、〇二一
九月	八六、五八六	七四、一六七	六七、九三五	二二五、三三	一九九、九六九	二七九、三二	二二三、九一八	二七四、一三六	三四七、一六六
十月	一三六、八五三	八五、一三八	八二、七一三	二五一、九四四	二七〇、〇九六	二六九、一〇四	三八八、七九六	三五五、二三四	四五一、八一七
十一月	一二八、一五四	九九、六一六	八八、九八一	二八一、四八六	二二三、二七九	二六七、六五八	四一七、六五八	四〇九、六四〇	三三三、八九五
十二月	一三六、一三三	一〇五、一三五	八三、九九九	二八三、三三四	三〇九、〇二三	二八八、四八八	三八九、四八八	四一九、五五七	四一四、一五八
下半期計	六七七、八六八	五三三、一六四	四五二、三七〇	一、四八一、三四三	二、〇三五、二五〇	二、二二二、四四四	二、二二二、四四四	二、〇〇四、五〇七	二、四八七、〇七〇
累計	一、二三五、〇一九	一、〇一九、七八五	八七五、二三二	三、四四八、七一九	三、九六四、九九四	三、九二二、八四三	四、六八三、七三八	四、九八四、七二九	四、八一八、〇七四

第三款　輸出入品の變遷

本年本港に於ける輸出入品を類別するに、輸出にありては全製品參億七千七拾八萬圓、原料用製品貳億壹千四百七拾八萬圓、原料品六千八百拾六萬圓、食料品五千貳拾四萬圓、雜品壹千壹百九拾五萬圓にして、前年に比し原料用製品六千五百六拾五萬圓、全製品貳千九百七拾參萬圓、原料品貳千貳百九拾六萬圓、食料品壹千參百五拾壹萬圓、雜品參百七拾六萬圓を何れも增加せり。輸入にありては原料品七億九千四百七萬圓、原料用製品壹億六千六百六萬圓、全製品壹億四千壹百

六拾六萬圓、食料品壹億壹千六百貳拾萬圓、雜品貳百四拾萬圓にして、前年に比し原料品壹億九千六百參拾萬圓、食料品五百參萬圓を增加せるも、全製品八千貳拾壹萬圓、原料用製品七千六百萬圓、雜品壹百七拾五萬圓を減少せり。今大正元年以降同十四年迄の輸出入品價額を大別すれば左表の如し。

輸出

年次＼區別	食料粗生品 價額	食料粗生品 歩合	食料製品 價額	食料製品 歩合	小計 價額	小計 歩合	原料品 價額	原料品 歩合	原料用製品 價額	原料用製品 歩合	全製品 價額	全製品 歩合	雜品 價額	雜品 歩合	計 價額	計 歩合
	千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円	
大正元年	一〇、六八一	七一	七、二六四	四八	一七、九四五	一一九	四、六四六	三一	六八、四九一	四五五	五七、八四六	三八四	一、五四八	一一	一五〇、四七六	一、〇〇〇
大正二年	一一、四二三	六七	七、〇二八	四一	一八、四五一	一〇八	五、二八七	三二	七七、一七三	四五三	六七、五六八	三九六	一、九九二	一二	一七〇、四七〇	一、〇〇〇
大正三年	一二、四〇五	七四	六、九五〇	四一	一九、三五五	一二五	五、一一四	三〇	七七、三七六	四六二	六三、三九五	三七九	二、二八三	一四	一六七、五三三	一、〇〇〇
大正四年	一八、二七四	九三	一〇、六七五	五四	二八、九四九	一四七	七、九二五	四〇	七七、一三一	三九〇	八〇、九二〇	四〇九	二、六七四	一四	一九七、五九八	一、〇〇〇
大正五年	二一、六五四	六五	一六、二六一	四九	三七、九一五	一一四	二二、六二四	三五	二二、三七三	四六	一四八、七六五	四四九	一、七〇一	一〇	二〇、〇一一	一、〇〇〇
大正六年	二八、〇八八	五九	二三、〇八八	七〇	六一、七〇六	二〇九	二二、九二八	四六	一七二、三七三	四〇〇	二二、九〇一	四〇〇	二、一八九	一四	二四、九四六	一、〇〇〇
大正七年	四〇、四六三	七五	三六、一九一	六七	七六、六五三	二四〇	二五、八四二	四八	一七六、四七七	三二七	二四、九四六	四六二	二〇、八二四	二一	二二、〇〇〇	一、〇〇〇
大正八年	二七、七八八	六三	二三、八〇六	五三	五一、五九四	一一六	二二、〇五二	五八	二一六、〇五九	二三〇	二三、二六八	五三三	二、三四二	一四	二七、四二六	一、〇〇〇
大正九年	二一、〇五二	四一	二四、三〇八	四六	四五、三五九	八七	一一、〇七七	三〇	一二三、七五七	二二一	三〇九、七四二	五九七	一、〇〇〇	二	三一、〇〇〇	一、〇〇〇
大正十年	二四、〇〇九	五四	二三、〇九九	五七	四七、〇〇六	九二	一〇、八一一	四八	一〇、八一一	一九	一〇、八一一	一九	一、〇〇〇	二	一二、〇〇〇	一、〇〇〇
大正十一年	二一、七四〇	五三	二一、七四〇	四一	四二、五四〇	八四	二、六八三	五八	九九、五九五	二一三	九九、五九五	二一三	二、〇〇〇	二	一〇二、五九五	一、〇〇〇
大正十二年	二〇、〇九一	四八	一〇、〇九一	二九	三〇、一八二	六三	二、〇〇〇	四	一〇〇、一八二	二一三	一〇〇、一八二	二一三	二、〇〇〇	二	一〇二、一八二	一、〇〇〇
大正十三年	二九、五五六	三四	二六、一七七	二九	五六、七三三	一一七	二四、九五四	五〇	八一、六八七	一七〇	八一、六八七	一七〇	一、〇〇〇	一	八二、六八七	一、〇〇〇
大正十四年	二六、二六七	三七	二三、九七九	三三	五〇、二四六	七〇	二四、〇五二	五〇	七四、〇九八	一五四	七四、〇九八	一五四	一、〇〇〇	一	七五、〇九八	一、〇〇〇

輸入

年次＼區別	食料粗生品 價額	食料粗生品 歩合	食料製品 價額	食料製品 歩合	小計 價額	小計 歩合	原料品 價額	原料品 歩合	原料用製品 價額	原料用製品 歩合	全製品 價額	全製品 歩合	雜品 價額	雜品 歩合	計 價額	計 歩合
	千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円	
大正元年	一七、五七七	五八	三、七一七	一一	二一、二九四	七〇	一七五、一〇七	五八〇	五八、四八二	一九四	二四六、二九七	一五三	一、〇二〇	三	三〇二、二〇〇	一、〇〇〇
大正二年	二八、二七〇	八二	五、〇一七	一四	三三、二八六	九六	二〇四、三三四	五九〇	五五、〇一七	一六五	二四九、八五三	一四四	一、四〇九	四	二八〇、九六〇	一、〇〇〇
大正三年	一七、六六九	六二	三、五三四	一一	二一、二〇三	七五	一九七、七五四	六三七	六二、〇七七	一七〇	二一〇、〇七八	一二八	一、五八四	六	二二〇、七〇三	一、〇〇〇
大正四年	八、五一八	三二	二、二〇〇	八	一〇、七一八	四〇	一九三、七五四	六〇	四六、〇九九	一七一	二〇九、二九一	六四	一、三五四	五	二二〇、〇八七	一、〇〇〇
大正五年	六、四七三	一八	一、五六八	四	八、〇四一	二二	二五二、八五三	六七六	四〇、二九九	一七一	二八九、四七一	七六	三、四四二	一四	二二二、〇四一	一、〇〇〇
大正六年	七、七七四	一三	四、一一八	九	一一、八九三	二二	三三六、三〇三	八九〇	一五一、〇三〇	二八四	三九〇、〇三〇	七四	二、六五三	五	三九〇、〇三〇	一、〇〇〇
大正七年	四七、二四二	五九	一〇、一六六	一四	五七、四四〇	七四	二〇七、一四五	五八一	二〇、七五七	二六四	二〇、七五七	二六四	二、八三五	五	二〇、七五七	一、〇〇〇
大正八年	八四、三八四	八三	二〇、七四七	二〇	一〇五、一三二	一〇三	五八七、九八〇	五八〇	二二七、三一〇	二二三	二二七、三一〇	二二三	二、四四四	四	二二九、七五四	一、〇〇〇
大正九年	四六、六〇九	四一	一九、一二三	一七	六五、七三三	六四	二二、八四一	五八〇	二二、一二六	二二〇	二二、一二六	二二〇	二、〇〇〇	二	二二、一二六	一、〇〇〇
大正十年	三八、七六三	五〇	三〇、九二一	二八	五九、六八四	七七	二〇、七七七	五八	四一、八二九	二〇八	四一、八二九	二〇八	二、〇〇〇	二	四三、八二九	一、〇〇〇
大正十一年	六二、二八五	七三	二、九一、七一九	二三	八二、〇〇四	九六	四八、二二九	四六	一九、一二三	一四〇	一九、一二三	一四〇	二、〇〇〇	二	二一、一二三	一、〇〇〇
大正十二年	六一、三二一	六二	二、三二、八六二	二三	八四、一七三	八三	五三、一三〇	五九〇	一七七、一二一	一四八	一七七、一二一	一四八	二、〇〇〇	二	一九七、一二一	一、〇〇〇
大正十三年	八六、五〇九	七三	二四、六六〇	二一	一一一、一六九	九四	七九四、〇七九	六五二	五九七、七一〇	五八〇	五九七、七一〇	五八〇	二、〇〇〇	二	二〇〇、七一〇	一、〇〇〇
大正十四年	九〇、九七四	七四	二三、二二六	二一	一一八、二〇〇	九五	七九四、〇七九	六五二	二二四、七八二	三〇〇	二二四、七八二	三〇〇	二、〇〇〇	二	二二六、七八二	一、〇〇〇

右表により之が割合を見るに、本年の輸出にありては其總額の五割一分八厘を全製品とし、原料用製品三割、原料品九分五厘、食料品七分の割合なり。輸入にありては、其總額の六割五分一厘を原料品とし、原料用製品一割三分六厘、全製品一割一分六厘、食料品九分五厘とす。即ち輸出の大半を全製品とし、輸入の過半は原料之を占む。蓋し我國の如き天然資源に乏しく剩へ產業立國を以て國是とし、生產工業の勃興益々盛んなるに於ては正に當然の情勢なるべしと雖も、其の輸出工業品は主に生絲・絹織物・綿絲・綿織物の如き纖維工業品に限られ、未だ以て他の工業品輸出の活況を見ざるは、我國產業發達の趨勢日尙淺き所以にして歐米先進國に比し甚だ見劣りするを遺憾とすべし。

次に本年本港に於ける重要輸出品の價額を揭げ、前年のそれに對照するに左の如し。

重要輸出品價額表

類別	品名	十四年	十三年	十二年	十四年ヲ十三年ニ比シ增減
		千円	千円	千円	千円
食料品	米	三、〇四二	四、九〇	三、三七	一、二二二
	豆類	一、三二七	一、三三七	二、四〇八	二、五五三
	料粗生品				
	昆布	一、二五三	一、二二八	一、七七〇	三五
	鰹	三、七四八	四、九五九	三、六四九	一、二二二
	貝柱	一、二七八	一、三二五	八六四	三七
	玉葱	九二八	六四三	六八八	四六五
	密柑	一、四六五	九四九	一、一六七	五一六
	椎茸	二、二三八	二、〇四三	一、二〇二	一五五
	食料製品				
	小麥粉	三、五九〇	二九三	六一七	三、二九七
	麥製茶	三一〇	三七九	一六五	六九
	寒天	五、三〇四	四、〇〇七	三、〇〇一	一、二九七
	精糖	七、九四一	五、三二七	一、二七四	二、六一四
	罐詰食物	二、三二五	二、七二〇	一、四四〇	四〇五
	清酒	一、九一二	二、〇二九	一、九五一	一二七
	麥酒	二八七	二四九	三〇六	三八
食料原品	絹織物	四、二九七	三、三四五	一、九五一	九五二
	絹糸	二、九二一	八、一三三	二、二三八	五、三〇三
	絹屑	一二九	四三	一一六	八六
	綿屑	四四五七	四四七	一四八	一〇
	綿糸	八三一	八一五	八一三	六
	鑛石類	五、四一五	二、〇三二	一、五七九	三、三八三
	竹材	八六三	九五三	三三六	九〇
	絲瓜				
	箱板及木材料				
	肥料				
	薄荷油	四、七九三	二、三五三	八一一	二、四五〇

品名	原料
セルロイド製品	鹽酸
マッチ軸木	ニトロ加染料
麻糸	薄荷
麥稈真田	樟脳
經木	木蠟
條板	魚油
竿	鯨油
銅	及び
黄	子
眞綿糸	
紡績糸	
生絲	
絹紡糸	
綿糸	
綿織物	
綿ベルト	
綿浴巾	
綿ケット	
他綿織物	
綿布	
天竺綿	
晒金巾	
生巾及生金巾	
縞木綿	
綾木綿（細綾共）	
他綿織物	
縞ノネル	
縞織物	
縞子	

品名	原料
板紙	石鹸
印刷	羽二重
鉛筆	燐寸
帽子	絹布
硝子製品	新聞紙
櫛（セルロイド）	重箱
手巾	寸法
綿袋	鹽
靴足袋	酸
綿メリヤス肌着	硝
絹糸	子
綿糸	硫
綿ベルト	黄
綿浴巾	燐
綿ケット	鹽
他綿織物	酸
綿布	加
天竺綿	里
晒金巾	鹽
生巾及生金巾	鹽
縞木綿	蠟
綾木綿（細綾共）	油
他綿織物	油
縞ノネル	
縞織物	
縞子	

品				
包裝用紙	六六二	四二三	五八六	(十) 二、六九
陶磁器	六、七八四	五、四九二	四、六四二	(十) 一、二九二
琺瑯鐵器	四、二八六	三、四二〇	二、九三二	(十) 八六六
地氈	三、六四五	三、四九八	四、三二六	(十) 一四七
ゴムタイヤー	九、二九二	三、一三八	三、八四五	(十) 六、一五四
花莚	一、四九六	一、〇二二	一、二六六	(十) 四七五
竹製品	一、四六三	一、二六一	九七三	(十) 二〇二
洋傘	一、七五一	一、五二三	四八七	(十) 三三八
ブラシ	五、三二五	五、〇三九	六、六三八	(十) 二八六
ランプ及同部分品	一、六四〇	一、〇五七	一、〇六四	(十) 五八二
木製品	三、五一九	二、八〇七	二、九三四	(十) 七二二
扇子及團扇	六二八	六九一	八三六	(一) 六三
氈具	四、〇一五	三、七八七	二、五七九	(十) 二三八
船舶	二	一四	二〇	(一) 二
諸機械	二、五一二	二、二二七	一、六〇九	(十) 二八五
硝子製品	七、七二七	五、一〇〇	三、五六八	(十) 二、五三七
眞鍮製品	六三〇	五九〇	五三六	(十) 四〇
雜品 除虫菊及殺虫粉	五、八五三	三、八七二	二、四二六	(十) 一、九八二

即ち輸出品中の大宗は生絲の壹億四千參百七拾四萬圓にして、本港輸出品額の二割に當れり。生金巾及生シーチングの參千七百拾五萬圓之に次ぎ、參千貳百參拾八萬圓の綾木綿、貳千五百拾四萬圓の富士絹等相亞ぐ。之を前年に比せば顯著なる增加にして生絲の五千五百貳拾七萬圓を筆頭として、綾木綿の壹千八拾七萬圓、他の綿織物の壹千四拾六萬圓、ゴムタイヤーの六百拾五萬圓、綿メリヤス肌衣の四百六拾貳萬圓等を揭げ得べく、之に反し減少したるは羽二重の參千五拾四萬圓、絹屑物五百參拾萬圓、富士絹の貳百九拾四萬圓、繻子の貳百四拾六萬圓等を主なるものとす。從來横濱港は生絲の唯一の輸出港たりしも、遂に一昨年の震災によりて其貿易機能に障害を生じたるを以て、當港より之を輸出するに至り、昨年八千八百萬圓なりしものが本年は壹億四千參百萬圓と云ふ莫大なる額に達し、本港輸出品中の主要の地位を占む。然し之を全國輸出總額八億八千萬圓に比する時は、僅に一割六分に過ぎざるを以て目下擴張中の生絲檢査所の完成と相俟ちて前途益々發展の餘地大なるものあるべし。絹織物の輸出は從來極めて少額に過ぎざりしが、是亦一昨年より俄に激增して昨年壹億壹千壹百萬圓に昂進し全國輸出總額の九割を占むるの盛況を呈せり。然るに本年の本港輸出額は七千四百萬圓にして、昨年より參千七百萬圓の減少を呈し、全國輸出總額の六割三分に當り、又全國輸出額も前年に比し八百萬圓の減少なるが是、海外市場に於て、伊太利佛蘭西品の及ぼせし影響大なるが如し。而して本港

輸出額の全國に對する割合減退せるは、横濱復興會等の運動による打擊あるを見逃すべからず。更に年初對印輸出絹物補助問題も起りたれど五月末圓滿に解決を見たるは本港絹物貿易の爲め前途を祝福すべきなり。然るに本年七月より英國に絹物關税實施されたるは注目に値すべし。今絹織物及生絲の全國、本港輸出額(神戸税關にて輸出手續の分)及其割合を示せば左の如し。

絹織物

年次	全國	神戸	割合
大正十年	八五、二〇七千円	五、四八〇千円	〇、〇六四千円
同十一年	一〇五、〇六九	八、四五六	〇、〇八〇
同十二年	九二、三六九	三四、三六二	〇、三七二
同十三年	一二五、八四五	一一一、七四九	〇、八八八
同十四年	一一六、九八四	七四、五一四	〇、六三七

生絲

年次	全國	神戸	割合
大正十二年	五六八、三七〇千円	三二、九一三千円	〇、〇五八
同十三年	六八五、三五八	八八、四六六	〇、一二九
同十四年	八八〇、七四〇	一四三、七四一	〇、一六三

轉じて、本年本港に於ける重要輸入品の價額を掲げ、前年のそれに對照するに左の如し。

重要輸入品價額表

類別	品名	十四年	十三年	十二年	十四年ヲ十三年ニ比シ增減
食料品	米	四五、五〇八千円	三〇、〇五一千円	一六、四〇八千円	(十) 一五、四五七千円
	小麥	一五、四九二	一八、九四〇	一四、二六八	(一) 三、四四八
	大豆	七、七五九	六、二九一	七、一七四	(十) 一、四六八
	他ノ豆類	八、五九九	七、五九二	六、一三三	(十) 九六七
生粗料品	高粱	六八五	一、〇八八	七六六	(一) 四〇三
	生鳥卵	五、五三三	六、一〇三	八、一〇五	(一) 六七〇
	生鳥獸肉	二、〇二四	二、九二三	三、九二三	(一) 八九九
	生果乾果類	二四〇	一、〇六二	一、一七九	(一) 八二三
同製造品	砂糖	一七、七二二	二二、五七六	六、八六五	(十) 五、一二六
	煉乳	二、〇二三	三、五六一	四、七六四	(一) 一、五四八
	小麥粉	六九	二三二	九九	(一) 一六三

| 品目 | | 原料 | | |

錫塊	三、二三二	三、九三二	三、〇六一	(一)	六九九
亞鉛塊	一、一四八	二、七五九	五、六四三	(一)	一、六一一
同板	一、二二一	九〇四	九二二	(十)	三七二
銅塊	—	九一〇	一、二六六	(一)	九一〇
屑及故鐵	六四二	五九九	六二六	(十)	四三
アルミニウム塊	三、八八一	二、二四四	一、七五三	(一)	一、六二七
ニッケル塊	三〇七	九四九	三九二	(十)	六四一
レール	一、六一〇	五、二五四	一、〇一七	(一)	三、六四四
全製品					
石油	一、二一〇七	二、二二七	二、二八〇	(一)	一、〇四〇
晒金巾	八〇七	一、〇四〇	六七七	(一)	二五三
生綿天鵞絨	四七七	七七九	八二八	(一)	三〇二
帆布	六八二	五二〇	六九七	(十)	一六二
綿縮子傘地	一、二四六	一、六九〇	五二三	(一)	四〇四
羅紗	三三、一三七	三八、三七二	二七、二六一	(一)	五、三三五
紙類	六、九九三	一三、〇四五	九、七三二	(一)	六、四五二
貴石	四〇	九三六	一、四五八	(一)	八九六
硝子板	二、九〇二	六、〇七四	五、六二八	(一)	三、一七二
懐中時計	九八八	二、一四四	五〇二	(一)	一、一五六
機械類	三七、一四四	六三、一四八九	六四、六〇二	(一)	二六、三四五
寫眞用乾板	五七五	五九九	五四二	(十)	一六
鐵釘	四一	三、二三八	二、三三四	(一)	三、一九七

即ち本年輸入品中の巨頭は繰綿の五億九千四百拾七萬圓にして、本港輸入品

總額の四割九分を占め、前年の三割七分に比し一割二分の増進なり。之に次ぐは羊毛の六千六百七拾參萬圓、毛糸の四千九百參拾貳萬圓、米の四千五百五拾萬圓、生護謨の貳千六百七拾六萬圓、油粕の貳千壹百七拾六萬圓、硫酸安母尼亞の貳千萬圓等なり。次に本年輸入品中著しく價額の増加せるものは、同じく繰綿の壹億七千壹百七拾壹萬圓を筆頭に米の壹千五百四拾五萬圓、羊毛の壹千四百參拾九萬圓、生護謨の九百九拾七萬圓、砂糖の五百拾參萬圓、硫酸安母尼亞の四百九拾六萬圓等を主たるものとす。反之減少せしものに鐵板の貳千九百八拾六萬圓、機械類の貳千六百參拾四萬圓、鐵條竿アングル形の壹千壹百八萬圓、アニリン染料の六百七拾五萬圓、紙類の六百四拾五萬圓、羅紗の五百貳拾參萬圓、木材及板の四百貳拾九萬圓等を數ふべし。繰綿輸入の激増は海外市場に於ける相場の低下と一面紡績業者が綿製品輸出旺盛に連れ、買進み盛んなりしに因る。羊毛の輸入増は毛糸の輸入減より明かなる如く内地に於ける毛糸工業勃興を示すものと謂ひ得べく、又外米の輸入増加は昨年内地作減を告げたる折柄政府は關税を免除し輸入を奬勵したる爲なり。木材及鐵材は共に復興材料として昨年多量の輸入を見たるも、内地需要之に伴はざるに因る。

尙、金銀貨及同地金の輸出入狀況に就て一言せんに、政府は大正六年以來金銀貨同地金輸出を禁止したるも漸く本年末銀地金のみ輸出を解禁するに至りしが、未だ金貨及金地金の輸出解禁なし。今本年及既往兩年の價額表を記するに左の如し。

種類＼年次	十四年	十三年	十二年	十四年ヲ十三年ニ比シ增減
輸出 金貨及金地金	千円 三			(十) 千円 三
輸出 銀貨及銀地金	一			一
輸出 計	三	一	一	三
輸入 金貨及金地金	一	一	一	(十) 千円 一
輸入 銀貨及銀地金	四四	三、九一一	一七	(一) 三、八六七
輸入 計	四五	三、九一一	一七	(一) 三、八六六

第四款　通商國の變遷

本港の本年に於ける通商國別による輸出入品價額を見るに、輸出にありては北米合衆國の貳億貳千萬圓を首位として、本港輸出品價額の三割を占め、之に次ぐは九千壹百萬圓の支那、六千九百萬圓の英領印度、參千八百萬圓の蘭領印度、參千五百萬圓の濠太剌利及香港、參千四百萬圓の英吉利の順位たり。輸入にありても同しく北米合衆國の參億五千四百萬圓を筆頭として、本港輸入總額の三割に當り、之に次ぐを英領印度の參億貳千七百萬圓、英吉利の壹億貳千萬圓、獨逸の六千八百萬圓、支那の六千五百萬圓、濠太剌利の六千貳百萬圓等の順位とす。前年に比し特に增加の著しきものは、先づ輸出に於て北米合衆國の六千參百萬圓、支那の參千參百萬圓、海峽殖民地の壹千四百萬圓、英領印度の壹千壹百萬圓、蘭領印度の壹千萬圓、關東洲の九百萬圓等にして、輸入に於ては英領印度の九千七百萬圓、北米合衆國の貳千七百萬圓、濠太剌利の八百萬圓、佛領印度の六百萬圓、埃及の五百萬圓、海峽殖民地の四百萬圓等なり。反之減少せしものは輸出に、英吉利の八百萬圓、佛蘭西の五百萬圓、埃及の貳百萬圓等にして、輸入には英吉利の六千四百萬圓、獨逸の貳千貳百萬圓、白耳義の壹千貳百萬圓、瑞西の貳百萬圓等其の主なるものなり。惟ふに本年通商國との關係に變動をあたへたる主因は生絲、綿絲布等の輸出增進、棉花の輸入增加、鐵類、毛織物、毛絲、機械類等の輸入減等を掲げ得べし。而も本年南洋各地に輸出の盛況を見たるは、農產物の豐作、護謨價の昂騰等により購買力を增進せるに因る。蠶つて通商國關係を大陸別に見れば、輸出は亞細亞洲參億貳千參百萬圓、北亞米利加洲貳億參千七百萬圓、歐羅巴洲六千

七百萬圓、阿弗利加洲、貳千九百萬圓、南亞米利加洲、壹千貳百萬圓、歐羅巴洲、貳億四千輸出入共本港と最密接なる關係にあるを察すべし。今之を細別せば左の如し

亞細亞洲五億壹千四百萬圓、北亞米利加洲參億六千八百萬圓等にして、輸入は四百萬圓、阿弗利加洲貳千四百萬圓、南亞米利加洲四百萬圓等にして、亞細亞洲の

國別＼區別	輸出 十四年	輸出 十三年	輸出 增減（△印ハ減）	輸入 十四年	輸入 十三年	輸入 增減（△印ハ減）
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
亞細亞洲						
支那	九、〇三三	五、七二二	三、二一一	六、一四六	七、六三三	△ 一〇、四八七
關東洲	三、四九八	三、九四四	九五五	三、四八六	三、七〇一	二六五
香港	三、五〇二	三、三五五	△ 一、八四四	六七	二六六	△ 一六六
英領印度	六、八〇五	五、八、三六六	二、四九九	三、七、九八	三、六、三四	九七、九七四
英領海峽殖民地	三〇、三六六	二六、〇三七	四、二八九	三、〇、三八	二〇、三八	四、七〇五
蘭領印度	三八、五四四	二七、九二二	一〇、九四二	二四、九〇〇	二四、九〇〇	三、七三三
佛領印度	二、三五五	一、七二二	五七三	一、三五三	七、〇八八	六、四六四
露領亞細亞	二八八	七一	二一七	四、〇二七	二、九三	一、一〇四
比律賓諸島	三、四〇三	一九、〇〇二	四、四〇一	九、五三五	九、八四四	△ 三四九
暹羅	五、二二六	三、〇三三	二、二八四	八、六八八	五、八九九	二、七二九
其他	五、〇五五	三、五五六	一、三八〇	七七	二〇	五七
計	三三、九三三	三七、五九六	八六五七	五一四三四	四〇、八四六	一〇、五四九、八
歐羅巴洲						
英國	三〇、一一一	一五、七〇五	一四、四〇六	一四、五五五	一四、四〇四	△ 一四、四〇四
獨逸	一、〇六二	五五五	一、〇〇二	一、六三二	一、六三二	一、〇〇二
佛蘭西	一、一七三	一、一七三	一、一七三	一、一七三	一、一七三	一、一七三
墨西哥	三、一七五	三、一七五	三、一七五	三、一七五	三、一七五	三、一七五
計	三三、九三三	三七、五九六	八六五七	五一四三四	四〇、八四六	一〇、五四九、八
北亞米利加洲						
合衆國	二二〇、七一一	一五、七〇五	六六、四〇六	三四八、一四六	三四八、九〇一	一七、一六七
加奈陀	二二、一五二	一〇、一六〇	一、六六二	一、四四二	一、四四七	△ 八
墨西哥	一、〇六二	五五三	五〇九	一二六	—	一二六
計	二三、五七五	三、一七五	二、四〇〇	三八、八七〇	三、一七五	△ 一、一三八
計	三三、九三三	三七、五九六	八六五七	五一四三四	四〇、八四六	一〇、五四九、八

| | | | | | |

南亞米利加洲																							
秘露	一、三二二	一、七〇七	△	四八五	二五	一、七〇七	△	四八五	二五	一、七〇七	△	四八五	二五	一、七〇七	△	四八五	二五	一、七〇七	△	四八五	二五	一、七〇七	△
智利	一、六七三	一、七四〇	△	六七	二、九六一	一、六七三	△	六七	二、九六一	一、六七三	△	六七	二、九六一	一、六七三	△	六七	二、九六一	一、六七三	△	六七	二、九六一	一、六七三	△
亞爾然丁	五、八八五	六、五四三	△	六五八	一、四四五	一、〇六四	△	一三四	一、四四五	一、〇六四	△	一三四	一、四四五	一、〇六四	△	一三四	一、四四五	一、〇六四	△	一三四	一、四四五	一、〇六四	△
伯利西爾	九三〇	四、一〇四	△	八八七	二七	四、一〇四	△	八八七	二七	四、一〇四	△	八八七	二七	四、一〇四	△	八八七	二七	四、一〇四	△	八八七	二七	四、一〇四	△
其他	三、二一七	一五、一二八	△	二、二三一	一三五	一五、一二八	△	二、二三一	一三五	一五、一二八	△	二、二三一	一三五	一五、一二八	△	二、二三一	一三五	一五、一二八	△	二、二三一	一三五	一五、一二八	△
通計	二二、九二七	二〇、一八一	△	二、三六六	一、六四七	二〇、一八一	△	二、三六六	一、六四七	二〇、一八一	△	二、三六六	一、六四七	二〇、一八一	△	二、三六六	一、六四七	二〇、一八一	△	二、三六六	一、六四七	二〇、一八一	△
亞弗利加洲																							
埃及	一七、八一五	五、二六〇		八九二		五、二六〇		八九二		五、二六〇		八九二		五、二六〇		八九二		五、二六〇		八九二		五、二六〇	
喜望峰殖民地及ナタル	六、一五三	五、八九六	△	六八九		五、八九六	△	六八九		五、八九六	△	六八九		五、八九六	△	六八九		五、八九六	△	六八九		五、八九六	△
其他	五、二〇七	三一、三三七	△	二、一六三		三一、三三七	△	二、一六三		三一、三三七	△	二、一六三		三一、三三七	△	二、一六三		三一、三三七	△	二、一六三		三一、三三七	△
通計	二九、一七四	三五、九八四	△	三四五		三五、九八四	△	三四五		三五、九八四	△	三四五		三五、九八四	△	三四五		三五、九八四	△	三四五		三五、九八四	△
其他																							
濠太剌利		二、〇八七		二、四八二		二、〇八七		二、四八二		二、〇八七		二、四八二		二、〇八七		二、四八二		二、〇八七		二、四八二		二、〇八七	
新西蘭		六、四七四		三、九五四		六、四七四		三、九五四		六、四七四		三、九五四		六、四七四		三、九五四		六、四七四		三、九五四		六、四七四	
布哇				三三				三三				三三				三三				三三			
其他諸國		二一一		六七三	八一	二一一		六七三	八一	二一一		六七三	八一	二一一		六七三	八一	二一一		六七三	八一	二一一	
假置場		—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
不詳		—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—	
通計	七二五、九三四	四四、四四二		四三、七五五	四四、四二九	四四、四四二		四三、七五五	四四、四二九	四四、四四二		四三、七五五	四四、四二九	四四、四四二		四三、七五五	四四、四二九	四四、四四二		四三、七五五	四四、四二九	四四、四四二	
全計	五八〇、二九四	一五、一二八	△	二、二三一	四三五	一五、一二八	△	二、二三一	四三五	一五、一二八	△	二、二三一	四三五	一五、一二八	△	二、二三一	四三五	一五、一二八	△	二、二三一	四三五	一五、一二八	△

次に本港重要通商國の數箇國貿易額を全國のそれに對比して本貿易の地位を窺ふに左表の如し。

區別	國名	輸出 十四年 全國	輸出 十四年 神戸	輸出 十四年 歩合	輸出 十三年 全國	輸出 十三年 神戸	輸出 十三年 歩合	輸入 十四年 全國	輸入 十四年 神戸	輸入 十四年 歩合	輸入 十三年 全國	輸入 十三年 神戸	輸入 十三年 歩合
支那		四八六、四三九千円	九一、〇三二千円	一九	三四八、三九九千円	五七、五一〇千円	一六	二二四、六五八千円	六五、五五〇千円	二九	二二六、六五二千円	七四、三一〇千円	三二
關東州		一〇一、六六三	二二、四七八	二二	七二、五九八	二二、九四三	三一	七二、五九五	二二、四七八	三二	七二、五九八	二二、四七八	三二
香港		七三、六二四	三五、五〇一	四八	七九、〇一〇	三七、三七五	四七	七九、〇一〇	三五、五〇一	四八	七九、〇一〇	三七、三七五	四七
英領印度		一七三、四一三	六九、八〇五	四〇	一三五、三七二	五八、三九六	四三	一三五、三七二	六九、八〇五	四〇	一三五、三七二	五八、三九六	四三
海峽殖民地		四四、九〇五	三〇、三二六	六八	三二、七四二	一六、〇三七	四一	三二、七四二	三〇、三二六	六八	三二、七四二	一六、〇三七	四一
蘭領印度		八五、五五七	三八、五三四	四五	五九、三三四	二九、五九二	四七	五九、三三四	三八、五三四	四五	五九、三三四	二九、五九二	四七
佛領印度支那		四、〇一八	二、三五五	五八	二、四三八	一、七八二	七三	一〇、三七三	二、三五五	五八	一〇、三七三	一、七八二	七三
比律賓諸島		二九、三〇六	二三、四〇三	八〇	一三、五〇八	一九、〇〇二	一四〇	四八、七二〇	二三、四〇三	八〇	四八、七二〇	一九、〇〇二	一四〇
暹羅		七、八二〇	五、二二六	六七	四、一七八	三、〇三〇	八三	二三、七三五	五、二二六	六七	二三、七三五	三、〇三〇	八三
英吉利		五九、七一六	三四、七一八	五八	六一、〇四四	四三、六四七	七〇	二二、七二九	三四、七一八	五八	二二、七二九	四三、六四七	七〇
佛蘭西		五八、八五五	二一、二四〇	三一	八五、七九〇	一七、五〇一	二〇	三三、三七七	二一、二四〇	三一	三三、三七七	一七、五〇一	二〇
獨逸		一一、八四四	一〇、一六三	八六	八、五六四	七、八二九	九一	一二、八一九	一〇、一六三	八六	一二、八一九	七、八二九	九一
北米合衆國		一〇〇、六五三	二二〇、七一一	二二	七四四、六三二	一五七、〇九九	二〇	六六四、九九三	二二〇、七一一	二二	六六四、九九三	一五七、〇九九	二〇
埃及		二五、二六六	一七、八一五	七一	二七、〇八〇	二〇、一八二	七五	三二、一六三	一七、八一五	七一	三二、一六三	二〇、一八二	七五
濠太剌利		四七、四九六	三五、六四〇	七五	四一、九〇二	三五、九八五	八六	一四九、九六九	三五、六四〇	七五	一四九、九六九	三五、九八五	八六

即ち輸出にては獨逸の八割六分、比律賓諸島の八割一分、濠太剌利の七割五分、埃及の七割一分、輸入にては佛蘭西の七割五分、海峽殖民地の六割八分、埃及

の六割、英領印度及比律賓諸島の五割七分等を主とし、本港通商國の首位にある北米合衆國の輸出僅かに二割二分又支那の如きも一割九分に當れるに過ぎず

第五款　仲繼貨物

仲繼貨物を大別して積戻貨物、運送貨物及他港輸出手數濟積移貨物の三種とす。之が本年及前年の噸量、價額を記すれば左の如し。

種別＼年次	數量 十四年	數量 十三年	增減（△印ハ減）	價額 十四年	價額 十三年	增減（△印ハ減）
積戻貨物	一三八、四七七噸	二一〇、九四五噸	一七、五三二噸	七六、〇三八千円	四〇、八八一千円	三五、一五七千円
運送貨物	二〇〇、一二九	二六七、七〇二	△六七、五八三	七六、〇四六	一〇一、九六六	△二五、九二〇
輸出手數濟積移貨物	一五八、三〇八	一七三、四二一	△一四、九〇三	八九、六五七	八四、〇一〇	五、六四七
計	四九七、一〇四	五六二、〇五八	△六四、九五四	二四一、七四一	三六、八五七	一四、八八四

而して運送貨物、輸出手數濟積移貨物の二者は税關にて通關手數を了したる港の貿易統計に計上され、本市港灣統計にては内國貿易統計中に加算するが故に、本欵に於ては積戻貨物即ち外國より輸送し來りたる貨物を本港に陸揚し、或は船移し、更に之を國外に仕向くる貨物のみに就て述べんとす。

本港の積戻貨物の多量なるは他港に其比を見ざる所なるが、而も歐洲戰爭中を極盛として漸次遞下の趨勢にあり。之が原因は關税制度の改正、新航路開始航路の延長等を以て其の主なるものと見るべし。

本年の積戻貨物は十三萬八千四百七十七噸、此價額七千六百參萬八千圓にして、之を前年に比するに數量に於て一萬七千五百三十二噸、價額に於て參千五百拾五萬七千圓の增加を示せり。今試に大正元年以降の積戻貨物數量を記するに。

大正元年	一二九、四一三噸
大正二年	一六七、一一一噸
大正三年	二〇一、八一七噸
大正四年	三九九、〇〇九噸
大正五年	四三五、四一二噸
大正六年	四七九、九二五噸
大正七年	六九四、五〇六噸

神戸港大觀

大正八年	五五六、九五七噸
大正九年	四〇七、三七九噸
大正十年	一五〇、八五四噸
大正十一年	一四二、六三〇噸
大正十二年	一二〇、九五八噸
大正十三年	一二〇、九四五噸
大正十四年	一三八、四七七噸

即ち前述の如く大正四年より大正九年迄の六ヶ年が盛況を示せるは全く歐洲戰亂中船腹不足によるものなり。次に之が仕出國及仕向國別に依り本年及前年の噸量を對照すれば左の如し。（△印ハ減）

國名	仕出 十四年	仕出 十三年	仕出 増減	仕向 十四年	仕向 十三年	仕向 増減
支那	一四、一二五噸	一一、九九五噸	二、一二〇噸	三七、五三八噸	三二、二六五噸	一五、二七三噸
關東州	五、四九八	二三、一〇四	△	三三、五三一	四五、一九八	△
香港	三、〇七七	一、八八九	七、六〇八	一〇、〇八六	四、五七九	二、六七七
英領印度	五七、五八二	三二、七六四	二四、八一八	五、二六九	二四〇	五、〇二九
海峽殖民地	一、二八八	二、七七八	△	三、一八〇	一、四七三	一、七〇
蘭領印度	一、六二三	五、一〇二	△			
佛領印度	二三五		△			
露領亞細亞	三、四四七	三、六七六	△			
他ノ亞細亞	四二八	四七四	△			
英吉利	四、六二一	四、三三二				
佛蘭西	四四	七七	△			
白耳義	二、八九八	五、八九〇	△			
和蘭	—	—	△			
瑞典	五二一	五二六	△			
諾威	二〇六	二二四	△			
他ノ歐羅巴	三、六一四	八、九六八	△			
北米合衆國	二一、三九三	一七、七六八				
加奈陀	六、八〇〇	五、一九一				
南亞米利加	七九七	一、九四二	△			
他ノ亞米利加	—	—		—	—	
埃及	五					
喜望峰殖民地及	七二	一、五〇三	△	—	—	
他ノ亞弗利加	—	—		—	—	
濠太剌利	四、二五九	一四	△	四、九六九	一、七四五	七一〇
其他ノ諸國	三八六	六、五〇三	△	一、五九二	一、〇四七	五四五
假置場		五、七二九	△	—	—	—
計	四、九四〇	一二〇、九四五	七八九	一二八、四七七	一二〇、九四五	七、五三二

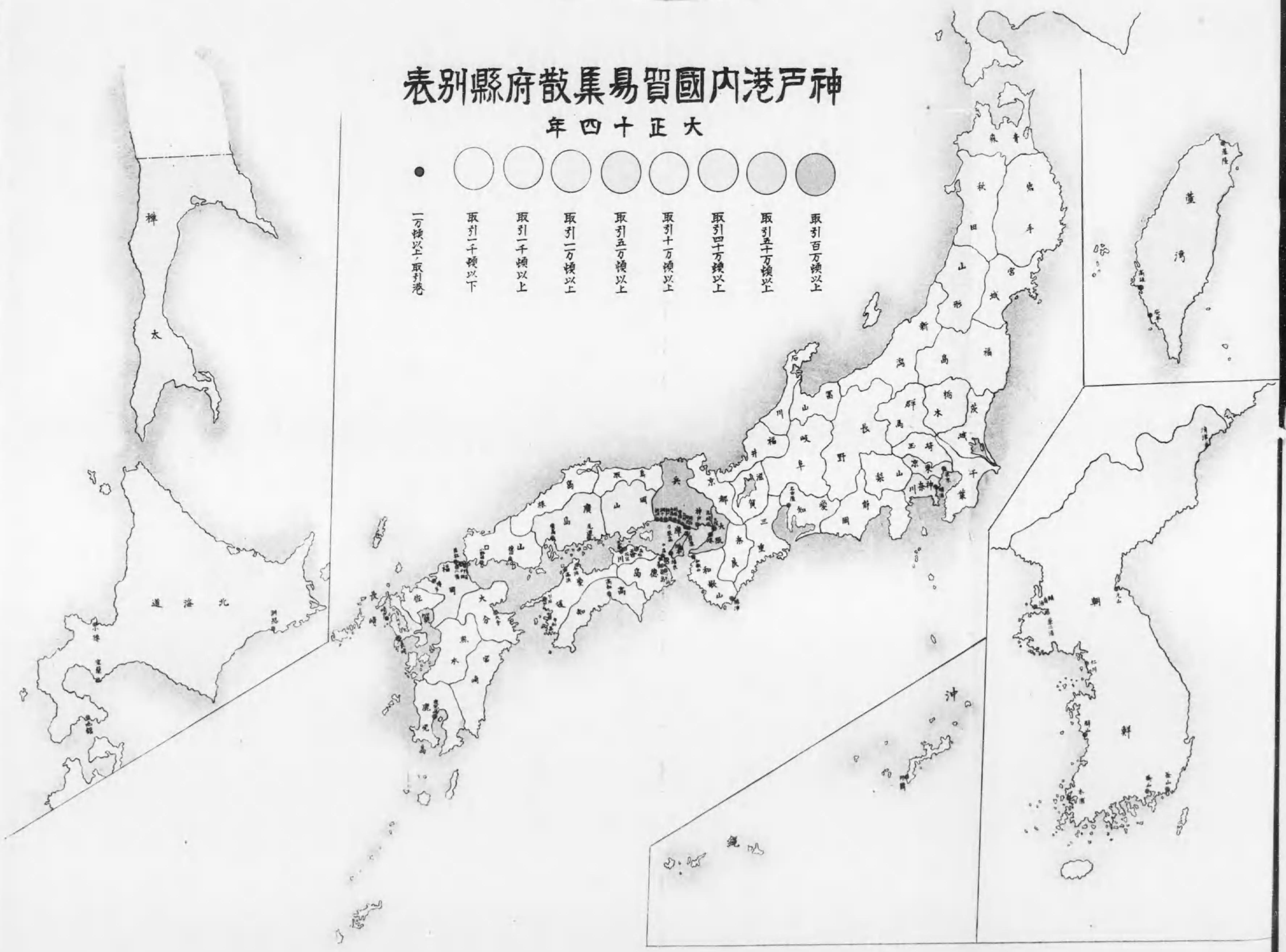
即ち仕出國にては英領印度・北米合衆國・支那・關東州・仕向國にては支那・關東州・北米合衆國・露領亞細亞・香港等其の優秀なる地位を占めり。前年に比し增減の著しきは、仕出國にありては英領印度・北米合衆國・濠太剌利・支那等は增加し、關東州・蘭領印度・白耳義・海峽殖民地等は何れも減少し、仕向國にありては支那・露領亞細亞・香港・英領印度・蘭領印度等增加に屬し、關東州・北米合衆國・英吉利・佛蘭西は共に減少せり。次に本年の積戻貨物を品種別に分ちて數量・價額を前年に對照すれば左の如し。

品名	十四年 數量	十四年 價額	十三年 數量	十三年 價額
	噸	千円	噸	千円
穀物穀粉及種子	一〇、七六五	一、九三三	二四、九七九	三、六六〇
飲食物及煙草	一四、六一七	六、四二九	二〇、二一四	七、〇五九
皮毛骨角類及同製品	二、六二七	一、八八六	一、五七六	六六三
油脂蠟及同製品	四、一四三	一、五三八	三、一〇七	五九七
藥材化學藥及製藥	九、四三三	四、六七九	七、二九二	二、一二六
染料、顏料、塗料	九九七	五七三	一、七七八	一、〇六六
絲縷繩索及同材料	二一、二七六	三三、二三〇	七、〇一四	六、一六六
布帛及同製品	三七、〇五七	二七、六五九	二〇、三四九	八、〇六七
衣類及同附屬品	二三	九	一七六	三一

露光量違いの為重複撮影

神戸港内國貿易集散府縣別表

大正十四年



品名	數量	價額	數量	價額
穀物類粉及種子	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
飲食物及煙草	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
皮革骨角類及同製品	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
油脂蠟及同製品	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
薬材化學藥及製藥	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
染料・顔料・塗料	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
纖維類及同材料	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
布帛及同製品	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
衣類及同附屬品	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

露光量違いの為重複撮影

神戸港内國貿易集散府縣別表

大正十四年

紙、紙製品書画類	三、二三四	七二九	一、六八一	六二六	
礦物及同製品	四二	二八	五四八	六二	
陶磁器及硝子類	一六八	八〇	八九八	三六	
鑛及金屬	五、六五六	一、三九五	三、二〇三	一、五四〇	
金屬製品	一〇、八四二	一、八五三	一四、〇一一	二、五八九	
時計學術器及機械類	九七九	六五一	三、九八二	四、〇九九	
雜品	一七、六二八	三、三六六	一〇、一三七	一、九三五	
計	一三八、四七七	七六、〇三八	一二〇、九四五	四〇、八八二	

第二節　內國貿易

第一款　內國貿易に於ける神戸港の地位

當港は對外貿易港として世界的に有名なるのみならず、內國貿易港としても古へより殷賑を極め、兵庫の津として夙に著はれ商船賈舶常に輻輳して、年々歲々、確實に重要なる地位を占めつゝあり。惟ふに當港は瀨戸內海を中心とし、所謂ヒンテルランドは近畿・中國・四國・九州・各方面を以てし、之れを西にしては臺灣朝鮮各航路の基點となり、之れを東にしては北海道・樺太に對する發着地となり其の貨物の集散地域の如き頗る廣汎にして全國に亘り、我が內國貿易上嶄然頭

角を顯はし、重要港灣としての聲價を昂めつゝあり。今試みに十三年度內務省港灣統計により本邦主要港について其の利用狀態を比較するに、當港の取扱數量は六百四十萬七千五百噸にして第四位たるも、價額に於ては拾參億六千參萬千餘圓の巨額に上り第二位にあり。是れ其の取扱品種が比較的全製品に多く從つて噸當り單價も高きが爲めにして、大阪は價額に於て第一位を占め、數量に於ては第二位なれども原料品多く、若松港が噸數に於て第一位たるも主として石炭移出なるが故に、價額に於て十一位となり、橫濱は復興事業着々進捗して、數量は當港よりも上位にあり。東京は量價共に第五位にありて前途躍進の徵あり。今他港との比較を表示すれば次の如し。

本邦主要港發着貨物比較表　（大正十三年內務省統計ニ依ル）

港名	噸數	順位	價額	順位
若松	八、五九五、二〇七	一	一四八、四一六、七五八円	一一
大阪	八、三五六、四三八	二	二、一三四、二五二、三一五	一
橫濱	七、〇四一、四一四	三	七二四、八六四、〇一八	三
神戸	六、四〇七、四九九	四	一、三六〇、〇三一、一四八	二
東京	三、一九二、八四二	五	三六〇、二〇四、九七六	五
名古屋	三、一二四、六六〇	六	一七六、七五七、〇四〇	九
函館	二、二一八、四六二	七	三三六、〇三八、八四七	六
下關	二、一二九、一五五	八	三九七、〇八一、〇七五	四
室蘭	二、〇四三、四五五	九	一一三、〇九四、九一九	一二
小樽	一、九九九、六五八	一〇	二五〇、二七八、五八三	七
門司	一、九三七、四一七	一一	二〇〇、四二九、九一九	八
青森	一、三二八、〇七六	一二	一六九、九七九、九七二	一〇
清水	八七九、八三〇	一三	三一、八八二、九八七	一五
伏木	七八一、七五八	一四	七二、五二八、六二五	一三
長崎	七六三、三四三	一五	五五、九九〇、七一〇	一四

蹣つて當港內外貿易を對比するに、價額に於ては依然として外國貿易優勢を示し、噸數に於ても漸次擡頭氣勢を迎れるを見る、殊に近年に於ては噸數價額を通じて比率の遞增しつゝあるは、當港として看過すべからざるものなり。之れを表示すれば左の如し。

神戸港內外貿易比率表

年次	噸數 內國	噸數 外國	噸數 割合	價額 內國	價額 外國	價額 割合
大正元年	四六%	五四%		二九%	七一%	
同二年	四三	五七		二五	七五	

同	三年	四三	五七	二六	七四
同	四年	四八	五二	三八	六二
同	五年	四九	五一	三五	六五
同	六年	五九	四一	五〇	五〇
同	七年	五一	四九	四七	五三
同	八年	五六	四四	五一	四九
同	九年	四六	五四	三一	六九
同	十年	四〇	六〇	三二	六八
同	十一年	四三	五七	三五	六五
同	十二年	五一	四九	四一	五九
同	十三年	五六	四四	四四	五六
同	十四年	五五	四五	三九	六一

第二款　內國貿易概觀

當港內國貿易は漸次伸展の道程にありと雖も、其の港灣設備に缺ぐる所あるため十分驥足を延ばし得ざるの憾あり。さりながら之れを大正元年以降十四ヶ年間の統計に見るに、內外經濟事情の變遷により一榮一枯、消長の跡を止むれども累進の大勢あるを認む。即ち大正元年に於ける發着噸數二百八十二萬二千六百二十二噸、價額壹億八千七百七拾八萬八千六百六拾八圓なりしものが、大正八年に至りて六百七十四萬四千四百三十五噸、價額拾四億九千六百參拾貳萬參千貳百貳拾壹圓といふ大躍進の數字を示したるが如き、その後世界的財界不況のため、內國貿易の不振亦已むを得ざりしが、大正十二、三年は關東大震災復興に要する貨物發送のため、當港貿易も亦好勢を告げ、大正十三年には六百三十八萬五千九百七十六噸、拾參億六千參萬壹千壹百四拾八圓の巨額に達せり。大正十四年は不景氣の深刻化と關東方面の復興進捗のため、幾分減少したるも尙五百八十二萬七千六百三十一噸、拾貳億參千參百九拾參萬壹千六百六拾參圓の交易にして、而かも大正八年及び十三年の盛況時に亞げり。但し茲に注意すべきは左表に示すが如く十四ヶ年を通じて、大部分は到着噸數の發送に優り、發送價額の到着に超ゆることにして、十四年も此の狀勢にあり。惟ふにこは原料品の搬入夥々しきに反し、比較的加工精製品の搬出せらるゝに因るべし。

內國貿易發着貨物表

年次	到着		發送		合計	
	噸數	價額	噸數	價額	噸數	價額

大正元年	一、八〇四、二四六	增	九四、五二〇、六八六	円	一、〇一八、三七六	噸	九三、二六七、九八三	円	二、八二三、六二二	噸	一八七、七八八、六六八	円
同　二年	一、二九一、四一二		七一、九六三、一八四		一、二九二、二五二		一〇〇、九五六、三八三		二、五八三、六六三		一七三、九二九、五六六	
同　三年	一、一九四、五六四		五八、九九五、七七三		九三、三五三		一〇一、八四〇、七八三		二、一二八、〇八六		一六〇、八三六、五五六	
同　四年	一、六六一、〇八〇		一三四、四〇五、九五一		一、〇三六、五三七		一五四、二八四、四四八		二、六九七、六一七		二八八、六九〇、三九九	
同　五年	二、〇九八、一九七		一七六、一八三、七五五		一、三六九、二〇五		二二〇、一六四、六六九		二、六四、四〇三		三七六、四六七、四〇三	
同　六年	二、六九八、〇三一		三三五、九六三、九四七		二、九八七、五三三		六七六、八〇八、一九〇		三、九六、六六三、九四七		五五、六六五、五六四	
同　七年	二、九九八、六〇四		六五〇、六八五、八三一		一、四五八、〇二六		三二五、六五五、三八七		四、四五六、六三〇		四、四五六、六三〇	
同　八年	四、〇九七、四〇五		六八〇、五五九、八七一		二、六四七、〇三〇		八一五、七六三、三五〇		六、七四四、四三五		六、七四四、四三五	
同　九年	二、二七五、六〇九		四四三、六六一、五八一		一、五八四、〇三〇		三〇八、七五二、三六三		三、八五九、六五九		三、八五九、六五九	
同　十年	一、四一五、二九四		二四七、四八七、八二八		一、一三四、九六五		二一六、六二五、三五三		二、五三〇、二五九		二、五三〇、二五九	
同十一年	二、二六二、六〇三		二七九、六八五、一、九五		一、二七七、一〇五		三三一、一一七、一七〇		三、五二九、七〇七		三、五二九、七〇七	
同十二年	三、二五八、八五〇		四三二、二四七、九二〇		一、七一六、六三六		五二三、五四〇、六二三		四、九七五、四八六		四、九七五、四八六	
同十三年	三、八九七、〇〇二		五三五、七四七、〇一七		二、四八八、九七四		八三四、二八四、一三二		六、三八五、九七六		六、三八五、九七六	
同十四年	三、七八七、六〇二		五九七、〇八八、四三四		二、〇四五、〇三〇		六六六、八四三、二二九		五、八二七、六三二		五、八二七、六三二	

之を大正元年以降の比率について見るに、歐洲大戰が我國經濟界に與へたる影響が特に神戸港に出現したる狀勢を察知し得べく、尙戰後に於て關東震災の餘響を度外視する能はずと雖も、漸進の基調鞏固なるを知るべし。本年は噸數に於て大正元年の十割六分、價額に於て五十五割七分てふ增加率を示したり。即ち左表の如し。

內國貿易發着增減比較表

（大正元年指數一〇〇ニ對シ）

年次	到着 噸數	到着 價額	發送 噸數	發送 價額	合計 噸數	合計 價額
大正元年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
同　二年	七二	七六	一二七	一〇八	九二	九二
同　三年	六六	六二	九二	一〇九	七五	八六
同　四年	九二	一四二	一〇二	一六五	九六	一五四
同　五年	一一六	一八六	一三四	二一五	一二三	二〇〇
同　六年	一五〇	三五五	二九三	七二六	二〇一	五三九
同　七年	一六六	六八八	一四三	五五三	一五八	六二一
同　八年	二二七	七二〇	二六〇	八七四	二三九	七九七
同　九年	一二六	四六九	一五六	三三一	一三七	四〇一
同　十年	七八	二六二	一一一	二三二	九〇	二四七
同十一年	一二五	二九六	一二五	三四五	一二五	三二〇
同十二年	一八一	四五七	一六九	五六一	一七六	五〇九
同十三年	二一六	五五六	二四四	八九五	二二六	七二四
同十四年	二一〇	六三二	二〇一	六八三	二〇六	六五七

次に發着貨物の加工程度類別にして其の盛衰を見るに、原料品は最多にして出入總量の四割三分八厘を占め、以下食料粗製品の一割六分七厘、全製品の一割六分一厘の順位なるも、價額に於ては原料用製品の二割七分九厘を筆頭として

原料品、全製品の順序とす。之れを前年と比較すれば、數量及價額の割合共、全製品・原料用製品は增率して他は減じたり。即ち全製品は二十二萬七千百七十二噸を增加せしも價額に於て貳千參百七拾八萬七千九百五拾圓を減せり。而して原料用製品は五萬九百九十四噸、貳千五百八拾貳萬貳千九百六拾八圓を增加せり。今大正十三・四兩年の比較を示せば次の如し。

內國貿易加工別比較表

品種別＼年度	大正十四年 噸數	大正十四年 總噸數ニ對スル割合	大正十四年 價額	大正十四年 總價額ニ對スル割合	大正十三年 噸數	大正十三年 總噸數ニ對スル割合	大正十三年 價額	大正十三年 總價額ニ對スル割合
食料粗製品	九七五、九七四	一割六七	一八〇、五七八、四六一	一割四六	一、一五九、七八四	一割八二	二〇六、二九三、五二二	一割五三
食料製造品	三四一、三四〇	●五九	九八、三九〇、八九六	●八〇	六〇六、六〇六	●九五	一四七、二五二、四八一	●四七
原料品	二、五五〇、八六六	四割三八	三〇一、五六七、五〇四	二割四四	二、九一四、八七六	四割五六	三四七、八七四、〇二三	三割八〇
原料用製品	九一八、八五九	一割五八	三四三、八七四、〇二三	二割七九	八六七、八六五	一割三六	三八、〇五一、〇五五	二割三
全製品	九三七、三三七	一割六一	二八八、二二五、九一五	二割三四	七一〇、二五五	一割二	三一、九二三、八六五	二割九
雜品	一〇三、二六五	●一七	二、三九四、八六四	●一七	二六、六九〇	●二〇	二八、六六六、八五九	●二〇
計	五、八二七、六三一	一〇割〇〇	一、二三三、九二一、六六三	一〇割〇〇	六、三八五、九七六	一〇割〇〇	一、五六〇、〇三一、一四八	一〇割〇〇

更に之を發着別にして表示すれば、到着噸數は十四年にありては原料品其の總量の五割三分四厘に當り、食料粗製品一割八分、全製品一割五分六厘の順なり十三年に於ては原料品五割五分八厘、食料粗製品二割一分一厘の順序なり、十四年中發送にありては原料用製品の三割九厘最多にして、原料品の二割五分九厘全製品の一割六分九厘を示したり。十三年は原料品二割九分七厘、原料用製品二割二分三厘と一般に低下せり。價額に於ては十四年の到着は原料用製品の二割七分八厘を始め全製品二割七分三厘、食料粗製品二割一分四厘の順なるに十三年は食料粗製品二割八分九厘を筆頭として、原料用製品、全製品の順なり。發送は十四年中原料品の三割三分七厘を第一とし原料用製品、全製品は之に次ぐ。之を表示すれば左の如し。

內國貿易加工別發着比較表

品種別＼年度	到着 大正十四年 噸數	到着 大正十四年 價額（圓）	到着 大正十三年 噸數	到着 大正十三年 價額（圓）	發送 大正十四年 噸數	發送 大正十四年 價額（圓）	發送 大正十三年 噸數	發送 大正十三年 價額（圓）
食料粗製品	六七九、三四八	二二七、五七九、七〇五	八二一、二四一	一五二、〇五〇、六四六	二九九、八二六	五二、九九八、七六六	三三八、四三	五四、二四二、八六六
食料製造品	一四五、二六五	四三、〇二三、四九四	二五三、四六五	五八、二八六、二〇〇	一九六、〇七五	五五、三六七、四〇三	三三、一四一	八八、九六六、二八一
原料品	二、〇二一、七八一	八六八、六五三、八〇八	二、七四、八〇三	六一、三三二、一三四	五二九、〇八五	二二四、九一三、六九六	七四〇、〇七三	二八六、六四一、二四二
原料用製品	二八六、三五二	二六六、一五五、三七〇	三一、四八三	二六六、九二五、五〇六	六三二、三〇七	一七七、七一八、六五三	五五六、三八二	九八一、二五五、五四九
全製品	五九〇、七六一	二六三、〇五一、一九八	二六六、六五二	二二三、一三九、九三三	三四六、五六六	二二五、〇七四、七一七	四四三、五〇三	一九八、七七七、九四三
雜品	五九、〇九四	一〇、六二四、八五九	六九、三五八	一四、二六、六〇九	四四、一七一	一〇、七七〇、〇〇五	五七、三三一	一四、五三〇、二五〇
計	三、七八二、六〇一	五九七、〇八八、四三四	三、八七〇、〇〇三	五三五、七四七、〇一七	二、〇四五、〇〇〇	六三六、八四三、二三九	二、四八八、九七四	八三四、二八八、一三一

内國貿易加工別發着比率表

品種別＼年度	到着 噸數割合 大正十四年	到着 噸數割合 大正十三年	到着 價額割合 大正十四年	到着 價額割合 大正十三年	發送 噸數割合 大正十四年	發送 噸數割合 大正十三年	發送 價額割合 大正十四年	發送 價額割合 大正十三年
食料粗製品	一・八〇	二・一四	二・八九	二・一二	一・四五	一・八三	一・三六	一・〇七
食料製造品	五・三八	七・三	一・一二	五・五五	九・六	八・七	一・四二	五・五八
原料用製品	五・三四	一・四五	一・一七	八・〇	二・五九	三・三七	二・九七	三・四四
全製品	一・七六	二・七八	二・四一	六・九	三・〇九	二・七九	二・三三	二・二九
雜品	一・五六	二・七三	二・一五	一・一七	一・九六	一・九六	一・七八	二・三八
計	一・六	一・八	二・七	二・七	一・三	一・八	二・四	一・七
	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇

更に品種別によりて發着貨物を細別し、其の噸數四萬噸以上のものを擧ぐれば、土砂・砂利は到着噸數の二割一分八厘、石炭は一割六分二厘に當り、發送に於ては鐵材の一割二分七厘、肥料の九分一厘首部にあり。價額に至りては齊しく低率にして、只だ發送の棉花が二割七分一厘の最高率を把持せり。

重要到着品表

品名	噸數 到着總噸數ニ對スル割合	價額 到着總價額ニ對スル割合	主ナル仕出港
土砂利	八二五、七二四噸 二・一八割	一、六五一、一五四円 〇・三割	岩屋、高砂、明石、高須
石炭	六二五、五二九 一・六三割	九、二五三、〇八五 一・五割	若松、崎戸、門司、戸畑
硝子及同製品	二一八、七九六	三五、〇二九、六三〇	大阪、洲本、德島
肥料	一八七、〇四八	三一、九四一、九〇〇	小樽、函館、大阪
木材	一七八、八四六	一八、四八五、三五〇	和歌山、大阪、室蘭、小樽、中島
木製品	一三八、九九九	二五、〇一〇、七八二	木場、岩屋、室津、明石、德島、的形
果物類	一三七、〇六二	二一、七九九、九四八	基隆、高濱、和歌浦、高知、德島
朝鮮米	一三一、六七四	二八、七〇四、九三二	釜山、木浦、群山
砂糖	一二六、〇〇六	三六、八〇二、二三一	大阪、高雄、基隆
臺灣米	一一〇、一五九	一九、七一八、四九一	基隆、高雄
石材及同製品	七七、七二五	一、八一四、九三二	家島、犬島
鐵材	六一、〇九〇	八、一九九、三八五	大阪、八幡
豆類	四六、三六六	七、七五九、五二〇	元山、鎭南浦、清津、小樽
綿織物	四二、九〇五	三七、四六四、四八〇	大阪、今治、川ノ石

重要發送品表

品名	噸數 發送總噸數ニ對スル割合	價額 發送總價額ニ對スル割合	主ナル仕向港
鐵材	二六一、九五四噸 一・二七割	三七、八六〇、八〇五円 〇・五九割	大阪、德山、東京、横須賀
肥料	一八六、九三五 〇・九一	一九、四〇七、一七八 〇・三	大阪、高松、高知、高雄、小樽、鎭南浦
外國米	一三五、二七六 〇・六六	二〇、八三二、五〇四 〇・三	大阪、高知、德島、基隆、釜山、仁川
棉花	一三二、〇七一 〇・六四	一七、六一六、七九九 〇・二七	尼崎、德島、川ノ石、大阪、堺、横濱、釜山
砂糖	九九、七〇四 〇・四八	三一、七六九、五二五 〇・四九	大阪、高松、德島、高知
鐵製品	九九、六一四 〇・四八	四七、四三八、二五〇 〇・七四	大阪、基隆、博多、東京、横濱
藥品	九七、二三六 〇・四八	三六、八九五、三二三 〇・五七	大阪、別府、基隆、長崎、小樽
木製品	九八、八六三 〇・四七	四、五六六、五七一 〇・〇七	大阪、網干、飾磨、洲本、德島、高松、仁川

木材	八五、五七二	●四一	六、三三二、三〇五	●〇九	大阪、明石、高砂、德島、飾磨、岡山
燐寸	四九、八二四	●二四	一、九九二、五六〇	●〇三	基隆、高雄、德島、小樽、函館、仁川、群山
小麥粉	四八、一九三	●三	一〇、一二〇、五三〇	●一五	大阪、基隆、德島、高雄、那覇、木浦、仁川

第三款　內國貿易と地方別との關係

當港出入貨物の取引地域は、航路の延長により漸次擴大せられつゝあるも、地理的・歷史的關係上畿內・中國・四國・九州方面に夥しく、東北及び裏日本方面とは淡き現況なり。大正十四年中に於ける內國貨物の集散狀態を各府縣別に見るに到着にありては兵庫縣・福岡縣・大阪府・北海道・臺灣・朝鮮・德島縣を重なるものとし發送にありては大阪府・兵庫縣・臺灣・朝鮮・北海道等著し。之れを前年と比較すれば次表の如し。

內國貿易發着府縣別表（其一）

府縣別	到着 大正十四年 噸數	到着 大正十四年 價額	到着 大正十三年 噸數	到着 大正十三年 價額	發送 大正十四年 噸數	發送 大正十四年 價額	發送 大正十三年 噸數	發送 大正十三年 價額
兵庫縣	一、〇七九、二〇六噸	三八、〇七三、〇六四円	七三四、二七七噸	二六、八二四、八五五円	二五八、二七三噸	五九、五三一、一〇八円	二六〇、六〇三噸	四九、九二五、一〇六円
德島縣	一〇六、四四七	四二、四〇二、三五八	七〇、一七一	二九、六五三、九〇三	八五、〇六六	三三、八六六、六五八	九四、二五五	一五、二六七、〇三八
香川縣	五七、六五三	八、九二一、七三四	八、一三五	九、九二七、七八二	九〇、三〇七	一八、九四二、九三五	二二、一、三一九	一九、七〇、八三〇
愛媛縣	四八、六五七	三五、〇九二、六三二	四一、五四二	二四、八四四、九七〇	六一、〇〇九	二六、一九九、一〇三	六二、〇八四	二四、二九五、八五四
高知縣	四一、九九四	二三、九九一、五一四	七五、四五〇	二五、一五五、五四九	五四、六三〇	一一、八八一、五一八	六六、四六五	一四、一七〇、六八八
岡山縣	二、七二〇	二、七二九、五七五	四一、五〇七	五、五二一、〇一四	三四、三二一	二、七二九、五七五	一〇二、〇三九	一四、二八五、〇〇四
廣島縣	二七、九五五	八、一六三、六二二	四九、三三	一七、〇二二、七〇四	二九、七六四	六、九九一、七九九	二六、一四四	七、四六六、七九七
山口縣	二三、四一九	二、一二〇、一一四	三九、四四二	三、一九八、一五一	一三三、六八三	一、一二〇、一一四	一三、一六七	一、一四一、一六六
大分縣	三五、六一〇	八、七一〇、六五四	一五、四四八	五、二四九、八四五	一二、七九五	二、一二〇、五七五	一二、一三四	一、一四一、一六六
宮崎縣	一三、五五九	三、〇四二、四八三	一五、一二	四、六三一、九六四	一〇、八二四	一、一二一、一五一	七、一三〇	一、一四一、一六六
鹿兒島縣	二六、八六八	八、〇七一、三四四	二五、一二	四、三八三、五九八	四、三四二	一、一二一、一五一	一、一三一、一六六	一、一四一、一六六
沖繩縣	五、八九八	二、二五七、〇五九	四〇、〇〇六	九六八、八四五	九六、一二	二、一二一、六九五	二、一二一、六九五	二、一二一、六九五
熊本縣	七、八〇五	一、〇八二、二五八	一四、二六六	二、一二一、六九五	四九、四二八	二、六三五、七六九	二、六三五、七六九	二、六三五、七六九
長崎縣	三二、四四一	四、八五八、六三二	一〇、六〇三	一、三五四、五九二	一〇、六〇三	一、三五四、五九二	一、三五四、五九二	一、三五四、五九二
佐賀縣	七、四九二	三六七、七九三	一八一	七六、七二四	一八一	七六、七二四	七六、七二四	七六、七二四
福岡縣	六六一、四二六	二〇、六七六、七六三	一、〇〇八、四五三	三九、六〇六、六一三	三四、二〇七	一八、八五六、一八〇	一八、八五六、一八〇	一八、八五六、一八〇
島根縣	一三六	三四、〇〇〇	二、九九四	五八、一七二	一	一、〇五六	八六八	八六八
鳥取縣	—	—	五、三六〇	二五	六七	一三、五三五	四一一	四一一
大阪府	五四七、三〇〇	二六八、七六七、〇一八	三三、三〇、三〇九	一一三、三〇、三〇九	五八七、六六八	二〇九、四三七、五〇九	七一五、一四九	三五九、四五二、九七八
和歌山縣	九二、二九五	一七、四五〇、五八一	一八〇、一四三	九、七九、三九一	四一、九一〇	八、二一〇、六二四	四二、二六九	四二、二六九
三重縣	四、五八二	一、二八四、一七五	四、四九〇	一、三五九、〇四〇	一〇、二五二	八、四九八〇、〇五〇	八、四九八〇、〇五〇	二一、一四八
愛知縣	六、八六九	二、〇八七、〇四八	九、二九一	二、一九〇、九八七	八、九三八	六、八九二、〇三七	六、八九二、〇三七	一八、〇二二
靜岡縣	二五	一四、一五〇	一一	四六、八六六	二六	一六、一〇八	一六、一〇八	一七、七七四
神奈川縣	九、五八三	五、三七四、一八四	七、六七八、五五九	一、三五〇、四四八	一四、一五〇	四二、八七五	四二、八七五	一四、八一三
東京府	四、二七七	二、三七二、四四四	一、六八〇、四四八	三、三三九	二六、九七四	九、五六五、〇七七	九、五六五、〇七七	一四八、九一七
宮城縣	—	—	—	—	—	—	—	五〇、一四三
岩手縣	一三	二、九二一	三六六	一三〇、五七五	—	—	—	八二二
青森縣	一三〇	一〇、九二〇	九、八五〇	六二	—	—	—	七五九
北海道	三一八、八〇七	六五、八八三、九四〇	二〇二、一五八	三三、一二五、八九三	八五、五四九	二四、九四七、三五〇	—	二、二八五
第六章　貨物								二四、六三五、四四七

合計	朝鮮	南洋	樺太	南樺太	合計
三、七二一、六〇一	二、六四四、四四四	三〇	一〇、〇一一	三、七三一、六三一	一、四八八、九四四
五、九七〇、八八四、四四四	五、六七、三三一、七六六	五六、五五〇	一、〇三一、五三八	五、九七〇、八八四、四四四	六四三、六六六、三五五
三、九八七、〇〇一	三、六七、一〇〇	一	三、〇九〇	三、九八七、〇〇一	三、〇九〇、九三六
五三、四四、七五三	五、六七、七五、九三	一	一、〇六、六三六	五三、四四、七五三	一、四七、九三六
三、〇四〇、〇五〇	三、〇九〇、〇五〇	五三、五五〇	一、〇三一、五三八	三、〇四〇、〇五〇	一、〇三一、五三八
三、四八、〇四〇	三、四八、〇四〇	一、六八、一一七	一、四七、九三六	三、四八、〇四〇	一、四七、九三六
一、〇四〇、〇三〇	一、〇四〇、〇三〇	五四四	一、〇三一、五三八	一、〇四〇、〇三〇	一、〇三一、五三八
五六、八四三、三五六	五六、七〇八、四四四	一、六八、一一七	一、四七、九三六	五六、八四三、三五六	一、四七、九三六

内國貿易發着府縣別表（其二）

府縣別	合計 大正十四年 噸數	合計 大正十四年 價額	計 大正十三年 噸數	計 大正十三年 價額
兵庫縣	一、三三、四六八	九、七〇六、一四一	九、四〇〇	七、七四九、六六一
德島縣	二、三一、三三	六、三六、三〇一	一六、四三七	四四、七一〇、九二一
香川縣	一四七、八〇	三七、七四八、六六九	一〇一、七四四	一九、七一八、〇六〇
愛媛縣	一〇九、六六六	六二一、〇八三、六四四	一〇、六六六	四九、一四〇、八三四
知縣	九、九六四	三四、七三〇、〇三一	一四一、九五五	三九、三六、一三七
高岡縣	五二、五四一	一四、一六一、一一〇	一四四、三六六	一、七九六、〇一八
廣島縣	五七、七一九	一五、一五五、三八一	八〇、四八六	一四四、四七九、五〇一
山口縣	一六六、一〇三	一九、〇七九、三四五	五六、一一八	一〇、九七三、四一七
大分縣	四八、四〇五	一五、八〇九、〇四四	三八、七八八	一四、六六一、〇一一
宮崎縣	一六、六六九	三、七一〇、〇三三	三一、四九	六、四四一、一〇六
鹿兒島縣	三、七七、〇三一	一一、八〇七、六六〇	四五、七七、七七七	一〇、七四一、六六一
沖縄縣	二五、一五二	五、九四五、三一一	三一、四六〇	一、九七一、六一三
熊本縣	八、一一〇、八	一、一九〇、〇六五	一四、四五五、四四〇	一一、一一六、九一
長崎縣	五四、六一六	一七、四五五、四一一	六三、四〇一	九、一三九、六一〇
佐賀縣	七、六七三	四四、五一六	一〇、七七七	一、三九九、九九九
福岡縣	六九、六三三	五九、六三一、九四一	一、〇九八、八六四	一三、〇八〇、八八四
島根縣	一三七	三五、〇五六	三五、八一一	三、三一、七四四
取縣	六七	一、三四、三五五	四三五	四四、五六〇
阪府	一、一三四、九六六	三五、八一四、三四七	一、〇九、九六〇	三七、七一、一六一
山重縣	一三四、三〇五	三五、六六一、一一〇	三一一、四三三	三〇、六七一、六一八
知縣	一四四、八三四	九、七四四、〇五六	三四、六六八	九、四〇一、一五九
岡縣	一五、八〇七	八、九七九、〇七五	三八、三四三	三、四三一、〇〇八
川縣	五一	三〇、三五八	一、八八五	九〇、七七、七九
奈良縣	五二、四五八	三七、七四八、三一四	一五八、一七八	一〇、四〇、〇七〇
京都府	三一、三五一	一一、九三七、五二一	一五一、三六六	五〇、四四〇、〇〇五
城縣	—	—	八二一	五四四、五五〇
手縣	一三	一一、九三一	一、一四五	六七四、八〇九
森縣	一三〇	一〇、九一〇	一一、三四七	五四四、八八五
道縣	四四、三五六	九〇、八三一、三五〇	三五、四四四	五七、七五一、三五六
太郎	一一、八七四	二、五〇七、一一五	三六、四一一	一、一四七、三一八
樺太	五六六、三三九	一一三、一一〇、四三一	六四七、五三〇	一一三、九一一、六三七
南洋	六六五	一九四、五〇七	—	—
朝鮮	四五七、一三六	一〇〇、一三四、六三四	一四八、五四〇	一一四、七〇、一三六
合計	五、八七七、六三一	一、三三、九三一、六三六	六、六五、九七六	一、三六、〇三一、一四八

第六章　貨物

十三港に上り噸量順に作表すれば次の如く大阪若松基隆は前年通り首部にあり、本年は一萬噸以上の取引ある港も次第に增加の趨勢にあり、又取引港の六

り。

主要取引港順位表（發着數量一萬噸以上）

港名	數量	價額	主到品	主發品	着	發	港名	數量	價額	主到品	主發品	着	發
大阪	一、一〇〇、三五三	三六二、八七五、七一四	砂糖、木材、綿織物、硝子及同製品	鋼鐵及錬鐵、鐵材、砂糖、棉花、油類			別府	五〇、一〇三	二、四四七、四九三	竹材及籐	硫安、鑛石		
若松	五四〇、八六八	一〇、七〇八、三四八	石炭、コークス	—			尼崎	四八、五五三	三〇、二三九、二六四	セメント、木製品	木材、薪、棉花、苧及麻		
基隆	三八七、〇三〇	八九、七一三、一一九	バナナ、臺灣米、麥粉、樟腦油	鹽魚、外國米、鐵製品、燐寸、肥料			木浦	四四、三八七	九、二七五、四四二	朝鮮米、植物肥料	外國米、小麥粉、燐寸		
岩屋	三三〇、三一〇	二、二五六、一一六	砂利、空箱、木製品	木材			横濱	三五、七〇二、四六三	小麥	棉花、鋼鐵及錬鐵			
高砂	三二、七三〇	四、六三〇、六五三	砂利、土砂	パルプ、木材、瓦斯			群山	四二、四七九	七、七八八、一五七	朝鮮米	外國米、燐寸、人造肥料		
小樽	二七二、五六一	六〇、七二六、〇四一	海產肥料、木材、蔬菜、馬鈴薯	人造肥料、外國米、內國米、燐寸、竹製品			八幡	四〇、五〇四	六、〇五二、七五〇	鋼鐵及錬鐵、レール	—		
德山	一三五、二三八	一四、二一三、五一一	—	鋼鐵及錬鐵			明石	三九、一〇七	三、〇四二、七七七	砂利、瓦、木製品、土管	木材、燐寸軸木		
高雄	一一六、七六三	二九、一一八、五五六	砂糖、臺灣米、芋切干	人造肥料、燐寸、麻製品			戸畑	三七、三七三	五六〇、五五五	石炭	—		
德島	一一一、七三〇	三〇、一六八、三二六	木製品、履物、澤庵、蔬菜、木材	空樽、木材、繭、外國米、清酒			家島	三五、六六四	一、〇四〇、五五〇	石材			
釜山	一〇六、〇四六	二四、六八三、七〇二	朝鮮米、大豆	外國米、陶磁器、靴、小麥、燐寸			鎭南浦	三五、一八〇	七、六三二、九九〇	朝鮮米、大豆、小麥、肥料、飼料	人造肥料、燐寸、石粉、小麥		
仁川	八七、七六一	二一、二七六、二七五	朝鮮米、小麥、大豆、肥料、	外國米、小麥粉、石粉、葉煙草			小松島	三三、四七五	三〇、三三八、六六九	內國米、繭、生絲、蔬菜	茶、木製品		
高知	八五、一七三	三四、〇〇九、八九一	和紙、石灰、木材、蔬菜、生魚介	飼料、豆糟肥料、雜肥料、內國米、パルプ			曾根	三三、五一三	一、八一六、九八〇	煉瓦、空箱、藥製品	—		
函館	七四、八二六	二〇、一四二、八五四	乾鰈、乾鱈、鯨油魚油、昆布、海產肥料	人造肥料、雜肥料、飼料、燐寸			長崎	三三、三二八	六、三二九、〇九六	干魚、石炭	棉花、臺灣米		
和歌山	五四、一九一	一〇、七五〇、七二五	木材、板	豆糟肥料			東京	三一、二五一	二、九三七、五一一	鐵材	砂糖		
門司	五三、八九八	一五、六九七、一三二	セメント、內國米	外國米、煉乳、人造肥料、棉花			洲本	二八、四七三	九、六四五、三六六	牛馬、內國米	燐寸軸木、空箱		
高松	五〇、六九二	一〇、四〇一、六二七	和傘、眞田、小麥	豆糟肥料、雜肥料、砂糖、燐寸軸木			網干	二四、八五九	一、六四五、五三八	醬油	燐寸軸木、空樽、鹽、木材		
清津	五〇、四四四	二、四六六、六七八	大豆、鯨油魚油、木材、豆糟肥料	外國米、小麥粉			那覇	二三、七〇二	五、八八八、二五六	牛、蔬菜	大豆、外國米		
							堺	二三、二六一	一四、七六一、一七一	鐵製品	肥料、棉花		
							木場	二三、七二七	四、五一四、五五四	木製品、空箱	燐寸軸木		
							鹿兒島	二二、五〇八	八、五七六、〇九九	麻製品、內國米、外國米、蔬菜	鐵製品、植物肥料		
							飾磨	二一、九四五	三、〇三九、三四〇	コークス	燐寸軸木、木材、空樽		
							新濱	二一、六九二	一、二五八、一三六	鹽	—		
							尾道	二一、五〇三	四、九四〇、七四五	空樽、木製品	肥料		

坂出	二〇、〇六五	六、八四七、七〇九	瀝製品	飼料、小麦、豆糟肥料
丸亀	一九、六八八	二、〇八七、一二三	藁製品、内國米	飼料、豆糟肥料
釧路	一七、八一九	三、五二七、一八二	木材、製紙原料	木材
室蘭	一七、六三八	一、六六九、七一七	木材	—
小野田	一六、六一八	六六四、七二〇	セメント	—
安平	一六、四二三	三、三四六、七三三	罐詰食料	藁製品、燐寸、鹽魚
勝浦	一五、九八〇	三、八五四、九七一	木材、干魚	内國米、外國米
高濱	一五、六〇一	一〇、〇九九、七九一	干魚、生果、綿織物	棉花
撫養	一四、九二三	二、四二九、〇五七	雜穀、澤庵	鹽、空樽、硫安、豆糟肥料
的形	一四、三四四	三、二六六、五八六	木製品、空箱	—
名古屋	一四、二九一	八、七五五、一三五	陶磁器	棉花、砂糖、木材、鐵材
廣島	一四、二二六	三、三三四、六〇六	石材、土砂	鐵製品、燐寸軸木、木材、木製品
中島	一四、一六七	八〇三、五〇五	木材	—
兼二浦	一四、一一七	一、三六一、一七七	銑鐵、鐵材	飼料、豆糟肥料
福良	一三、九二一	二、四六四、八六三	飼料、麥類	外國米、植物肥料
大分	一三、七九八	六、九八二、一八七	竹材及籐	外國米
馬山	一三、五七五	二、八二七、七五五	朝鮮米	—
崎戸	一三、五六六	二〇三、四九〇	石炭	鐵製品、木製品
博多	一三、二九三	三、九五一、九八七	樟腦	小麥粉
元山	一三、一二八	三、五六九、八〇七	大豆、朝鮮米	豆糟肥料、外國米
宇和島	一三、〇〇九	一三、七一七、〇二八	牛、綿織物、生絲、生魚介、干魚	外國米
今治	一一、五〇九	五、六三二、八四一	綿織物	棉花
川ノ石	一〇、九六八	一〇、一九、一三〇	綿織物	—

第四款　沿岸貿易

本港内國貿易中對朝鮮貿易を除ける分を便宜上假に沿岸貿易と稱し、品種別によりて大正十三、十四兩年の比較を表示すれば次の如し。

大正十三年
大正十四年　沿岸貿易發着貨物品種別表（朝鮮貿易を除く）

品種		到着 大正十四年 噸數	到着 大正十四年 價額	到着 大正十三年 噸數	到着 大正十三年 價額	發送 大正十四年 噸數	發送 大正十四年 價額	發送 大正十三年 噸數	發送 大正十三年 價額
動植物	動物植物小計	五、二八一噸	一、三二〇、五一五円	八、六一七噸	一、八三五、二九五円	七九二噸	二二七、四七五円	二、一九二噸	二八一、二一〇円
		五、二八一	一、三二〇、五一五	八、六一七	一、八三五、二九五	七九二	二二七、四七五	二、一九二	二八一、二一〇
穀類及豆類	内國米	一三、〇〇三	三、〇四二、七〇三	二四、八九七	五、六六六、七二二	二七、一七五	六、三五八、九五〇	二五、六八七	五、八〇五、二六二
	朝鮮米	二三	四、七九六	二四	二四、五一〇	三、五〇八	七六四、七四四	五、八七二	一、二六二、四八〇
	臺灣米	二一〇、〇七六	一九、七〇三、六〇四	一二四、六九六	一九、〇三九、五三六	一一、〇一九	一、九七二、四〇一	二二、〇九三	二、〇四〇、六三八
	外國米	七、五四六	一、六二二、〇八四	一、六二四	二四三、六〇〇	八五、三八〇	一三、一四八、五二〇	八二、三三七	二二、五〇、五五〇
	麥類	二一、一六九	一、三六六、三二八	一〇、一五七	一、一三六、九二二	二、九五九	三四八、七二二	二二、〇七五	一、三六六、九六四
	豆類	一四、八六四	二、八六六、〇六八	二一、五九六	三、八七一、一八〇	一五、一四五	四、四四六、一二五	五四、一四五	一〇、二四、一三三
種子	雜穀	一、〇五〇	八八、九五八	三五〇	三四、八八五	一、三四〇	九五、一一二		
	種子小計	五、七八二	一、一四四、五七三	八七九	一八五、五一四	七、四五六	一、六四三、六四〇	一、二八四	一、三三六
		一六三、五二二	二九、三二九、〇一二	一七四、三二三	三〇、一六二、八六九	一六三、八八二	二八、七七八、三三九	二〇五、〇二九	三五、三七九、八四七

料塗及料染	品	藥	鰹及脂油	品同類骨皮毛製及角毛	類草煙	
小其ノ他染塗料	小其ノ他藥	樟腦 硫酸アンモニヤ 曹達	小鰹其ノ他及鰹ノ性植物油	小同皮革毛骨角製品及革	小煙草製造煙草	小計
一、四四四、五七五	四五五、六四八、一九九	八、一六六	四七、〇三七、九七〇	三、一八九、四六六	四、〇七七	四八五、九九五
一、九四四、三六〇	三五、六四四、九一〇	一四、〇六〇、一〇〇	一、一三六、九七九	三五、〇四四、八六八	一、一三六	一〇、四五五、一九九
三、五六〇、八六〇	三、六六、一四一、一一一	六、〇四四、一一一	一、一四一、一一一	一、〇四四、一一一	四、一一八	九五、〇四四、一一一
三、〇四七、一四七	四、〇四四、一一一	一、〇四四、一一一	一、一四一、一一一	一、〇四四、一一一	四、一一八	九五、〇四四、一一一
一

品目	製造高
石材及同製品	七、五四六、四四九
土砂	八、三五七、四六六
其他ノ鑛物	二、四三一、五九六
石灰	六、〇〇一、四三〇
石膏	一、四一〇、〇一一
石綿	八、〇〇〇、〇〇〇
石墨	一、四一一、〇〇〇
其他ノ鑛物	一、四一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

品目	製造高
小計	三、〇四六、〇四一、一九九
陶器及磁器	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
硝子製品	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇

品目	製造高
小計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇
鋼鐵	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
其他ノ金屬製品	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇

品目	製造高
小計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇
石材及同製品	七、五四六、四四九
砂鑛	八、三五七、四六六
其他ノ鑛物	二、四三一、五九六
硝子	六、〇〇一、四三〇
灰	一、四一〇、〇一一
卜膏	八、〇〇〇、〇〇〇
其他ノ鑛物	一、四一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

品目	製造高
小計	三、〇四六、〇四一、一九九
綿糸	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
綿布	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
絹糸	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
絹織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
毛織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
其他ノ織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

品目	製造高
小計	三、〇四六、〇四一、一九九
綿花	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
綿糸	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
綿布	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
絹糸	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
絹織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
毛織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
其他ノ織物	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

品目	製造高
小計	三、〇四六、〇四一、一九九
衣類附帽子及同附屬品	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
靴	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇

品目	製造高
小計	二、〇二二、〇二二、〇〇〇
製紙原料	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
洋紙	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
和紙	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
雑印刷紙	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
其他雑製品	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

品目	製造高
小計	三、〇四六、〇四一、一九九
自轉車	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
動力機	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
車輛部分	一、〇一一、〇一一、〇〇〇
計	三、〇四六、〇四一、一九九

| 品 | | |

貳千九百八拾壹噸、貳千五百貳拾參萬七千八百拾八圓之れにつぎ、土砂砂利・木製品・砂糖・蔬菜・綿絲・綿織物等增加す。而して減少せるものゝ中、最も多きは石炭の參拾六萬千九百七拾八噸、七百參拾八萬壹千壹百貳拾六圓にして、木材の拾五萬五千四百貳拾九噸、貳百參拾七萬七千五百五拾壹圓第二位にあり、其他乾物・果實・鐵材・燃料・和洋酒・石灰・內國米等なりとす。

十四年中發送貨物は百八拾五萬貳千六百六拾四噸、其の價額五億九千貳百八拾六萬九千參百拾八圓にして、前年より四拾壹萬七千八百七拾噸、壹億七千參百參拾八萬貳千五百六圓の減少を示す。前年より增加せるは類別に於て、皮毛骨角及同製品・油脂及蠟・藥品・礦石・金屬材及同製品にして、其の他は減少せり、更に品種別に見るときは、礦石の參萬九千四百九拾九噸、九拾壹萬六千貳百參拾九圓、土砂の貳萬八千參百拾八噸、五萬六千六百參拾六圓、硫安貳萬六千七百參拾四噸、四百八拾萬五千五百拾貳圓を始めとし、鐵材・眞田・藁製品・蘭製品・綿等は增加し、木材の八萬九千貳百四拾壹噸、七百貳萬壹千圓、豆粕肥料の四萬九千九拾噸、參百貳拾萬參千八拾九圓、車輛及同部分品・木製品・洋紙・セメント・石粉・銅材等は減少せる主要品なり。

十四年は財界緊縮方針の下に貿易狀勢も相當に萎縮し、以上の如く前年より減少したりと雖も、前年度に於ては關東大震災の影響與つて好轉の一部理由ともなりしことを考へざるべからず。然れども大正元年以來の數字に於ては大正八年及び十三年につぐ噸量價額を示したり。

第三節　朝鮮貿易

朝鮮貿易は大正九年八月內鮮間の關稅撤廢と共に全く自由となり、從つて其の關係港灣の如きも殆んど朝鮮全沿岸に及ぶに至り、集散貨物も亦愈其の複雜を加へ、內鮮間の貿易狀勢は一般に年々進步發展の有樣を示せり。而して其の貿易品の種類より之を見る時は、朝鮮內地に於ける產業の啓發に依り、大いに其貿易の發達を期待し得べきものあるが如し。即ち移出品中の大宗は米にして、其他豆類・海產物・漁油・海產肥料等の原始產物若くは原料用產物のみなるも、尙陶磁器・蠶絲・麻織物・皮角製品等の特產品又は有望なる資源尠からざるを以て、其の產業の指導開發宜しきを得んには、貿易の發展決して豫想に難からざるべし。

元來朝鮮は韓國王朝時代の餘弊を受けて、文化進運の度低く國民の向上發展的努力缺乏せるに依り、內鮮民協力の下に盛に海運の奬勵、產業の開發を圖り、以て朝鮮をして吾製品の大消化地たると共に、生產工業地たらしむべきなり。

本年當港に於ける朝鮮貿易は、移出拾九萬貳千參百六拾六噸、價額四千參百九拾七萬參千九百拾壹圓、移入貳拾六萬四千七百七拾噸、價格五千六百貳拾七萬千七百六拾參圓にして、之を前年に比較すれば、

種別		噸量 大正十四年	噸量 大正十三年	價額 大正十四年	價額 大正十三年
移出		一九二、三六六噸	二一八、四四〇噸	四三、九七三、九一一円	六八、〇三二、三〇七円
移入		二六四、七七〇	二六七、一〇〇	五六、二七一、七六三	五六、七三七、九二二
合計		四五七、一三六	四八五、五四〇	一〇〇、二四五、六七四	一二四、七七〇、二二九

となり總噸數に於て貳萬八千四百四噸、總價額に於て貳千四百五拾貳萬四千五百五拾五圓を減せり。是れ大正十三年は彼の關東震災の影響に依る特別の理由に基因したる膨脹と見るべく、試に大正十二年と比較する時は、出入共に約百萬圓の增加にして平年に比し優に發展の跡を示せるが如し。

今朝鮮を南北兩地方に分ち其港別より彼我交易の狀況を見るに、釜山より新義州に至る西沿岸諸港所謂南鮮地方との貿易額は、移出拾五萬六千八百參拾壹噸、參千七百參萬七千貳百九拾貳圓、移入貳拾萬四千參百五拾六噸、四千百六拾六萬八千參百七拾參圓にして、朝鮮貿易の大部分を占有す。北鮮地方への貿易額は移出參萬五千五百參拾五噸、六百九拾參萬六千六百拾九圓、移入六萬四百拾四噸、千四百六拾萬參千參百九拾圓にして、逐年增加の趨勢に在るも未だ寂寥の境にあるを免がれず。即ち彼此貿易額の割合は、噸量價額共に南鮮は北鮮の約四倍に當れり。如斯南北兩鮮間に著大の間隔あるは人口の粗密產業發展の遲速交通の便否、港灣の良否等諸種の點に於て蓋し當然の勢なるべし。左に港別に依る貿易計數を示し、以て本港との出入貿易狀況を窺はんとす。

港名		移入（到著） 噸量	移入（到著） 價額	移出（發送） 噸量	移出（發送） 價額	合計 噸量	合計 價額
南	釜山	六〇、八三〇噸	一三、五八八、三八五円	四五、二二六噸	二一、〇九五、三〇六円	一〇六、〇四六噸	二四、六八三、六九一円
	馬山	九、三六四	二、一〇六、四〇九	四、二一一	七二一、三四六	一三、五七五	二、八二七、七五五
	濟洲島諸港	—	—	三三三	二五、七四二	三三三	二五、七四二
	船津	七五	一六、三五〇	—	—	七五	一六、三五〇
	麗水	三	一、六七八	五	九〇〇	八	二、五七八
	浦	二七、二二四	六、一二五、八六三	一七、二六三	三、一〇九、五七九	四四、三八七	九、二七五、四四二

| | | |

然れども清津港の如きは北滿間島地方の門港として大いに前途ある港たるべく、元山亦其奥地の發展に依りては有望なる地位に在りて、南鮮の釜山・仁川等と共に朝鮮有數の貿易港なるべし。

次に本港對諸港間の取引關係を見るに、本港は外國貿易に於て入超港たるのみならず、朝鮮貿易に於ても、昨年内地關税免除の影響に依る一時的現象として の出超を見たる外、例年移入超過を來し、本年亦約壹千貳百萬圓の入超となり居れり。是れ移入品に在りては、米・豆類のみにて已に移出品の約八割に相當し、其他多量の原產品が移入せられ殊に本年は毛織物の如き、昨年約貳百萬圓の出超と相反し、約百萬圓の入超となり居るのみならず、移出品に於て護謨靴・機械類等の非常なる激減を爲し居るに因るべし。而して朝鮮に於ける移出港としては南鮮の馬山・木浦・群山・北鮮の清津・城津・雄基等を數ふべく、釜山・元山は入出相半ばし、仁川は常に朝鮮の主なる移入港たり。更らに種類別に依りて、增減の主なるものを擧ぐれば、移出に於て增加せるものは、絲縷繩索及同材料・肥料飼料・穀物及種子・煙草・礦物及同製品・木竹材及同製品・動植物等の順次にして、減少せるものは機械類・藥品・金屬製品・衣類及附屬品・布帛及同製品・飲食物・油脂及蠟・皮毛骨角及同製品・紙類・染塗料等なりとす。又移入に於て增加せるものは、油脂及蠟・布帛及同製品・金屬製品・皮毛骨角及同製品・肥料飼料・陶磁器及硝子類・煙草・機械類等の順序にして、其の減少せるものは、絲縷繩索及同材料・飲食物・穀物及種子・染塗料・木竹材及同製品等となす。其の之等品種別に就き港別に依る交易狀況を窺ふに、釜山・仁川は共に各種の品種を出入する外、釜山に於ては入出共に穀物及種子か其全貿易額の大半を占め、仁川に於ては穀物・布帛・飲食物・藥品等は其の主なる貿易品となり居り、馬山・木浦・群山・清津・元山は、何れも專ら穀物類の移出入港たり。要之釜山・馬山・木浦・群山・仁川等は主なる鮮米積出地にして、同時に又外米の移入港たり。清津・元山は豆類の積出地にして、之亦外米の移入港たり。其他鎭南浦が各品種の出入に於て相當有力なる地位に在る外、清津より漁油・兼二浦より銑鐵の積出等は特筆に値するものなり。尙特に注意すべきは毛織物にして、中繼に依り清津より約貳百八拾萬圓の移入あるに拘らず、一方仁川へは約百六拾萬圓の移出となり居るは蓋し露國製品が清津を中繼港として移入せらるゝ一方、他の外國製品が當港を中繼港として仁川へ移出せらるゝに依るものゝ如し。最後に朝鮮全體に於ける港別貿易額の順位を序列すれば、釜山・仁川・清津・木浦・群山・鎭

南浦・元山・馬山・鎮仁・浦雄・基城・津の順にして、種類別貿易額の順位を示せば穀物及種子を第一位とし、飲食物・布帛及同製品・金屬及同製品・油脂及蠟・絲繩索及同・材料・雜品・車輛・機械類・藥品・肥飼料・衣類及附屬品・皮毛骨角及同製品・陶磁器及硝子類・染塗料・木竹材及同製品・煙草・礦物及同製品・紙類及同製品・動植物の順序なり。今前年との品種別對照を示せば左の如し。

大大正十四三年　朝鮮貿易品種別表

品種		移入（到着） 大正十四年	移入（到着） 大正十四年	移入（到着） 大正十三年	移入（到着） 大正十三年	移出（發送） 大正十四年	移出（發送） 大正十四年	移出（發送） 大正十三年	移出（發送） 大正十三年
動植物	動物	七噸	一、三五六円	七噸	二、七一〇円	二六七噸	四、三一〇円	四三噸	六、一五六円
子種及穀物	穀類	二四	五、六六六	一四	三、一六四	九三	三〇、〇一一	四一一	九、一一一
	米	三一、六四二	六、七〇四、九三二	一四、〇五六	四、五七五、三五	四	八七一	—	—
	米粉	八三	一四、八七	—	—	一、一九四	三三、七六六	一、五一〇	二五、三一〇
	豆類	一、〇五六	一五、九五四	九六	一五、二〇〇	四九、八六六	七、六五、九八四	四、八二一	六、四二、六五〇
	蔴類	五、〇三五	六四、二一〇四	三、八四〇	四三、七六〇	一、一一三	一五、八三一	六、九九	六六、八一四
	其他ノ穀物及種子	三一、六二九	四、八三、四五二	六、六七、一三七	一〇、六六、一三九	二五〇	四八、一五四	一、九六	四〇、四六六
粉	小麥粉	二、二四六	三六、五九	一、四六六	三三、五三二	一〇九	一八、九三二	九五	二一、〇四四
		一	一	一	一	一四、五三三	三〇、九八〇	一六、二五五	二、六六、三五五
飲食物	牛肉罐詰	九三	三一、四〇〇	六〇	二、九八、九〇一	四九、二〇〇	四、八一、七八一	一、一三六	一五、一、六一四
	其他食品	三一、三〇二	三一、三〇二	一五一	七〇、六九八	六三、一五五	一五、一七八一	六五	一五、一六六
	蔬菜	一、九三一	三五、一五九	一六	二、九三八	一、〇一一	三五、一五一	一、一六六	三五、一六〇
	果實	四三	五六、三五三	一一〇	九、九六〇	四九八	四七、四一四	四五〇	五六、五三〇
	味噌、醬油、酢類	一	一二、七	一四四	二、六三〇	三一一	三八、一二五	一、五三三	一四三、一四四
	和洋酒類	—	—	五〇	一五、九八〇	三、一五八	八一三、一〇三	三、四六〇	一、〇五六、九〇八
	清涼飲料	—	—	四五六	四五、四〇八	三、一一〇八	七一七、〇五四	三、三三〇	五六、一一七
	砂糖	二五	八五〇	九	一、五五五	一、三〇七	三三一、一九〇	一、六八四	四六、九〇〇
	糖蜜類	一	七三〇	五二	一八、一八〇	三、五六八	七〇四、一四一	三、三三一	八五一、九六〇
	牛乳	一	一	—	—	三六〇	一五六、六八〇	六五九	四六、九五〇
	其他食料品	四三	三一、四〇〇	六〇	一五、九〇一	一一五	四六、九〇〇	一六六	一六、〇〇〇
	酒類	一	一一、七	一四四	二、六三〇	一四八	一、一一六	一、一一六	一五、一、八一一
	醬油	—	—	五〇	一五、九八〇	八一三、一〇三	三、四六〇	三、三三〇	一、〇五六、九〇八
	鹽	—	—	四五六	四五、四〇八	三、一一〇八	七一七、〇五四	三、三三〇	五六、一一七
	海藻類	一、四五五	一、一二、六六八	五八	四六、一四〇	一五〇	五六、五九五	三一一	五五、一六〇
煙草	葉煙草、製造煙草	一、九七一	三五一、五九	一六	一、九一八	三、一一一	六〇七、八九五	一、〇一一	一、七一〇、〇一〇
同製品及骨角皮毛	獸骨、同皮毛製品	一、四五五	一、一二、六七八	五八	四六、一四〇	一五〇	一五、五九五	三一一	五五、一六〇

品目	輸出	輸入	輸移出	輸移入	輸出	輸入	輸移出	輸移入
合計	三六四、三四〇	三六、二三四、六三〇	三三、一〇〇	四六、四四六、九二一	一、三六一、一三〇	三、八一四、六三〇	三六、四九二	三六、三三一、六三〇
雜品								
共他ノ雜品	一、三五五	九、九八七、一〇〇	三、一〇〇	四、三三六、一〇〇	一、六六八	三四、三三六、三〇〇	四、三六〇	九、八一三、九三〇
ゴム及同製品	五四〇	七、三八、〇〇〇	九、一	一〇、六六〇	九四〇	一、〇九九、三〇〇	一、三三五	七、六六〇、三〇〇
石鹸	七	三、六五〇	一	五〇	八七	四、七八〇	一六一	八、四五〇
化粧品	一	一	一	一	一九	九、三〇〇	八六六	四三、〇〇〇
藥品	一七〇	七、六三〇	一	一	三三一	一四、九四〇	一、四三四	六六、三四〇
齒刷製品	五六	一一、一〇〇	一	一	六九	一三、八〇〇	六一	一一、三〇〇
燐寸	一	一	一	一	一三、三六六	九、七四〇、〇〇〇	一一〇、八九一	九、三一、九三一
農具	一	一	一〇	一、一〇〇	三六八	三、三八〇	三〇八	六六、九八〇
其他ノ雜品	一、三六六	三三、三三九、九四〇	一三、三六六	四、七一、三六〇	三、三三七	六六、八四八、〇	一、三三六	三三、三三、九四〇
其他ノ金屬製品	一〇九	一六、三三、三〇〇	四四九	三六、九一〇、〇〇	八〇	一一、三九、三〇〇	四、七八	四、八一三、九〇〇
釘類								
其他ノ鐵管、鐵線レール	一	九、九八、一〇〇	一〇六	四、一四四	一、六六八	三四、九三〇	四、三九〇	九、八一三、九三〇
同陶磁器製品及ノ瓦、煉瓦、板硝子	八、四七七	一、三七一、三六〇	一、一八七	三四四、〇六〇	三六〇	六三、七六八	三六八	四九、九九六
硝子同製品	七九八	一一一、九六〇	三四六	三六、一〇〇	一三〇	一八、〇八〇	一三七	八〇、〇七〇
機械時計車輛類								
其他ノ機械類	三一	一八、六〇〇	七〇	一九、三〇〇	一、一六六	一、〇七三、〇〇〇	七、一三六	七、八九九、一〇〇
自動車、自轉車、時計、度量衡類	四一一	四九、一一〇〇	一一一	一一、三三、一〇〇	一一、一一一	一一、三三三、一〇〇	七、九四九	九、三六、八〇〇
肥料飼料								
人造粕、各種肥料、海産物	一三、一一一	一一、〇〇四、七三	一一、七八五	一、五八八、六〇〇	一七、七三一	一、九八九、〇一一七	九、一一〇	一、〇九九、三一一
同木竹製品及木材、竹材等、薪、炭	七、七九一	四九八、五九九	四、一六八	五七、三三、三一一	三、三三七	四九、三六、六四一	一、三六六	一一〇、一一三六
雜貨								
農具	一	一	一〇	一、一〇〇	三五八	三、三八〇	三〇八	六六、九六〇
燐寸	一	一	一	一	一三、三六六	九、七三、六〇〇	一一〇、八九一	九、三一、九三一
齒刷製品	五六	一一、一〇〇	一	一	九九	一三、八〇〇	八一	一一、三〇〇
藥品製品	一七〇	七、六三〇	一	一	三三一	一四、九四〇	一、四三四	六六、三四〇
化粧品	一	一	一	一	一九	九、三〇〇	八六六	四三、〇〇〇
石鹸	七	三、六五〇	一	五〇	八七	四、七八〇	一六一	八、四五〇
ゴム及同製品	五四〇	七、三八、〇〇〇	九、一	一〇、六六〇	九四〇	一、〇九九、三〇〇	一、三三五	七、六六〇、三〇〇
其他ノ雜品	一、三六六	三三、三三九、九四〇	一三、三六六	四、七一、三六〇	三、三三七	六六、八四八、〇	一、三三六	三三、三三、九四〇
合計	三六四、七三〇	三六、二三一、七六〇	三三、七一〇	四六、四四六、九二一	一九、一三六、三六六	四三、九七一、九一一	三一八、四四〇	三六、〇三一、三三〇

大正十年以降累年の內地對朝鮮貿易と、本港對朝鮮貿易との比較關係を見るに其比率は次の如し。

年次	內地對朝鮮貿易 移出	內地對朝鮮貿易 移入	本港對朝鮮貿易 移出	本港對朝鮮貿易 移入	割合 移出	割合 移入
大正十年	一五六、四八二、五七三円	一九七、五九二、六四六円	二一、二五六、五五三円	一七、四四九、二九〇円	〇・一四	〇・一〇
大正十一年	一六〇、二四七、〇三六	一九七、九一四、七六二	一四、八四五、九三二	二三、七九五、二三九	〇・〇九	〇・一三
大正十二年	一六七、四五二、三五〇	二四一、二五二、四二七	三五、五四八、六九九	四五、三六三、五八四	〇・二一	〇・一九
大正十三年	三〇六、六六〇、〇〇〇	二一一、八一〇、〇〇〇	六八、〇三一、三〇七	五六、七二七、九二三	〇・二二	〇・二七
大正十四年	三一七、二八八、七一六	二三四、六二三、六〇三	四三、九七三、九一二	五六、二七一、七六三	〇・一四	〇・二四

全國に對する割合は前表に示す如くにして其價額比率共に遞增の趨勢に在りと云ふを得べきも、只本年が昨年に比し移出に於て著しき衰退を示せるは種々の事由ありとするも、主として關東震災の影響と見るべき乎。

第七章　倉庫

第一節　倉庫の概況

本市內に於ける貨物を藏置すべき倉庫は其數鮮明ならざるを以て、茲に精叙遺漏なきを期するは頗る困難なるにより、主要なる倉庫業者の經營する倉庫を掲示するに止めんとす。大正十四年末調査に據る主要倉庫は三菱を始めとし東神・森本・兵庫・川西・住友等の所謂六大倉庫にして、其の內東神・住友・三菱・川西の各倉庫會社は稅關構內に新倉庫を建築中なりしが、三菱倉庫及川西倉庫は此の程完成せり。即ち三菱倉庫は昨年三月起工し最近完成したるものは第一期工事にして、稅關第二突堤の後方三千三百餘坪內に建築計畫されたるものゝ過半に屬して、此の用地千二百坪の鐵筋コンクリート五階建の大倉庫にして、此の延坪數四千六百四十五坪なり。又川西倉庫は昨年以來の工事竣工し七月より營業に着手せり。此の面積千五百十四坪、總延坪數五千二百六十九坪にして、鐵筋コンクリート五階建耐火、耐震建築法による構造なりとす。

前記各倉庫の收容力は三十萬噸乃至それ以上にて、住友東神の二倉庫竣工の

曉は、東洋屈指の大貿易港として巨船の出入頻繁なる神戸港頭に堂々たる之等の四大倉庫の竝立するは港灣設備上の一大偉觀なるべし。此の六大倉庫の總建坪數及總延坪數を見るに、大正十四年末現在に於ては建坪九萬壹千拾四坪、此の延坪十二萬五千八百二坪なり。前記大倉庫建設されたるにも拘らず前年より建坪三百三十四坪、延坪一萬九千五百八十坪の減少を來せしは、川西倉庫の七棟竝に三菱・森本等の三棟合計十棟を減せしによる。

以下普通倉庫・保稅倉庫・假置場・上屋の種別に依り記せんとす。

第二節　普通倉庫及出入貨物

當市内に於ける主要倉庫業者の經營する所謂六大普通倉庫の大正十四年末日現在の總坪數は四萬七千六百五十七坪にして、之を前年に對比せば七千百九十六坪を減少せり。今前記營業者名及び所屬坪數を示せば次表の如し。

營業者名	所在地	大正十三年末建坪數	大正十四年末建坪數	(十)增減(一)
三菱倉庫株式會社神戸支店	市内東川崎町一丁目	一六、七九二坪	一四、三八六坪	(一)二、四〇六坪
東神倉庫株式會社神戸支店	市内濱邊通八丁目	一六、八〇八	一七、四三九	(十)六三二
森本倉庫株式會社	市内濱邊通一、二、三丁目	六、八八一	七、五六六	(十)六七五
兵庫倉庫株式會社	市内宮内町、小川通二丁目	二、八九三	二、八九〇	(一)三
川西倉庫株式會社	市内東尻池町大竹濱、寺山	八、二七五	二、四〇八	(一)五、八六七
住友倉庫株式會社神戸支店	市内東出町二丁目濱岸通五丁目	三、一〇四	二、九七八	(一)二六
計		五四、八五三	四七、六五七	(一)七、一九六

前記六大倉庫へ入出庫せし貨物の價格は、大正十四年に於て、入庫總額五億八千百拾六萬九千餘圓、出庫總額五億六千九百八拾參萬壹千餘圓にして、前年よりの繰越高九千參百貳拾貳萬八千餘圓なるに依り、本年末現在高は壹億四百五拾六萬六千餘圓とす。之を前年に比較するに、入庫價額に於て千八百貳拾四萬參千餘圓、出庫價額に於て參千八百七拾七萬餘圓を減少せり。前年との比較を示せば左の如し。

年次	繰越高	入庫高	計	出庫高	年末現在高
大正十三年	一〇二、四二六千円	五九九、四一二千円	七〇一、八三八千円	六〇八、六一〇千円	九三、二二八千円
大正十四年	九三、二二八	五八一、一六九	六七四、三九七	五六九、八三一	一〇四、五六六
(十)增(一)減	(一)九、一九八	(一)一八、二四三	(一)二七、四四一	(一)三八、七七九	(十)一一、三三八

次に大正元年以降隔年の入出庫額を示せば次表の如し。

年次	入庫	出庫	年末現在高
大正元年	一三〇、五七九千円	一二三、四三一千円	二〇、四七七千円
同三年	一二八、三二三	一三五、一四一	二九、〇四〇
同五年	四六四、三四四	二三〇、一一三	七五、八三〇
同七年	六八三、〇九七	六六二、二四二	一三八、一七一
同九年	七〇六、三二八	六四九、七七六	一九九、七六九
同十一年	三三九、七七六	三六七、三六八	七六、五四二
同十三年	五九九、四一二	六〇八、六一〇	九三、二二八
同十四年	五八一、一六九	五六九、八三一	一〇四、五六六

終りに三菱倉庫會社調「全國倉庫貨物現在表」及日本倉庫聯合會調「全國主要倉庫累年保管殘高調」に係る月別に依る全國倉庫貨物現在高を左に表示し參考に資せんとす。

年次／月別	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
一月	七七九、三六二、一四九円	五六一、七二九、四〇六円	三八八、七二一、五五六円	四六二、七〇七、八四四円	五一七、二九一、七〇六円
二月	七一三、七八三、四三七	五六二、八三五、八八三	三九四、一五四、七四六	五〇三、二四六、二九六	五三八、一四〇、五〇六
三月	六三九、一五一、三四四	五七六、九四一、九四三	四一八、九七三、九五七	五五一、九八九、四一一	六二三、五九九、一五九
四月	五九三、七五三、四九一	五九七、二〇七、四三三	四四六、五七九、一四七	五五五、二九四、一三八	六二八、四〇七、二六二
五月	五五一、八二一、一五七	五九一、九二八、五三一	四七七、九七〇、八三	五五二、六六二、一八一	六三〇、七七九、五〇五
六月	五四五、四七一、〇〇六	五五六、八三〇、〇七八	五〇六、〇五一、八四八	五五六、八〇五、八三四〇	六〇四、五九八、八六四
七月	五二九、七四七、七一三	五三九、五九四、二五七	五〇六、四六七、六八一	五五九、五九四、一二七	五六〇、九八〇、九一九
八月	五三八、一八三、二二三	五三〇、七二一、三六一	五〇二、〇五八、五一八	五三七、〇三八、九八三	五九四、一三一、一三三
九月	五三一、〇三四、六九六	五〇九、三三九、〇六九	三八八、八七八、一七二	五〇六、一七八、二六八	五六〇、九七四、四九九
十月	五二七、〇四九、四一四	四六七、一二五、三九九	四〇四、〇六二、二七八	四八八、三一一、二二九	五三二、二六〇、九一
十一月	五二七、七九二、二四六	四二二、四五二、八八一	四〇一、四五〇、二〇七	四五二、九六〇、一二八	五一一、四四七、五九二
十二月	五五〇、七五五、〇二九	四四〇、六九三、六八七	四三八、四七一、三七四	五〇〇、五一四、一二九一	五〇七、〇六九、九四八
計	七、〇一五、九一五、九〇四	六、三一八、三六九、九二七	五、二八四、八三八、八九五	六、二二三、三八六、一三〇	六、八三八、六六二、〇九四
平均	五八四、六五九、六五九	五二六、五三〇、八二七	四四〇、四〇三、二四一	五一七、七八二、一七八	五六九、八八八、五〇七

第三節　保稅倉庫及出入貨物

大正十四年中の市内竝に附近所在の官私設保稅倉庫は同年十二月末日に於て、十四箇所、此總坪數一萬二千七百四十五坪にして、內官設に係るもの一箇所三十六坪、私設に屬するもの十三箇所此總坪數一萬二千七百九坪なり。之を前年に對比するに、ヘルムブラザース・リミテッドの私設一箇所を增加せしも、坪數に於ては五百二十三坪を減少せり。細別すれば左の如し。

名稱	所在地	十三年末坪數	十四年末坪數	(十)增(一)減

官設		昨	今	昨	今	昨	今
ヴアキユームオイルコンパニー	神戸税關第二波止場構内	三六	三六	—	—	—	—
森本倉庫株式會社	市内南本町一丁目	一五一	一五一				
ニツケルエンドライオンス商會	市内磯上通一、二、三丁目濱邊通二丁目	三、〇五七	二、一四八	(一)	九〇九		
東神倉庫株式會社神戸支店	市内八幡通二丁目	六〇	三〇〇	(十)	一四〇		
日本郵船株式會社神戸支店	市内濱邊通八丁目加納町六丁目東出町一丁目	二、三八三	二、三三六	(一)	一五六		
住友倉庫株式會社神戸支店	市内海岸通一丁目	一四〇	一四〇		—		
三菱倉庫株式會社神戸支店	市内東出町二丁目、前町伊藤町海岸通五丁目	八九八	一、二六八	(十)	三〇〇		
川西倉庫株式會社	市内濱邊通八丁目東川崎町一丁目	三、五四一	二、七八	(一)	八三三		
臺灣製糖株式會社神戸支店	市内東尻池大竹濱	二五〇	五六七	(十)	三一七		
紐育スタンダード石油株式會社	市内東尻池町六丁目	一六〇	一六〇		—		
株式會社川崎造船所	兵庫縣武庫郡魚崎町横屋	二、一〇二	二、六四七	(十)	四四四		
明治製糖株式會社神戸支店	市内脇濱三丁目	三三三	三三三		—		
△ヘルムブラザースリミテツト	市内東尻池町六丁目	六七	六七		—		
計	市内加納町六丁目	—	一〇四	(十)	一〇四		
		二三、二六八	二三、七四五	(一)	五三三		

本年中官私設保税倉庫に入出庫せし貨物は、入庫に於て總額參千五百拾四萬五千餘圓、此噸數七萬九千二百五十五噸にして、出庫貨物は總額參千六百八拾五萬五千餘圓、八萬七千五百五噸なり。而して本年入庫總額を當港輸入總額拾貳億貳千四拾萬四千四圓に對比するに三分弱の割合を占む。

尙又入出庫貨物を品種別に依り見れば、毛織物の入庫價額六百四拾七萬七千餘圓、出庫價額五百七拾參萬七千餘圓を第一とし、機械類の入庫價額四百七拾貳萬四千餘圓、出庫價額五百拾貳萬壹千餘圓並に石油の入庫價額貳百貳拾貳萬五千餘圓、出庫價額貳百七拾萬壹千餘圓等之に次ぐ。之を昨年に比較すれば次表の如し。

品名＼區別	入庫 大正十三年	入庫 大正十四年	入庫 (十)増減(一)	出庫 大正十三年	出庫 大正十四年	出庫 (十)増減(一)	年末現在高 大正十三年	年末現在高 大正十四年	年末現在高 (十)増減(一)
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
米	一、五〇八	七一四	(一)七九四	一、六二八	一、三五七	(一)二七一	七三三	八九	(一)六四四
豆類	一四七	四二三	(十)二七六	一八二	四二三	(十)二四〇	六	一八	(十)一二
穀物及種子	一七四	一、五五一	(十)一、三七七	七三四	一、四四六三	(十)七二八	九	九六	(十)八七
砂糖	一、八二〇	一、四四九四	(一)三三六	一、六三四	一、六九四	(一)九四〇	五三四	三三五	(一)一九九
酒類	一五九	三七	(十)六八	一三一	二四八	(十)一一七	一四四	一三三	(一)二一
皮革類	一、二九〇	一、四四五	(十)一五五	一、一二九	一、一四二	(十)一二三	二九七	四九八	(十)二〇一
石油	四、五一〇	二、二三五	(一)二、二八五	四、六三九	二、七〇一	(一)一、九三八	二、一六二	一、六八七	(一)四七五
藥品類	九六九	一、二五八	(十)二八九	一、一〇四	九七七	(一)二一七	一九一	四七四	(十)二八三
綿織物	二〇九	五三八	(十)三二九	一五五	四一〇	(十)二六五	八二	二〇一	(十)一一九

毛織物	三、四九二	六、四七七（十）	二、九八五
紙類	九〇六	五九〇（一）	三二六
鐵條竿板	九一六	六八九（一）	三二七
他ノ金屬類	六二三	六二五（十）	一三
機械類	四、四三六	四、七二四（十）	二八八
其他雜品	一五、五一八	三、一六五（一）	三、三五三
計	三六、六六六	三五、一四五（一）	一、五二二

次に前記保稅倉庫に入出庫せし貨物の噸量を月別に依り、前年に對比すれば即ち左表の如し。

月別＼區別	入庫 大正十三年	入庫 大正十四年	入庫 (十)增減(一)	出庫 大正十三年	出庫 大正十四年	出庫 (十)增減(一)
一月	三、四五六噸	二、八七九（十）	五、七三七（十）	二、八五八	一、二四六	七三九
二月	二、八五八	八九五	七〇〇（一）	一九五	四六四	二二
三月	八、二五三	三二六	九五一（十）	六三	七二四	二六一
四月	五、八九六	八八八	六二六	七七（十）	六五五（一）	九一
五月	三、七〇四	一三	七七（十）	九一	七四六	三九六
六月	六、二九一	二八八	五、二二（十）	一、七六〇	三、〇八〇	二、六八四（一）
七月	四、七九四	三、三五三	一、二六五（十）	八四三	六、六九八	五、七五五（一）
八月	六、一〇三	一、五二二	三、三五三（一）	三、九九七	一七、〇七六	一五、三六六（一）
九月	一〇、七九七	三六、六六六	二三、一四五（一）	二、八五八	三、五九七	一、七一〇
十月	八、二七二	二、六〇五	五、六六七	六、八八三	六、九二	三八
十一月	九、三二八	二、七八八	六、五四〇（一）	八、八八三	六、一二七	二、七五六（一）
十二月	一三、四九八	七、九一八（一）	七、九一八（一）	五、七一九	七、一〇七（十）	一、四八八（一）
計	八三、三五〇	四、〇九五	七九、二五五	九三、七四九	八七、五〇五	六、二四四

第四節　假置場及出入貨物

大正十四年末に於ける當港竝に附近に散在する假置場は官私設を合せて一萬三十四坪にして、此の內官設に係るもの千二百二十坪、私設に屬するもの八千八百十四坪なり。之を昨年と比較すれば、私設一箇所減少せるも二箇所の新設を見る。坪數に於ては千七十二坪を增加せり。此の內譯左の如し。

區別	名稱	所在地	坪數 大正十三年	坪數 大正十四年	坪數 (十)增(一)減
官設	官設假置場	神戸稅關川崎波止場構內	一、三二〇坪	一、三二〇坪	—
私設假置場	ダンロップ極東護謨株式會社私設假置場	市內筒井町	一三四	一三四	—
	株式會社鈴木商店私設假置場	市內南本町三丁目	九〇	六八	（十）五六